

令和 5 年度
「県民幸福度アンケート」
調査結果報告書

令和 5 年 12 月

群馬県

目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査内容	2
3.	調査の設計	2
4.	集計・分析にあたって	2
5.	標本補正について	3
6.	回収率	5
7.	回答者の属性	7
	（1）性別	7
	（2）年代	7
	（3）職業	7
	（4）居住歴	8
	（5）居住年数	8
	（6）世帯構成	8
	（7）居住市町村	9
	（8）居住地域	10
	（9）世帯年収（税込み、ボーナスを含む）	10
	（10）婚姻状況（事実婚を含む）	10
	（11）子どもの有無（複数選択）	11
8.	回答者の属性（地域別）	12
	（1）性別	12
	（2）年代	13
	（3）職業	14
	（4）居住歴	15
	（5）居住年数	16
	（6）世帯構成	17
	（7）世帯年収（税込み、ボーナスを含む）	18
	（8）婚姻状況（事実婚を含む）	19
	（9）子どもの有無（複数選択）	20
II	調査結果	22
1.	「幸福」に関する考え方などについて	23
	（1）幸福実感について	23
	（2）満足感について	31
	（3）「生きがい」について	38
	（4）「仕事の充実」について	42
	（5）【参考】幸福感和満足感との関係	46
	（6）コロナ禍前と比較した満足感の変化	48
2.	『群馬県に対する気持ち』について	51
	（1）群馬県のよいところ	51

(2) 群馬県への誇り	56
(3) 今後の居留意向	59
3. 居住地域や社会状況等への所感（施策実感）について	62
(1) 施策実感について	62
(2) 【参考】施策実感と幸福実感との関係	70
(3) 【参考】満足感と施策実感との関係	72
4. 情報発信について	79
(1) 県政に関する情報の入手媒体	79
(2) 群馬県制作動画の視聴頻度	81
(3) アニメ「ぐんまちゃん」の認知度・視聴状況	83
5. デジタルトランスフォーメーション（DX）について	85
(1) デジタル化の推進意向	85
6. 新・群馬県総合計画について	87
(1) 『始動人』の認知度	87
(付) 調査票	89

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、「県民の幸福度の向上」に向けた取組を推進する中で、幸福を実感できる社会の実現に向けて各種施策を検討するにあたり、県民の「幸福」への考え方や意識、日常生活への満足感等を把握し、より良い県政運営につなげるため実施しました。

2. 調査内容

- (1) 質問項目（項目数：本質問 16 問（実質問数 81 問））
 - ア 県民の主観的幸福実感についての項目（本質問 7 問（実質問数 33 問））
 - イ 施策実感についての項目（本質問 1 問（実質問数 40 問））
 - ウ 特定の施策についての項目（本質問 8 問）
- (2) 回答者属性（項目数：10 問）

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 群馬県内全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の個人
- (3) 標本数 3,300 人
- (4) 抽出方法 選挙人名簿を用いた層化二段無作為抽出法
11 地域から 300 人ずつ
- (5) 調査方法 郵送配付、郵送・WEB アンケートシステムによる無記名回収
- (6) 調査期間 令和 5 年 9 月 11 日～10 月 13 日

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」は回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合があります。
例：回答者総数 3 人で、「はい」：1 人（33.3%）、「いいえ」 1 人（33.3%）、「無回答」：1 人（33.3%）の場合、合計は 100%となりません。
- (3) 複数回答の場合、回答者総数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が 100%を超えることがあります。
- (4) 本文及び図表中、意味を損なわない範囲で簡略化した選択肢があります。
- (5) 属性別分析の記載については、「無回答者」等は割愛しています。

5. 標本補正について

本調査では、地域別の状況把握ができるよう、各地域一律 300 標本を抽出しています。しかし、このままでは実際の人口との歪みが生じるため、県全体のアンケート結果の集計・分析にあたり、各地域の回答結果を単純に合計するのではなく、回答者の居住地の偏りを補正し、回答者の構成が県全体の縮図となるよう、地域別の集計ウエイト（地域ウエイト）を乗じて規正しました。（地域区分は地域分布図を参照）

全体（全県）集計結果は、規正標本数を基に回答者の割合（百分率%）を補正しています。

なお、本章（Ⅰ 調査概要）の 7. 回答者の属性の頁、及び、8. 回答者の属性（地域別）の頁については、全体（全県）集計結果への補正を行わない値（通常集計）を以って掲載しています。

加えて、規正標本数は乗算結果の小数点以下第 1 位を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合があります。

地域別の有効回収数と「地域ウエイト」（推定母集団構成比÷有効回収構成比）

地域名		推定母集団 (18歳以上人口数)		有効回収数		地域ウエイト
		実数(人)	構成比(%) (A)	実数(人)	構成比(%) (B)	(A)／(B)
1	前橋地域	265,465	16.5	130	8.9	1.8543
2	北群馬・渋川地域	93,249	5.8	125	8.6	0.6774
3	佐波伊勢崎地域	203,874	12.7	140	9.6	1.3224
4	高崎・安中地域	356,126	22.2	139	9.5	2.3266
5	多野藤岡地域	55,846	3.5	127	8.7	0.3993
6	甘楽・富岡地域	57,417	3.6	130	8.9	0.4011
7	吾妻地域	44,084	2.7	136	9.3	0.2944
8	利根沼田地域	64,992	4.0	143	9.8	0.4127
9	太田地域	182,774	11.4	130	8.9	1.2767
10	桐生・みどり地域	131,442	8.2	123	8.4	0.9704
11	邑楽館林地域	150,317	9.4	135	9.3	1.0111
合計		1,605,586	100.0	1,458	100.0	—
無回答		—	—	22	—	1.0000

※18歳以上人口数出典：群馬県年齢別人口統計調査結果（令和4年10月1日現在、年齢不詳は除く）

「規正標本数」（個々の回答者に「地域ウエイト」を乗じて規正した標本数）

地域	合計	性別		年代					
		男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	1,480	632	815	125	163	246	285	317	326
	100.0	42.7	55.0	8.5	11.0	16.6	19.2	21.4	22.0
前橋地域	241	91	148	24	26	32	41	54	65
	100.0	37.7	61.5	10.0	10.8	13.1	16.9	22.3	26.9
北群馬・渋川地域	85	38	46	9	14	14	15	26	7
	100.0	44.8	54.4	11.2	16.0	16.0	17.6	30.4	8.8
佐波伊勢崎地域	185	86	95	17	17	44	33	32	42
	100.0	46.4	51.4	9.3	9.3	23.6	17.9	17.1	22.9
高崎・安中地域	323	135	186	26	30	58	65	65	79
	100.0	41.7	57.6	7.9	9.4	18.0	20.1	20.1	24.5
多野藤岡地域	51	22	27	4	6	8	14	12	7
	100.0	43.3	52.8	7.9	11.8	16.5	26.8	22.8	14.2
甘楽・富岡地域	52	22	30	4	7	10	10	11	9
	100.0	41.5	57.7	8.5	13.1	20.0	20.0	20.8	17.7
吾妻地域	40	17	22	1	2	6	9	11	11
	100.0	43.4	55.9	1.5	5.1	15.4	23.5	26.5	27.9
利根沼田地域	59	28	30	5	5	10	13	9	17
	100.0	46.9	51.0	7.7	8.4	17.5	22.4	14.7	29.4
太田地域	166	69	96	19	33	32	32	40	10
	100.0	41.5	57.7	11.5	20.0	19.2	19.2	23.8	6.2
桐生・みどり地域	119	56	63	4	10	16	27	24	38
	100.0	47.2	52.8	3.3	8.1	13.8	22.8	20.3	31.7
邑楽館林地域	136	68	68	12	13	15	24	32	39
	100.0	49.6	49.6	8.9	9.6	11.1	17.8	23.7	28.9

※「地域（市町村）」「性別」「年代」いずれか不明の人は補正除外としました。

6. 回収率

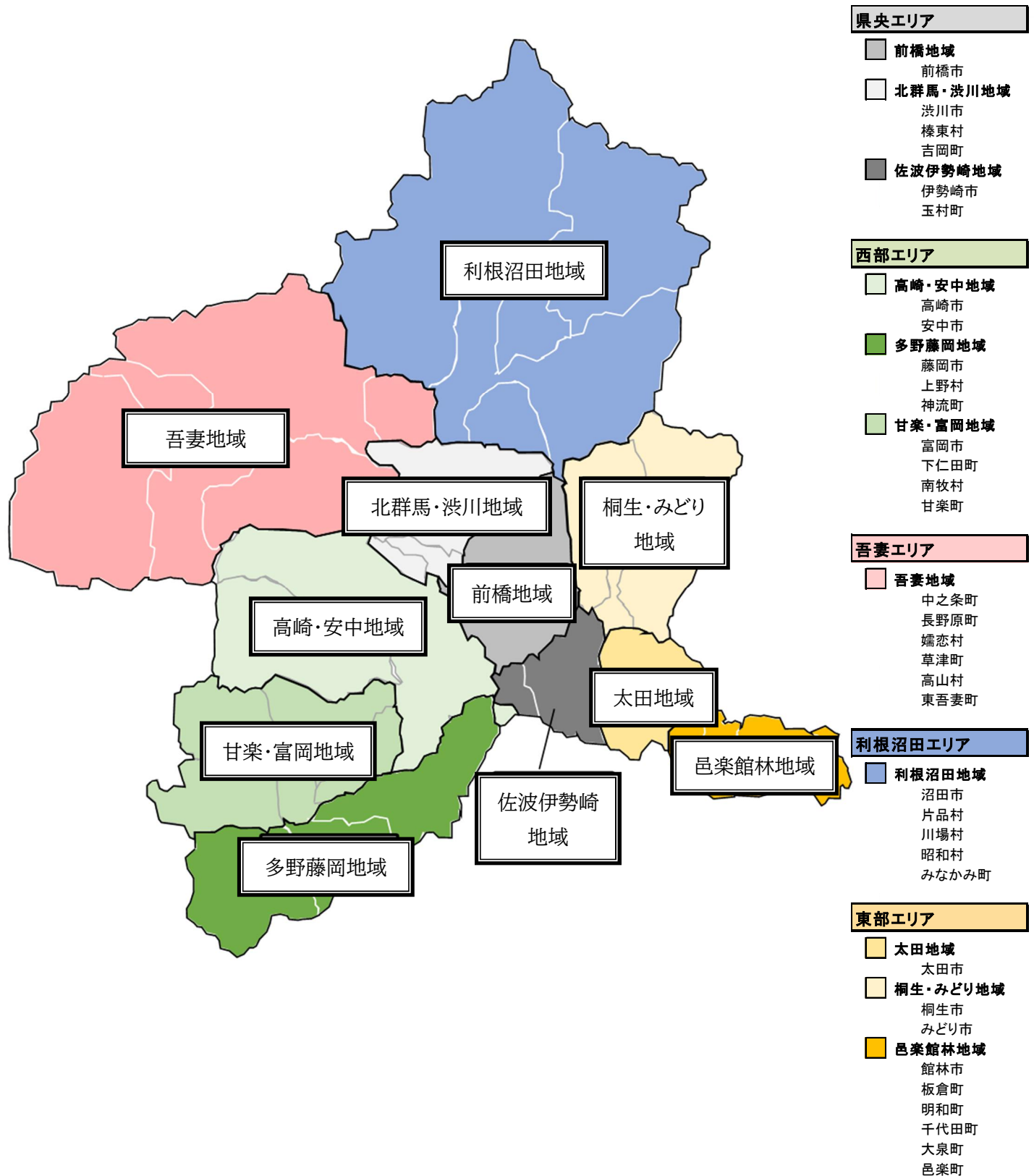
(1) 有効回収数：1,480 件

郵送による回収数：973 件、
 WEB アンケートシステムによる回収数：507 件

(2) 有効回収率：44.8%

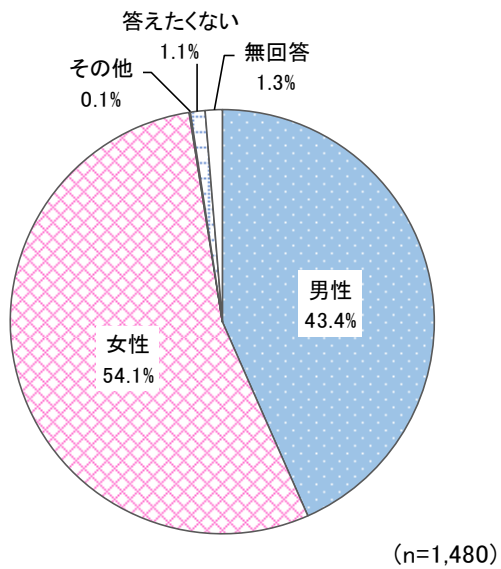
	地域	市町村	有効回収数	回収率
1	前橋地域	前橋市	130	43.3
2	北群馬・渋川地域	渋川市、榛東村、吉岡町	125	41.7
3	佐波伊勢崎地域	伊勢崎市、玉村町	140	46.7
4	高崎・安中地域	高崎市、安中市	139	46.3
5	多野藤岡地域	藤岡市、上野村、神流町	127	42.3
6	甘楽・富岡地域	富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町	130	43.3
7	吾妻地域	中之条町、長野原町、嬬恋村、草津町、高山村、東吾妻町	136	45.3
8	利根沼田地域	沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町	143	47.7
9	太田地域	太田市	130	43.3
10	桐生・みどり地域	桐生市、みどり市	123	41.0
11	邑楽館林地域	館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町	135	45.0
居住地域無回答			22	
合計			1,480	44.8

【地域分布図】

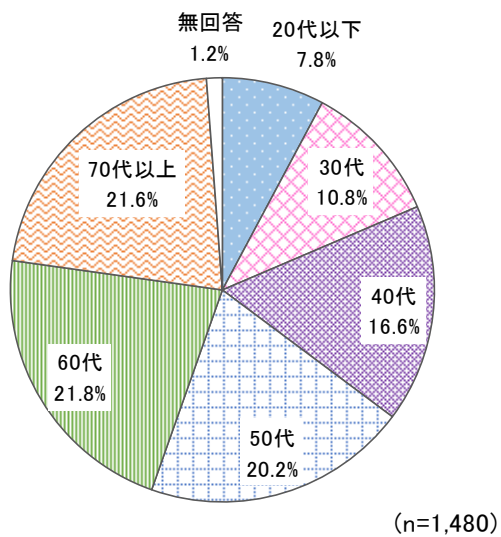


7. 回答者の属性

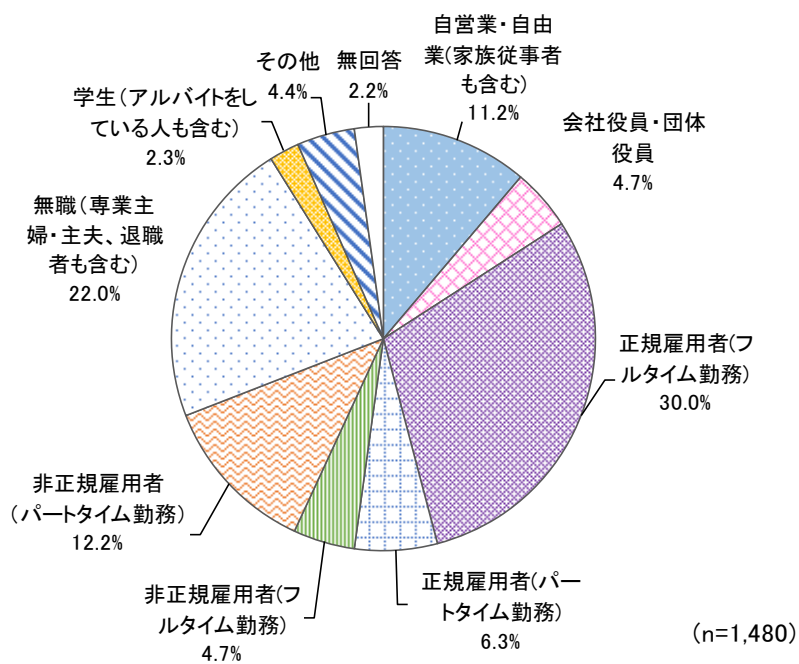
(1) 性別



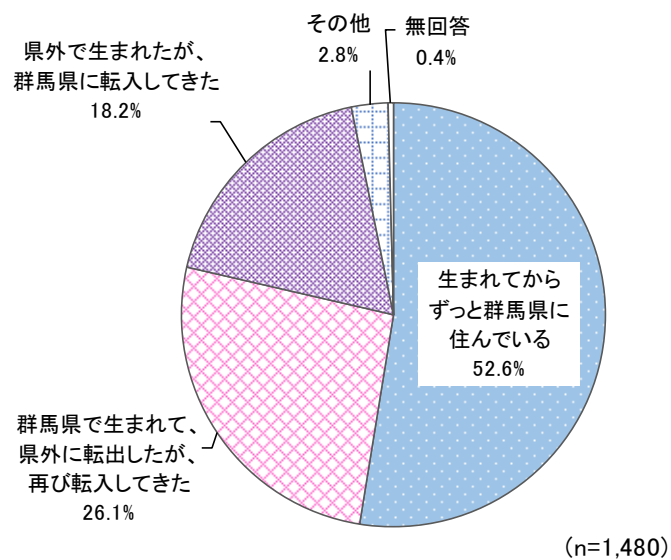
(2) 年代



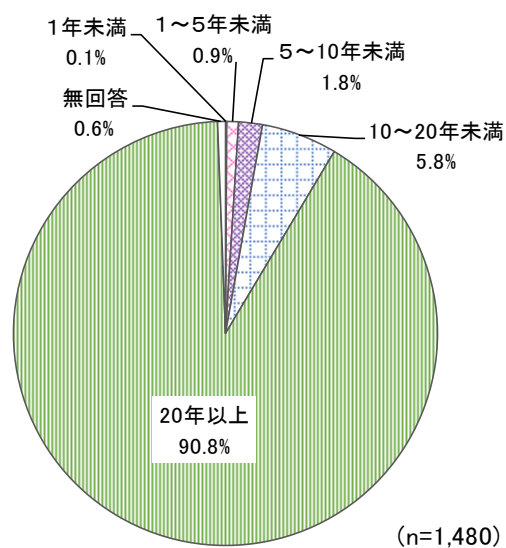
(3) 職業



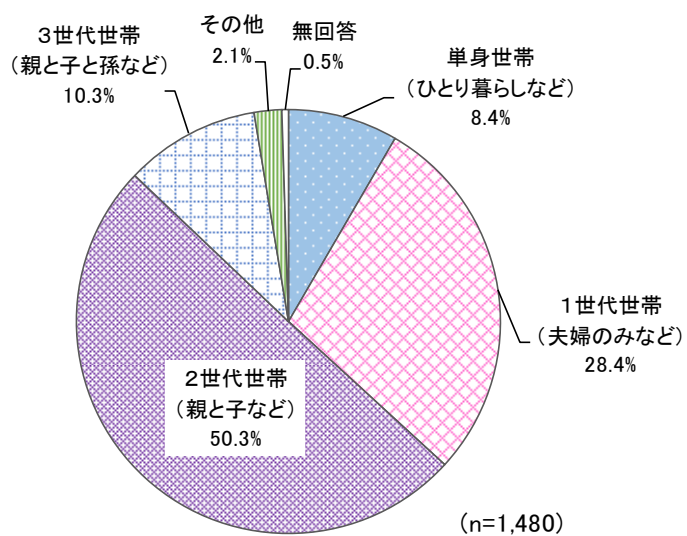
(4) 居住歴



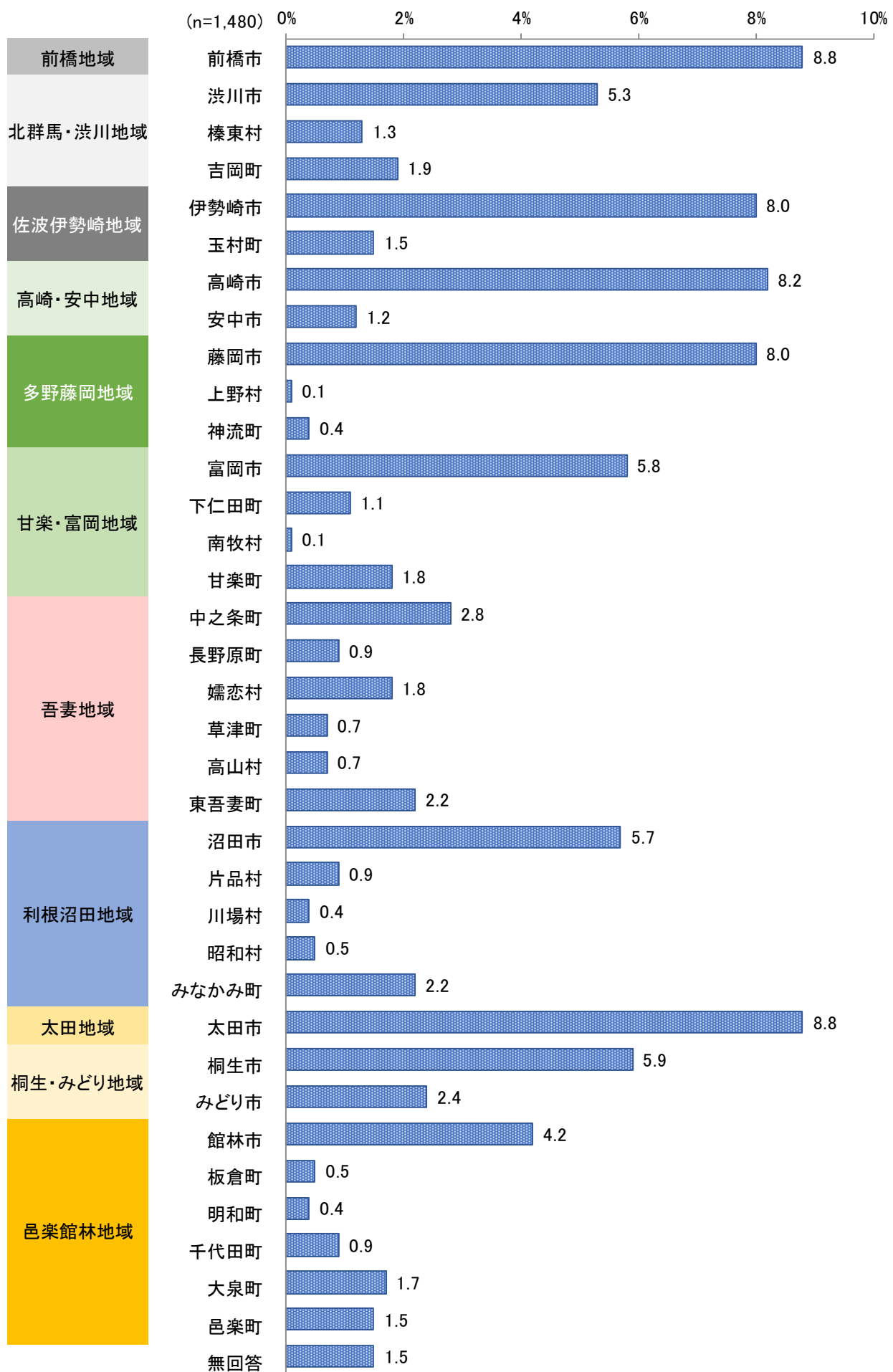
(5) 居住年数



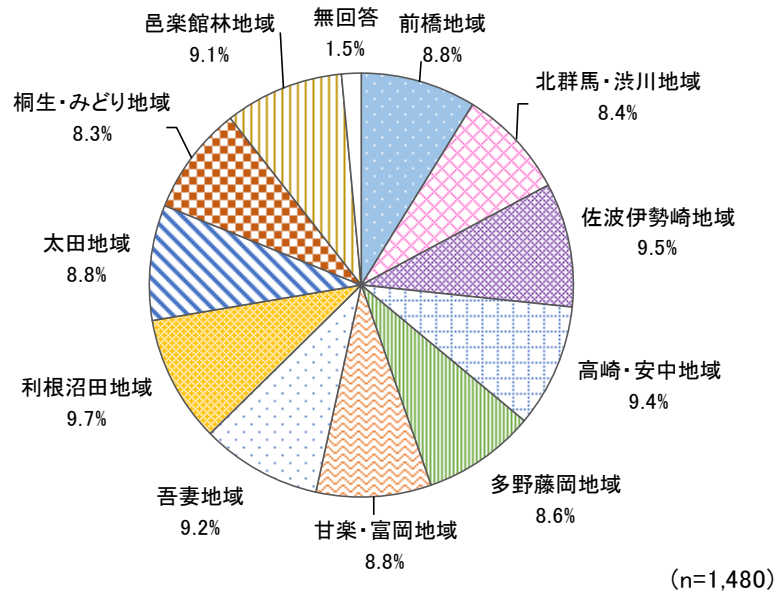
(6) 世帯構成



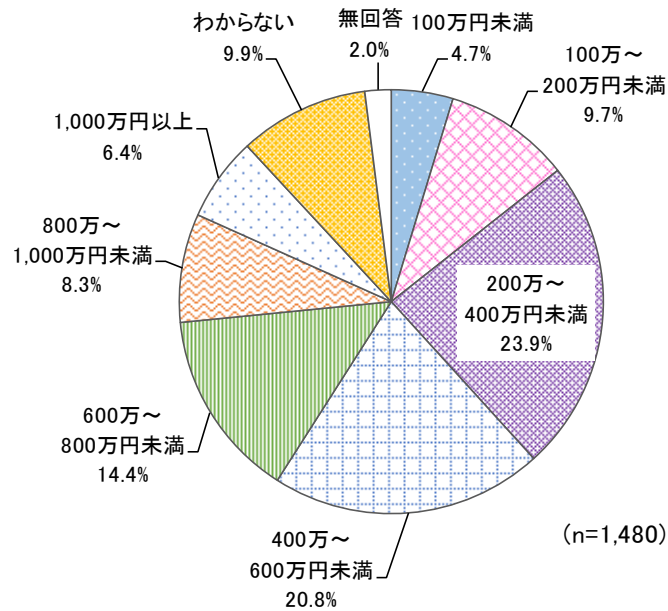
(7) 居住市町村



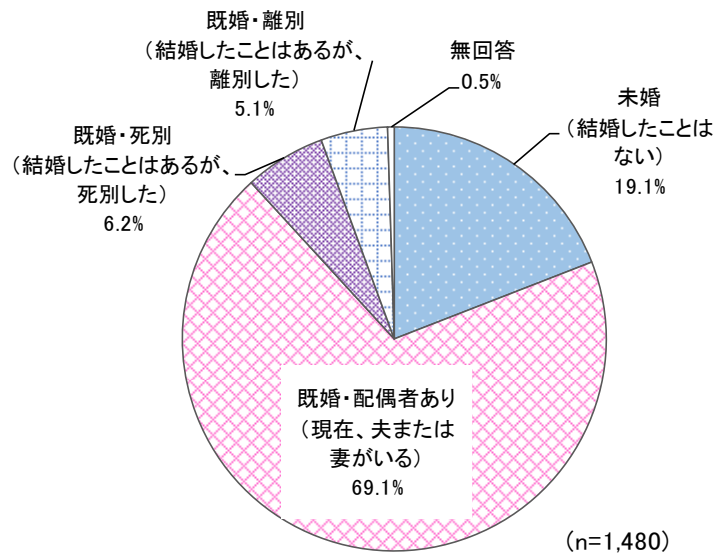
(8) 居住地域



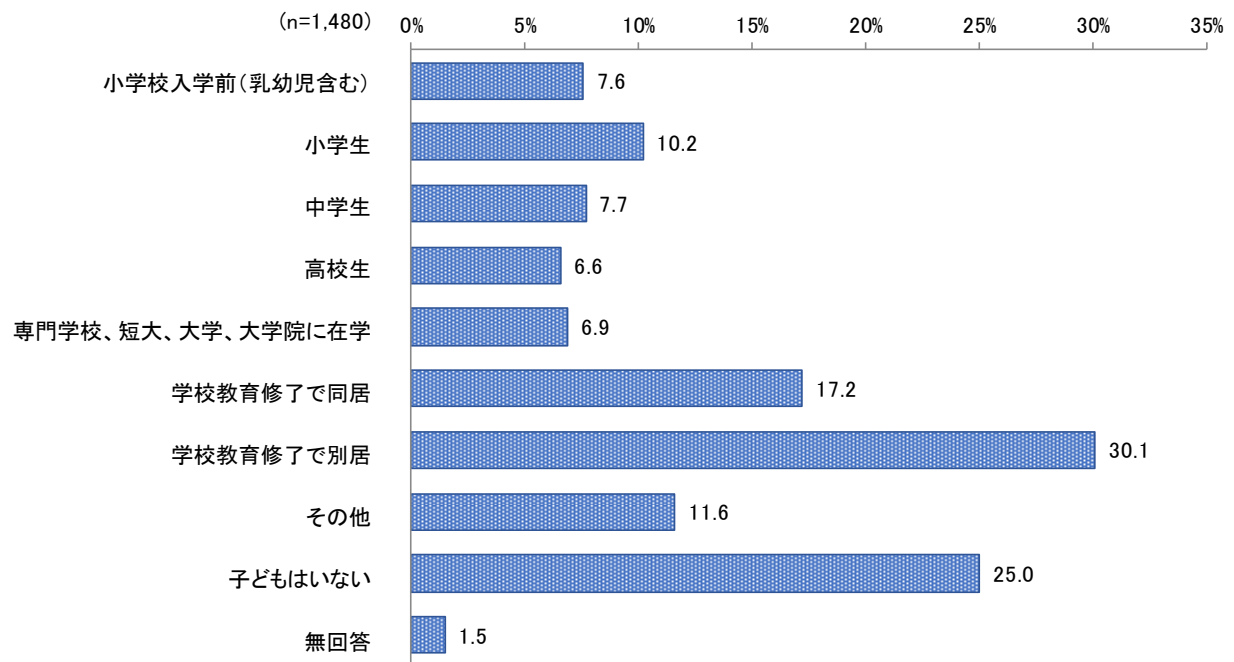
(9) 世帯年収（税込み、ボーナスを含む）



(10) 婚姻状況（事実婚を含む）

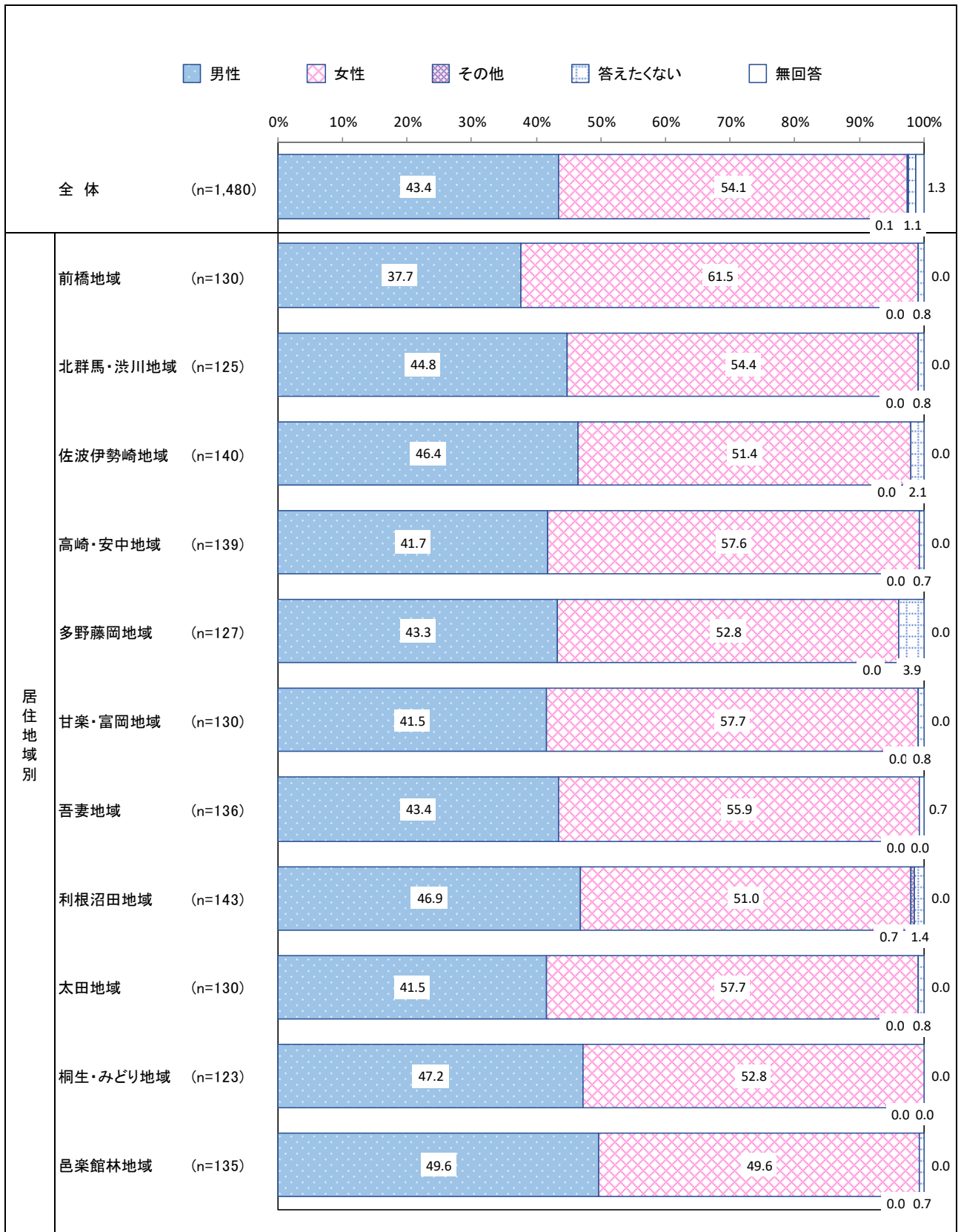


(11) 子どもの有無（複数選択）

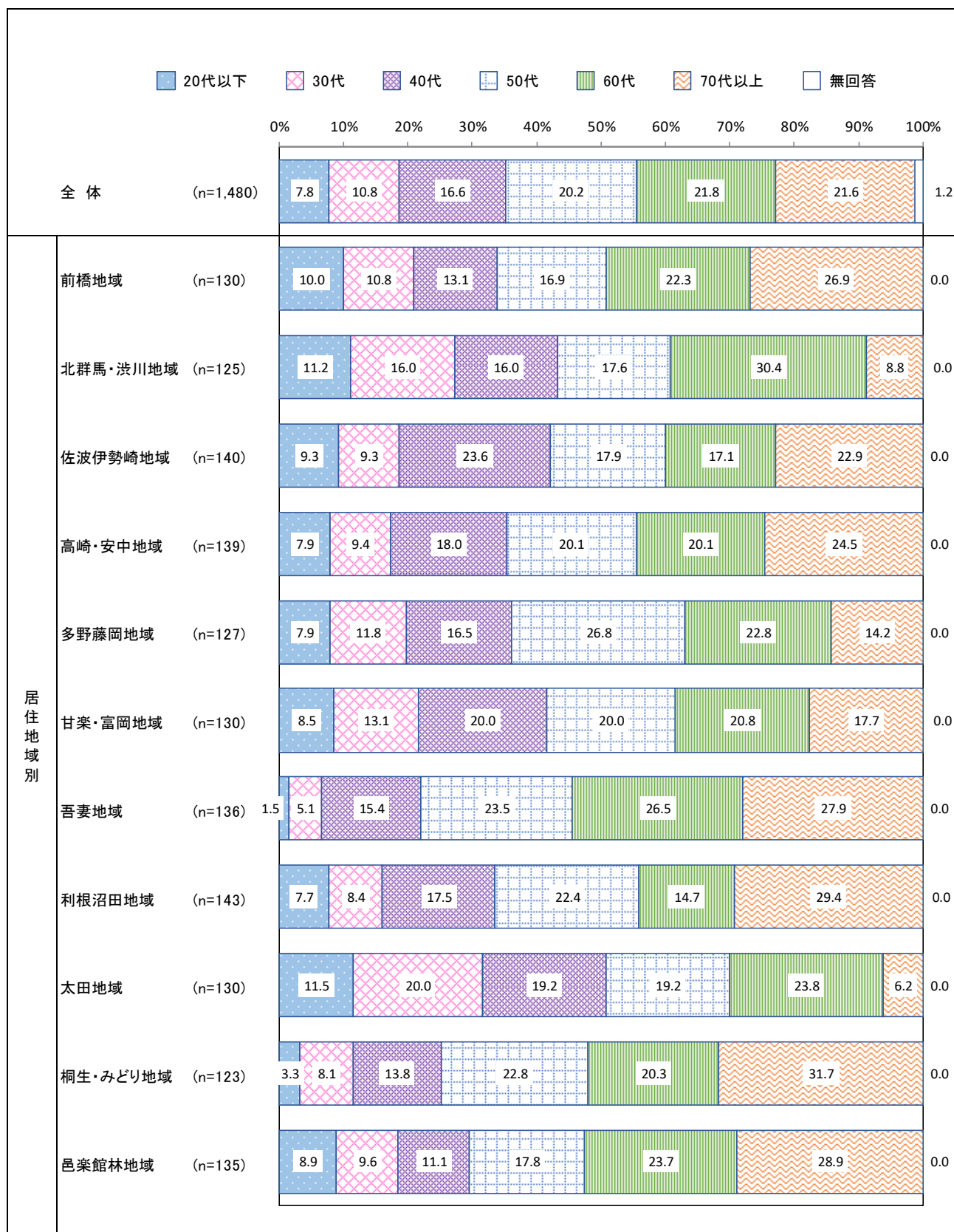


8. 回答者の属性（地域別）

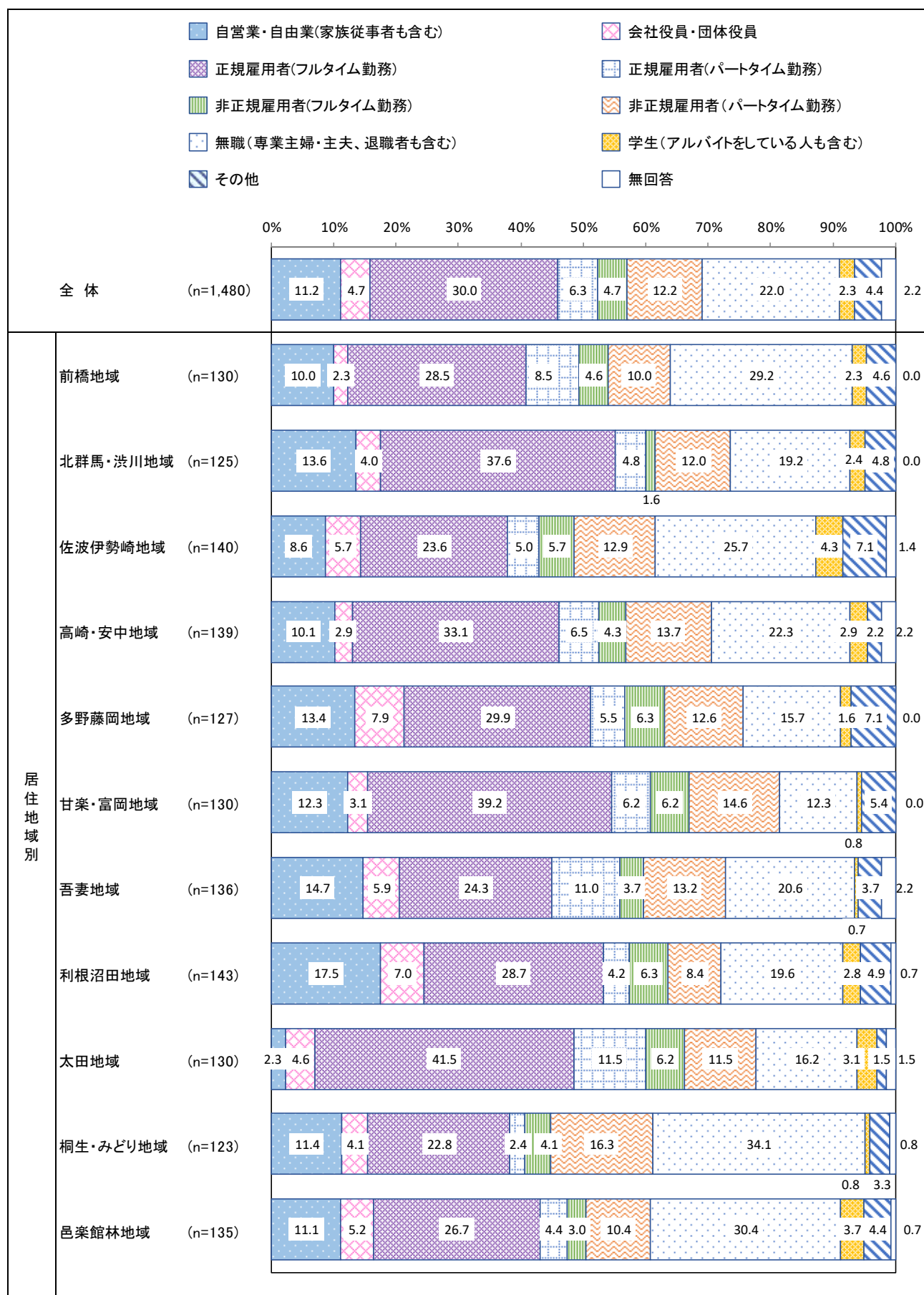
（１）性別



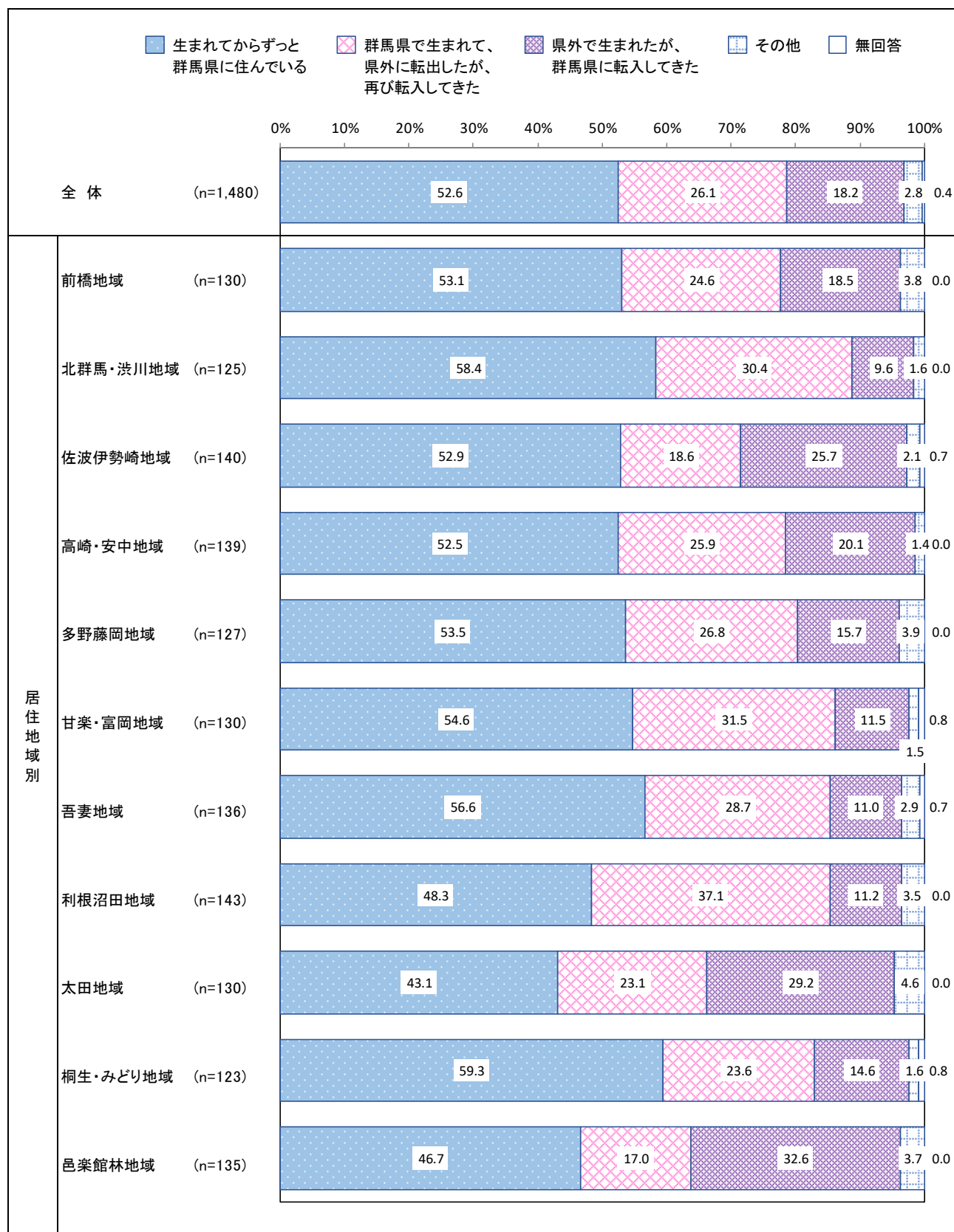
(2) 年代



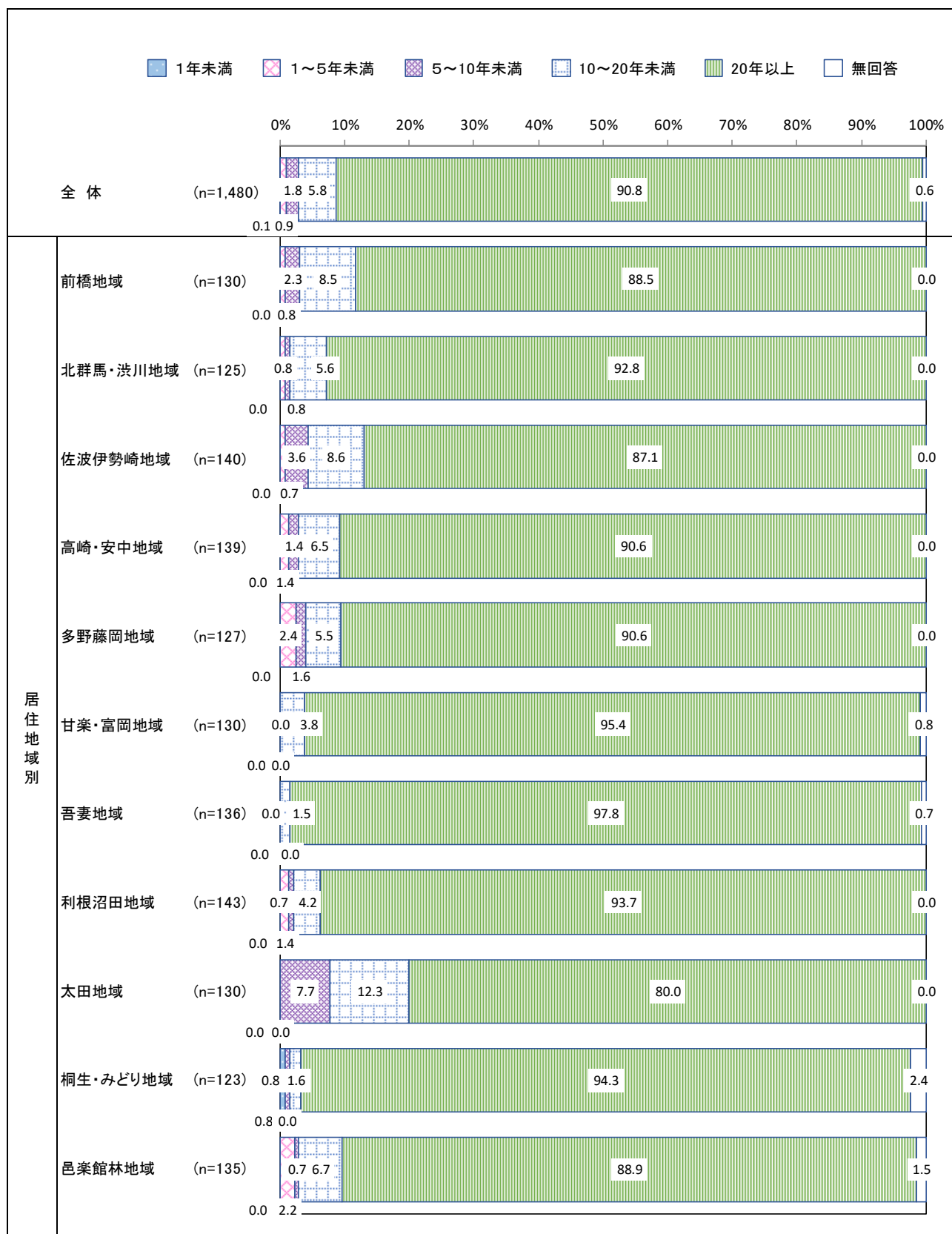
(3) 職業



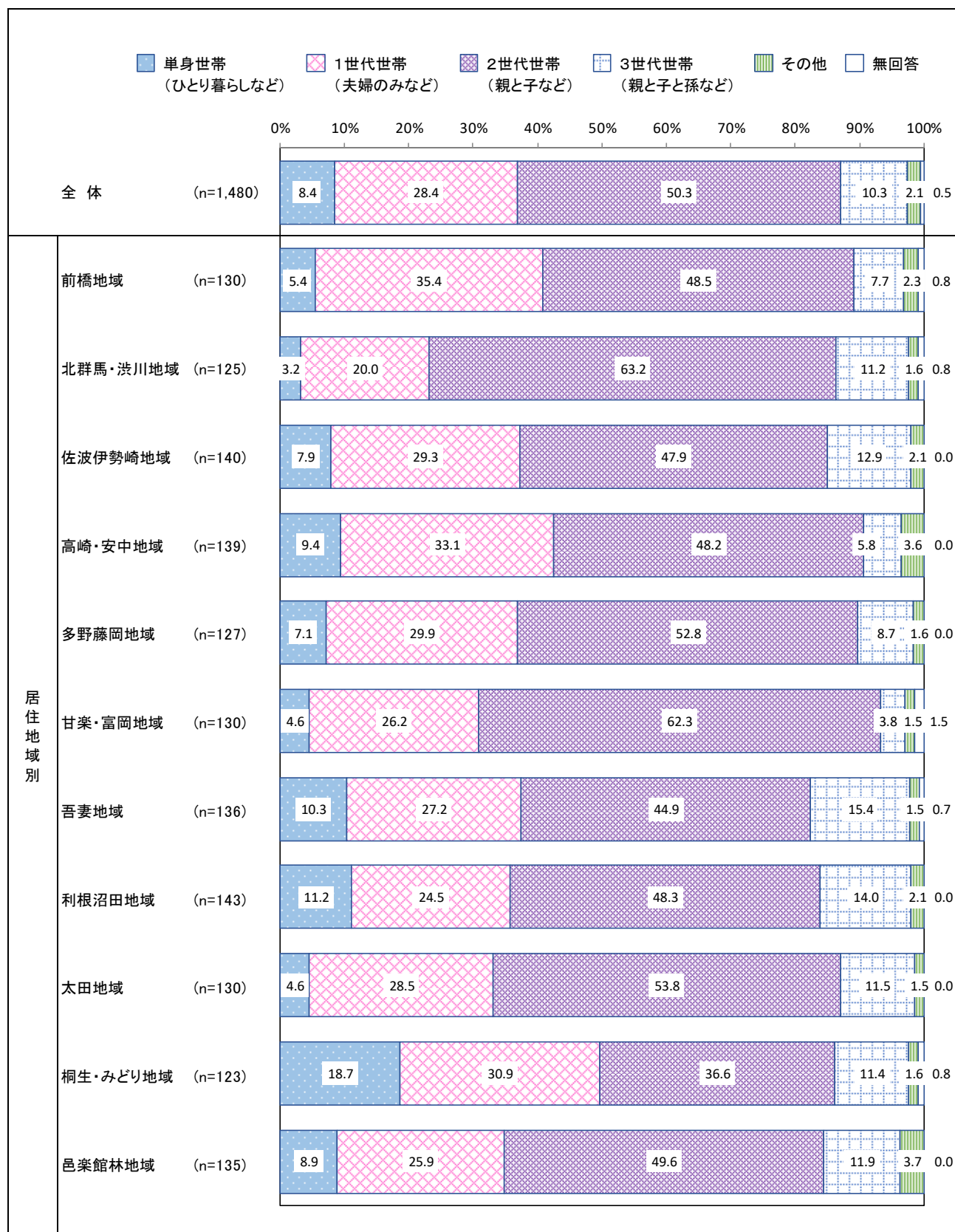
(4) 居住歴



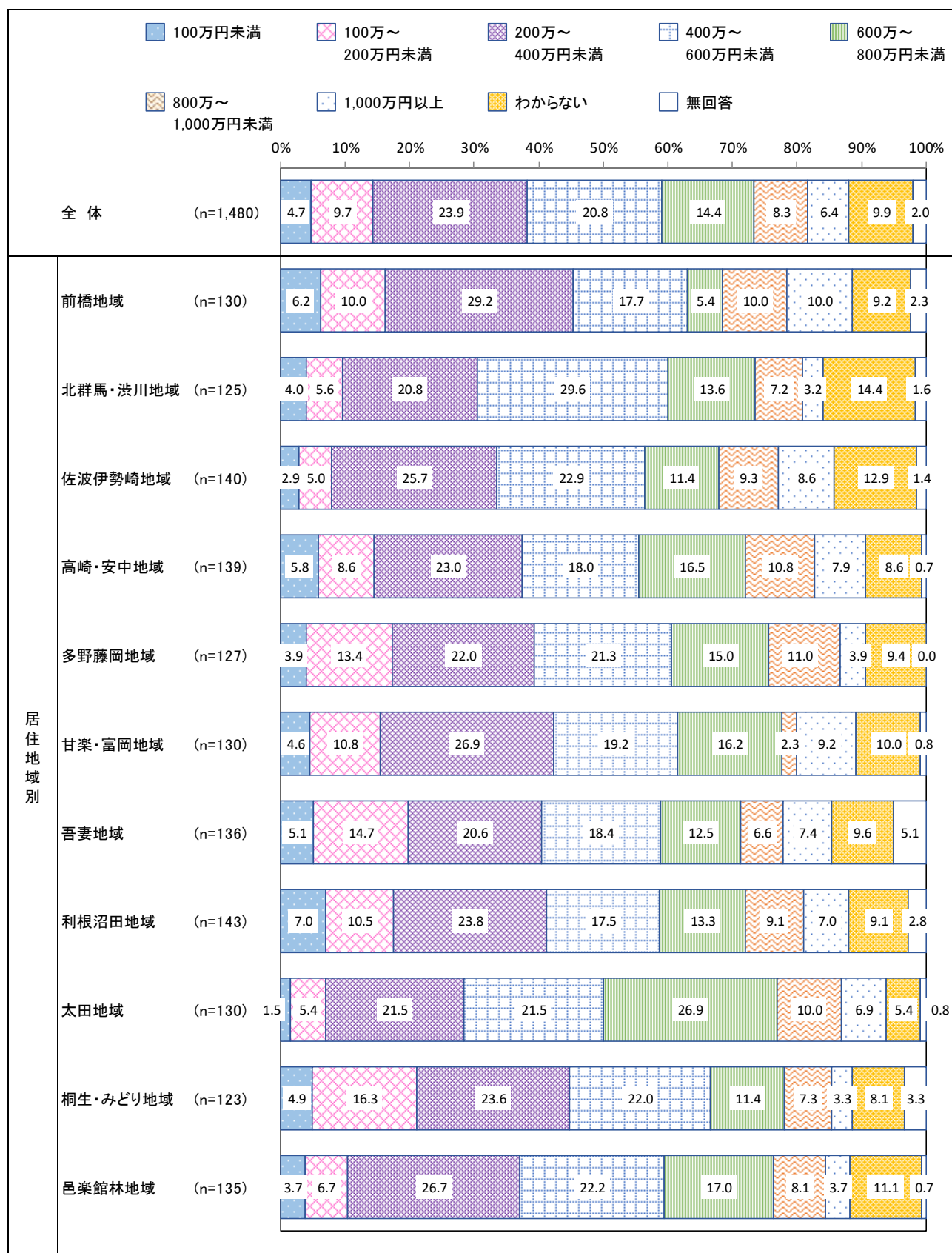
(5) 居住年数



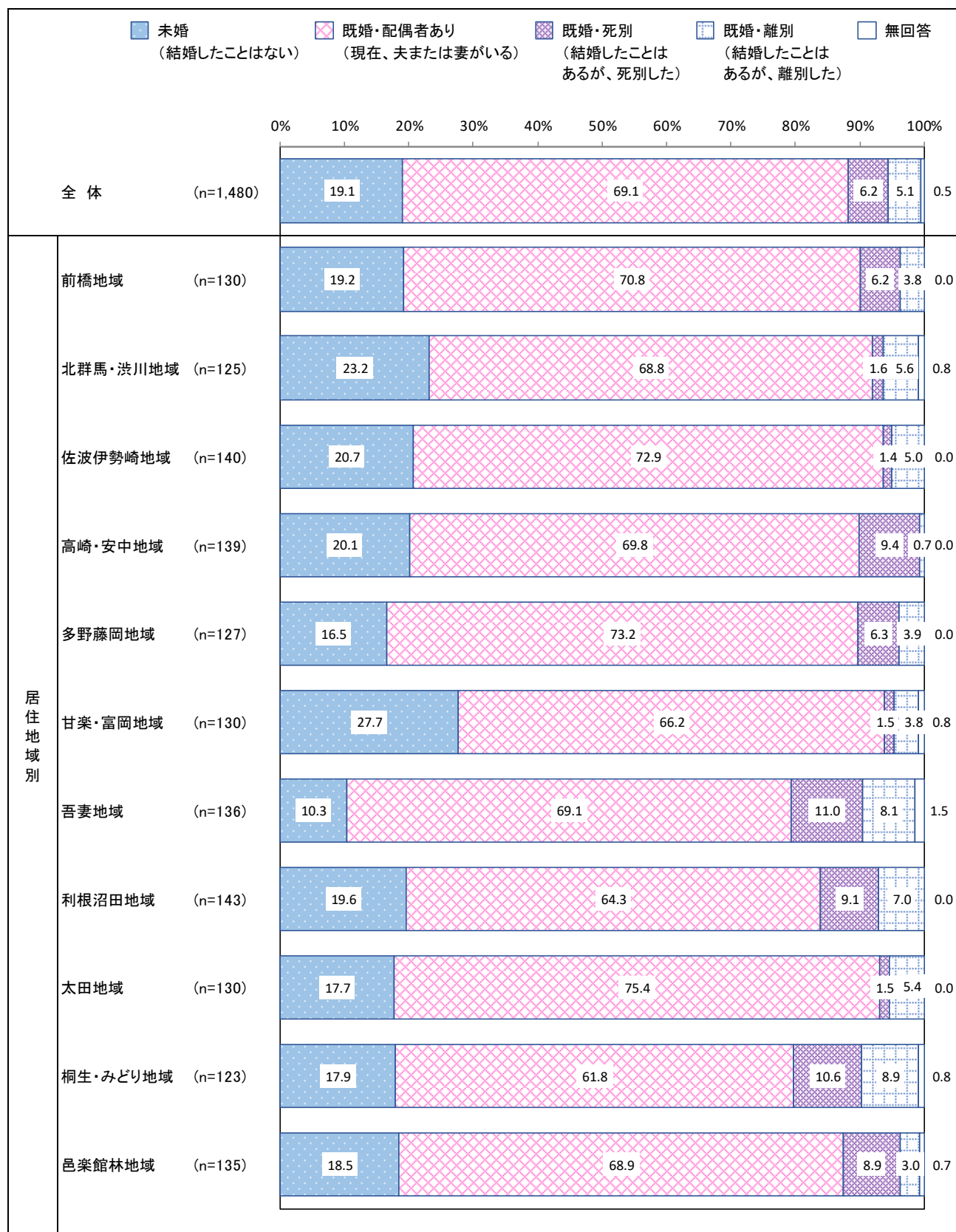
(6) 世帯構成



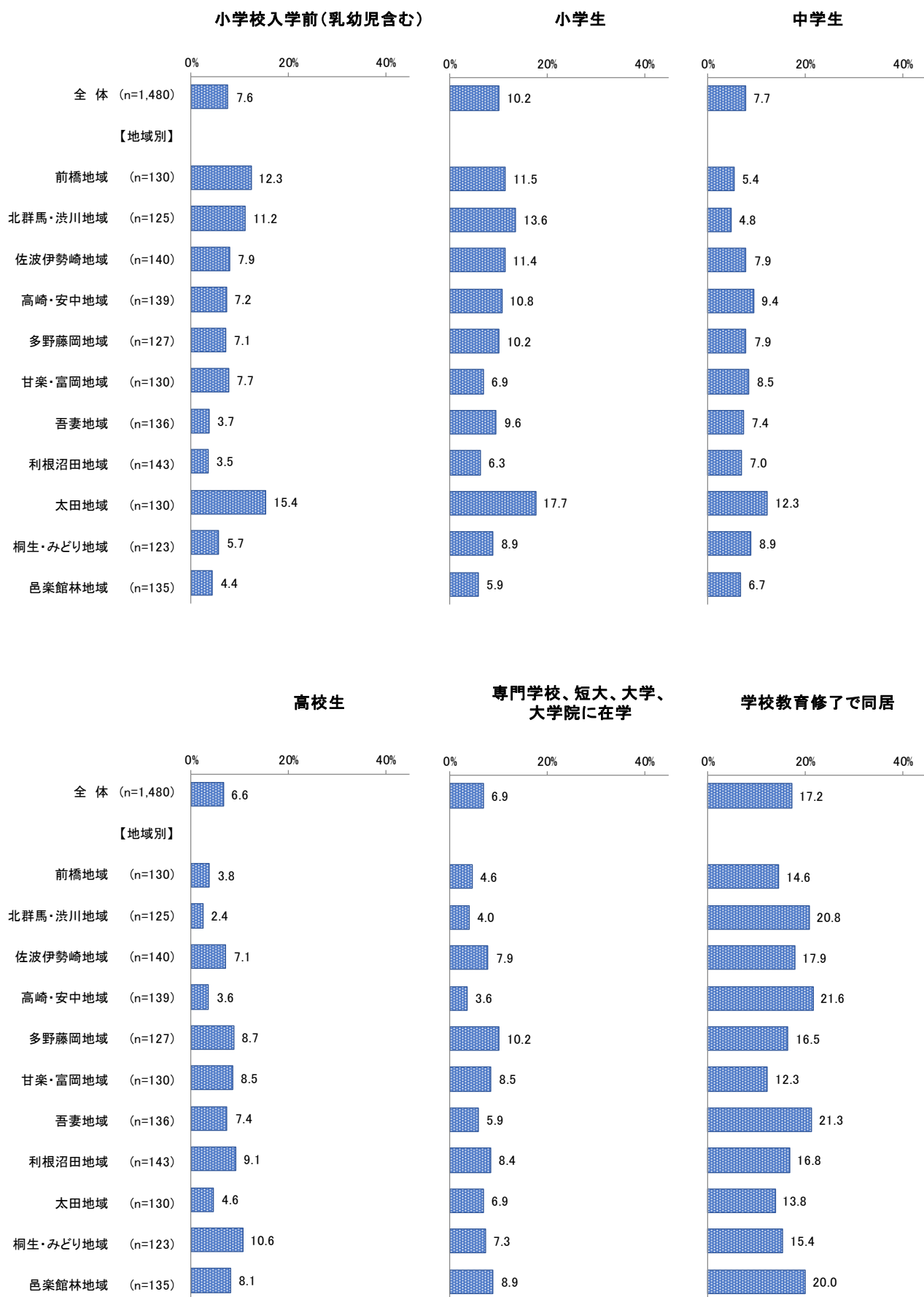
(7) 世帯年収（税込み、ボーナスを含む）

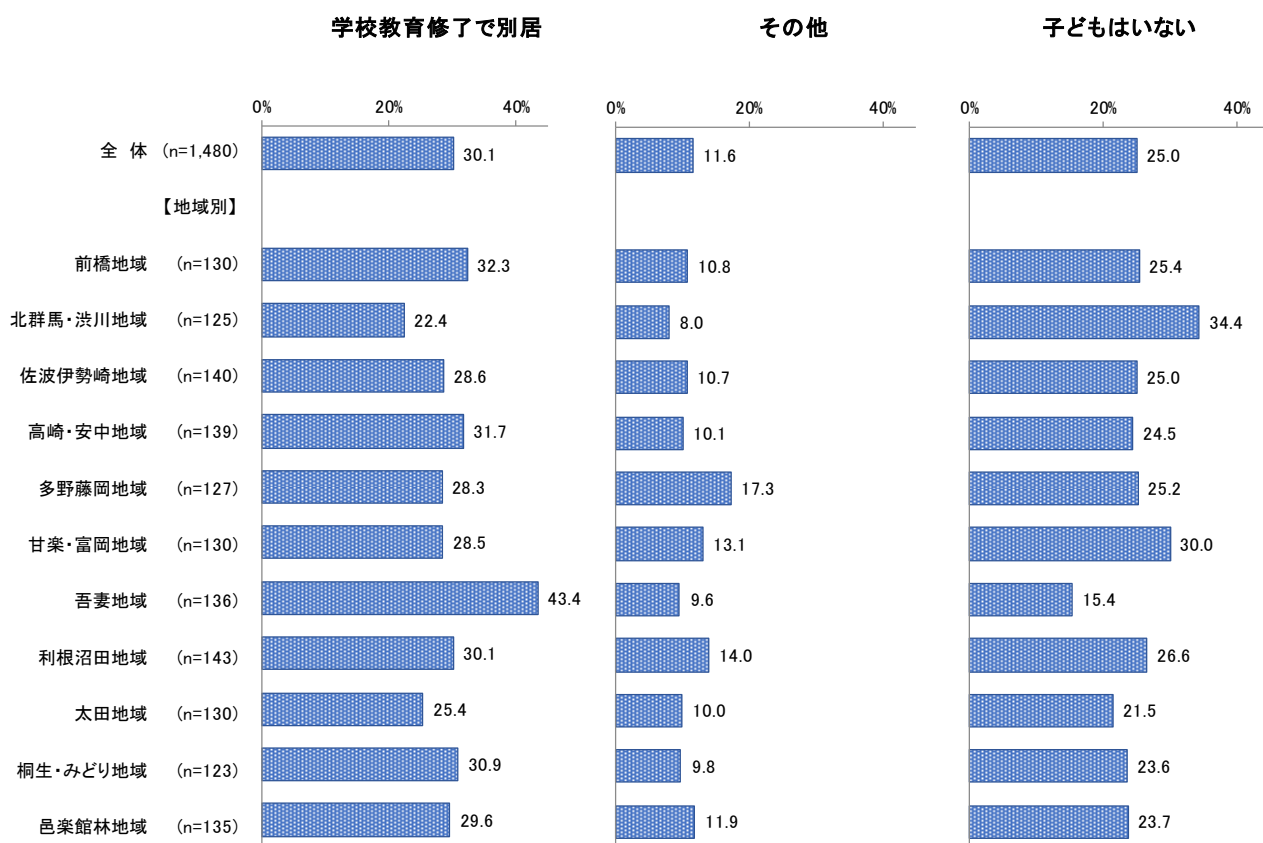


(8) 婚姻状況（事実婚を含む）



(9) 子どもの有無（複数選択）





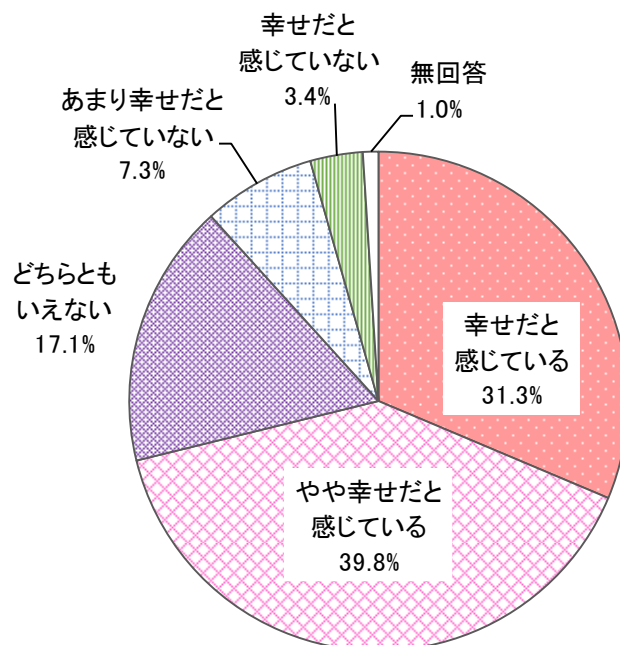
II 調査結果

1. 「幸福」に関する考え方などについて

(1) 幸福実感について

① 属性別にみた幸福実感

Q あなたは現在、どの程度幸せだと感じていますか。最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ)



(n=1,480)

— 『幸せだと感じている』は7割以上 —

【全体結果】

「幸せだと感じている」(31.3%)と「やや幸せだと感じている」(39.8%)を合わせた『幸せだと感じている』(71.1%)は7割以上となっています。「あまり幸せだと感じていない」(7.3%)と「幸せだと感じていない」(3.4%)を合わせた『幸せだと感じていない』(10.7%)は1割台となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、『幸せだと感じている』は4.3ポイント増加、『幸せだと感じていない』は2.3ポイント減少しています。

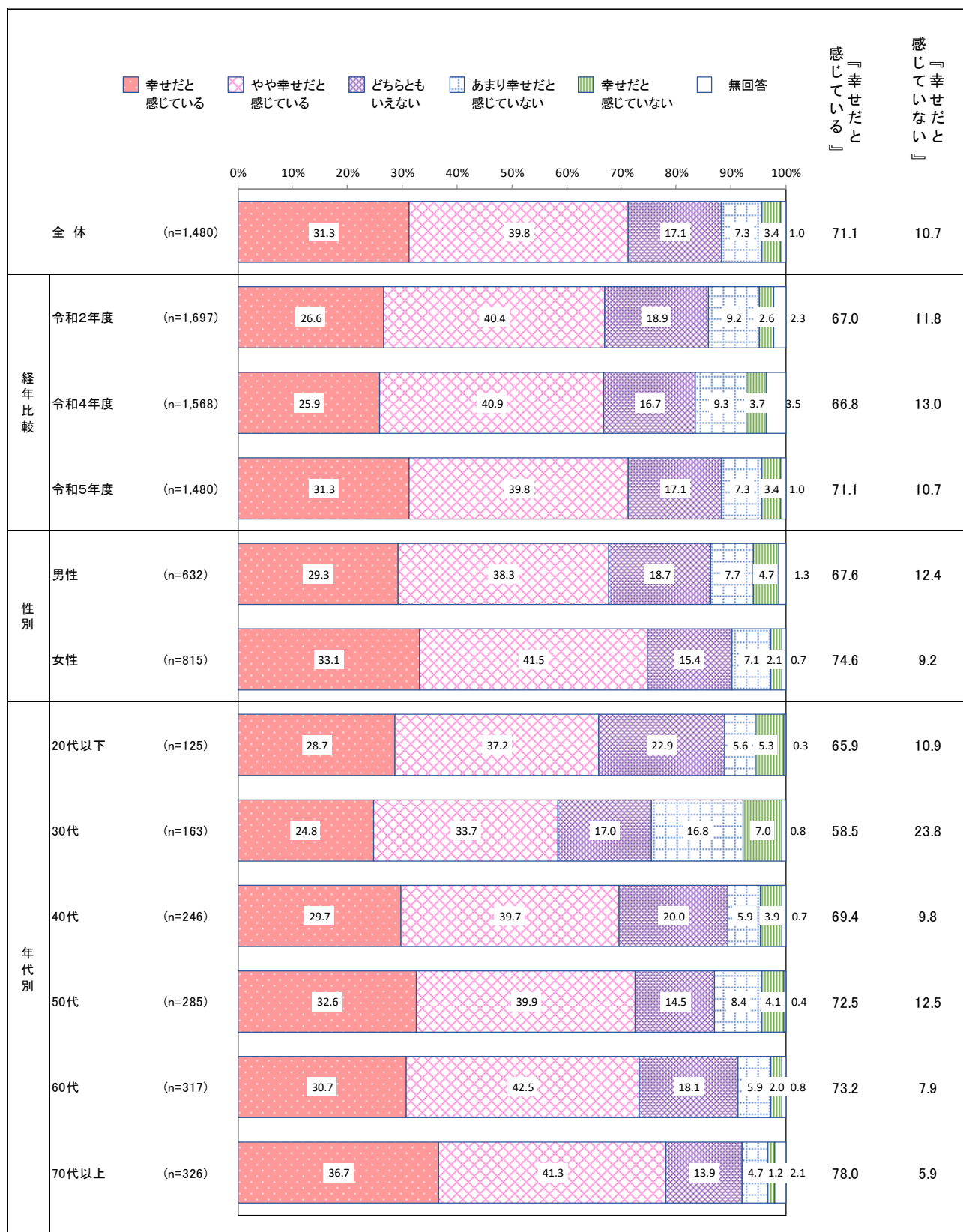
【属性別結果】

ア 性別

『幸せだと感じている』は、男性(67.6%)に比べて女性(74.6%)で高くなっています。

イ 年代別

『幸せだと感じている』は、70代以上(78.0%)で最も高く、60代(73.2%)、50代(72.5%)でいずれも7割台となっています。また、20代以下と40代は6割台、30代は5割台となっています。



② 幸福実感の経年変化

幸福実感の平均得点を算出し、令和2年度調査、前回調査（令和4年度）からの変化を分析しました。

《平均得点の算出方法》

平均得点については、「幸せだと感じている」を100点、「やや幸せだと感じている」を75点、「どちらともいえない」を50点、「あまり幸せだと感じていない」を25点、「幸せだと感じていない」を0点とし、合計値を「幸せだと感じている」から「幸せだと感じていない」の回答数の合計で除して算出しました。平均得点が高いほど、幸福実感が高いといえます。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しています。

※1 平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{「幸せだと感じている」} \times 100 + \text{「やや幸せだと感じている」} \times 75 + \\ & \quad \text{「どちらともいえない」} \times 50 + \text{「あまり幸せだと感じていない」} \times 25 + \\ & \quad \text{「幸せだと感じていない」} \times 0) \div 5 \text{つの選択肢の回答数合計} \end{aligned}$$

※2 平均得点の算出例

「幸せだと感じている」100人、「やや幸せだと感じている」75人、「どちらともいえない」200人、「あまり幸せだと感じていない」50人、「幸せだと感じていない」25人の場合

$$\frac{100 \text{人} \times 100 \text{点} + 75 \text{人} \times 75 \text{点} + 200 \text{人} \times 50 \text{点} + 50 \text{人} \times 25 \text{点} + 25 \text{人} \times 0 \text{点}}{100 \text{人} + 75 \text{人} + 200 \text{人} + 50 \text{人} + 25 \text{人}} \div 59.72$$

この場合、平均得点は59.7点となります

《統計的有意差検定について》

さらに、令和2年度及び令和4年度の幸福実感平均得点と、令和5年度の平均得点の間に、統計的に意味のある差があるかどうかを検証するため、統計的有意差検定を行いました（各年度アンケートと令和5年度アンケートの平均得点には差がないとする帰無仮説を検定）。有意水準を1%、5%、10%とし、どの水準において有意となるか検証しました。

※3 統計的有意差検定について

調査結果から得られた値の差が、統計的に信頼できるものであるのか、もしくは偶然のものであるのかを判定する方法です。ここでは、各年度アンケートと、令和5年度アンケートの平均得点には差がないという仮説（帰無仮説）を検証し、統計的に有意な差といえるかを判定しました。

※4 有意水準の考え方

帰無仮説を棄却し、過年度アンケートと、令和5年度アンケートの平均得点に差があると判断する基準となる確率です。

有意水準1%の場合は、帰無仮説が正しいと判定される確率が1%以下であると解釈することができます。有意水準の数値が小さいほど、2つの値の差が偶然とは考えにくく、有意な差があると判断されます（有意水準の値が小さいほどより厳密に判断します）。

≪分析結果≫

結果は以下のとおりです。

【令和２年度との比較】

幸福実感平均得点		差 (R5-R2)	P値	有意水準 統計的な有意差が認められる場合に「○」		
令和2年度	令和5年度			1%	5%	10%
70.3	72.3	2.0	0.030	—	○	○

【令和４年度との比較】

幸福実感平均得点		差 (R5-R4)	P値	有意水準 統計的な有意差が認められる場合に「○」		
令和4年度	令和5年度			1%	5%	10%
69.7	72.3	2.6	0.007	○	○	○

- 令和２年度、令和４年度調査との比較の結果、令和５年度の幸福実感には有意な変化がみられた —

令和５年度の幸福実感平均得点は72.3点であり、令和２年度より2.0ポイント、令和４年度より2.6ポイントそれぞれ増加しています。また、統計的有意差検定の結果、令和２年度では有意水準5%、10%、令和４年度では有意水準1%、5%、10%において、それぞれ有意差が認められました。

③ 幸せかどうかを判断する際に重視する事項

現在及び10年後に幸せかどうかを判断する際に重視する事項に関し、14項目の回答率をランキング化しました。回答率が高いほど、「重視度」が高い項目です。

【全体結果】

現在幸せかどうかを判断する際の重視度に比べ10年後に幸せかどうかを判断する際の重視度が高くなっている項目は、「健康状況」(61.8%→78.3%)、「家計の状況(所得)」(43.7%→58.5%)、「生きがい」(13.2%→19.0%)、「地域コミュニティとの関係」(2.9%→4.1%)、「生活環境(居住・福祉・教育環境など)」(16.3%→17.0%)、「精神的なゆとり」(20.8%→21.0%)、となっています。

現在幸せかどうかを判断する際の重視度

順位	項目	回答率 (%)
1	健康状況	61.8
2	家族関係	51.8
3	家計の状況(所得)	43.7
4	自由な時間・充実した余暇	23.2
5	精神的なゆとり	20.8
6	就業状況(仕事の有無・安定)	17.4
7	生活環境(居住・福祉・教育環境など)	16.3
8	友人関係	13.3
9	生きがい	13.2
10	職場の人間関係	6.5
11	仕事の充実度	5.6
12	地域の治安・防災体制	3.6
13	地域コミュニティとの関係	2.9
14	地域の自然・歴史・文化	2.2

10年後に幸せかどうかを判断する際の重視度

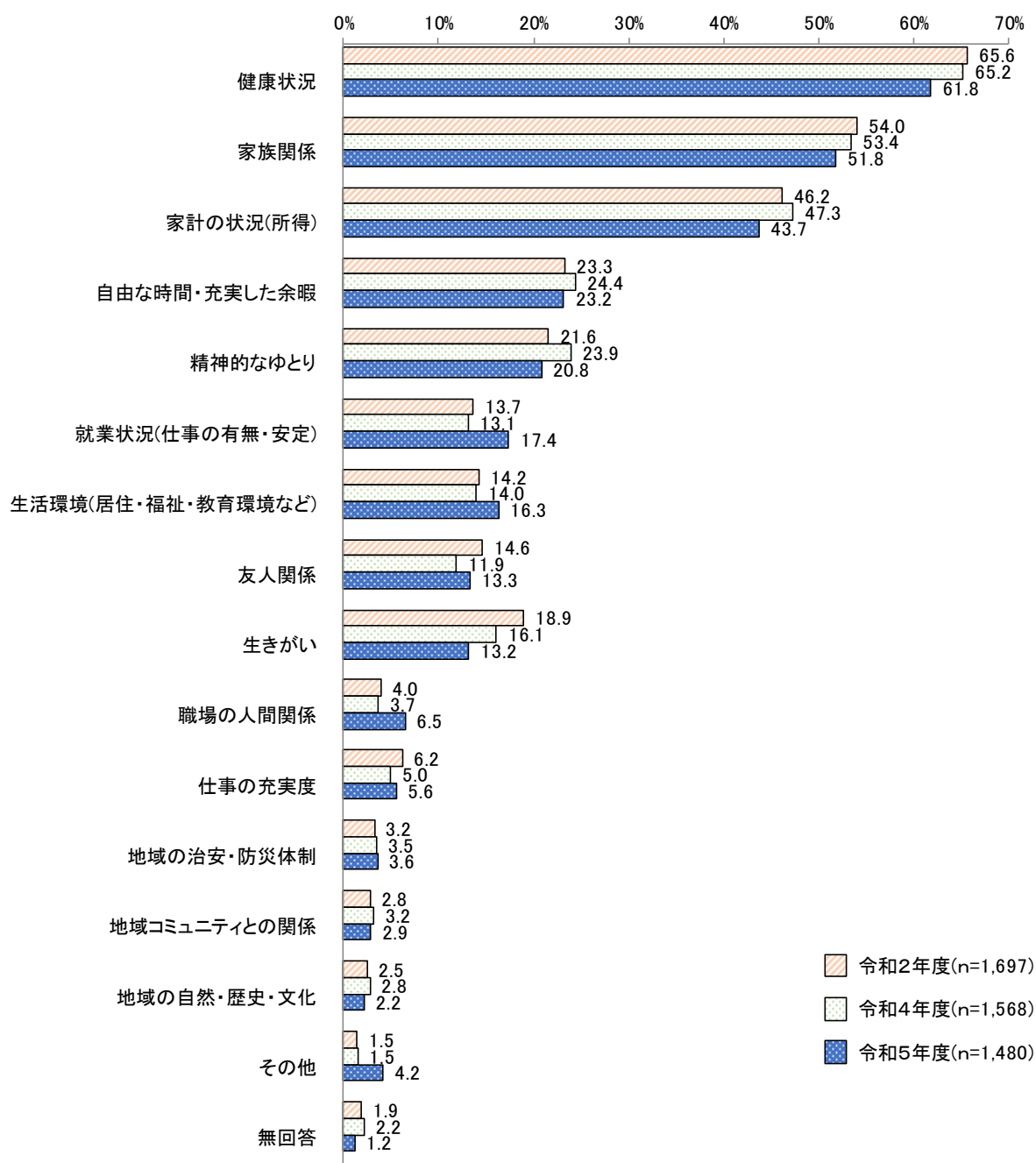
順位	項目	回答率 (%)
1	健康状況	78.3
2	家計の状況(所得)	58.5
3	家族関係	44.2
4	精神的なゆとり	21.0
5	生きがい	19.0
6	生活環境(居住・福祉・教育環境など)	17.0
7	自由な時間・充実した余暇	17.0
8	就業状況(仕事の有無・安定)	12.6
9	友人関係	6.4
10	地域コミュニティとの関係	4.1
11	仕事の充実度	3.4
12	地域の治安・防災体制	3.3
13	職場の人間関係	2.1
14	地域の自然・歴史・文化	1.3

3ポイント以上増

現在幸せかどうかを判断する際の重視度に比べ

3ポイント以上減

Q 現在のあなたが、「幸せ」かどうかを判断する際に重視した事項は何ですか。次の1～15の中から、特に重視したものを3つ選び、番号に○をつけてください。(○は3つ)



— 1位「健康状況」、2位「家族関係」、3位「家計の状況（所得）」 —

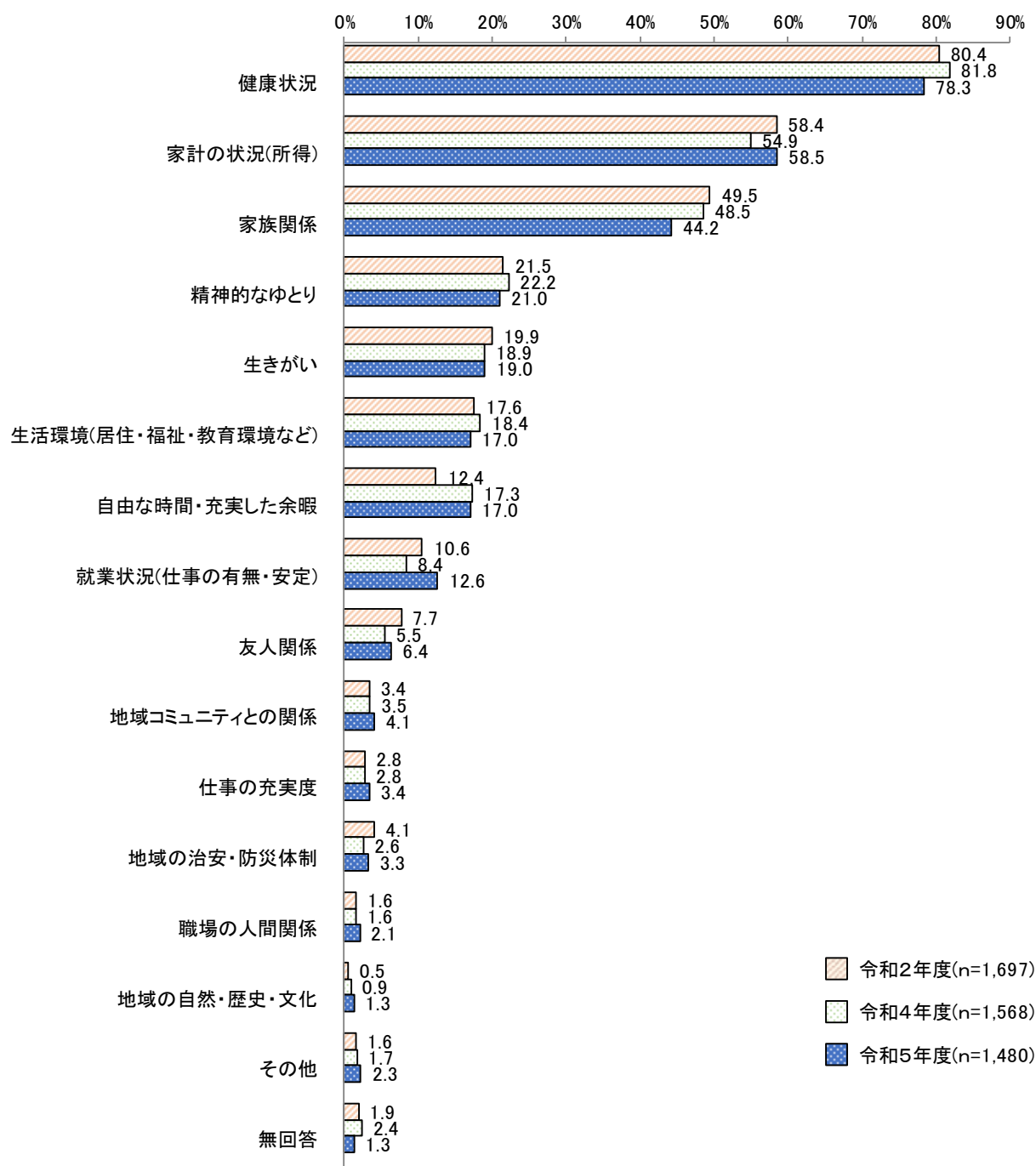
【全体結果】

現在幸せかどうかを判断する際に重視する事項は、「健康状況」（61.8％）が最も高く6割台、次いで「家族関係」（51.8％）、「家計の状況（所得）」（43.7％）となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、「就業状況(仕事の有無・安定)」が4.3ポイント、「職場の人間関係」が2.8ポイント、「その他」が2.7ポイント、「生活環境(居住・福祉・教育環境など)」が2.3ポイント増加しています。

Q 10年後のあなたを想像してお答えください。10年後のあなたが、「幸せ」かどうかを判断する際に、重視するだろうと考えられる事項は何ですか。次の1～15の中から、特に重視するだろうと考えられるものを3つ選び、番号に○をつけてください。(○は3つ)



— 1位「健康状況」、2位「家計の状況(所得)」、3位「家族関係」 —

【全体結果】

10年後に幸せかどうかを判断する際に重視する事項は、「健康状況」(78.3%)が最も高く7割台、次いで「家計の状況(所得)」(58.5%)、「家族関係」(44.2%)となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、「就業状況(仕事の有無・安定)」が4.2ポイント、「家計の状況(所得)」が3.6ポイント増加しています。

④ 幸福実感別の現在幸せかどうかを判断する際に重視する事項

	全体 (n=1,480)	『幸せだと感じている』			『幸せだと感じていない』		(%)
		幸せだと 感じている (n=464)	やや幸せだと 感じている (n=589)	どちらとも いえない (n=254)	あまり幸せだと 感じていない (n=108)	幸せだと 感じていない (n=51)	
健康状況	61.8	66.5	66.4	56.2	39.5	47.1	
家族関係	51.8	68.1	58.0	25.7	25.2	24.8	
家計の状況(所得)	43.7	31.2	41.9	60.1	60.4	72.7	
自由な時間・充実した余暇	23.2	22.1	24.0	26.9	24.2	8.0	
精神的なゆとり	20.8	17.2	16.4	29.4	36.6	29.2	
就業状況(仕事の有無・安定)	17.4	17.3	17.3	17.6	13.7	30.5	
生活環境(居住・福祉・教育環境など)	16.3	15.0	15.6	20.0	18.4	16.9	
友人関係	13.3	17.0	16.8	5.1	4.1	3.6	
生きがい	13.2	11.7	8.7	20.6	23.7	23.5	
職場の人間関係	6.5	4.9	8.5	3.6	8.9	7.3	
仕事の充実度	5.6	4.6	4.2	9.0	9.9	6.5	
地域の治安・防災体制	3.6	2.1	3.9	4.3	5.0	2.7	
地域コミュニティとの関係	2.9	3.9	2.4	2.2	4.6	1.9	
地域の自然・歴史・文化	2.2	2.1	3.6	0.1	0.4	0.0	
その他	4.2	3.3	4.7	5.0	2.6	6.1	

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 で色付け

ー 『幸せだと感じている』層では、「家族関係」、「健康状況」を重視。

『幸せだと感じていない』層では、「家計の状況（所得）」、「精神的なゆとり」の重視度が高い傾向 ー

幸福実感別に重視度をみると、「幸せだと感じている」層では、「家族関係」が最も高く、次いで「健康状況」、「家計の状況（所得）」となっています。「やや幸せだと感じている」層では、「健康状況」が最も高く、次いで「家族関係」、「家計の状況（所得）」となっています。

「幸せだと感じていない」及び「あまり幸せだと感じていない」層では、「家計の状況（所得）」が最も高く、次いで「健康状況」、「精神的なゆとり」や「就業状況(仕事の有無・安定)」となっています。

(2) 満足感について

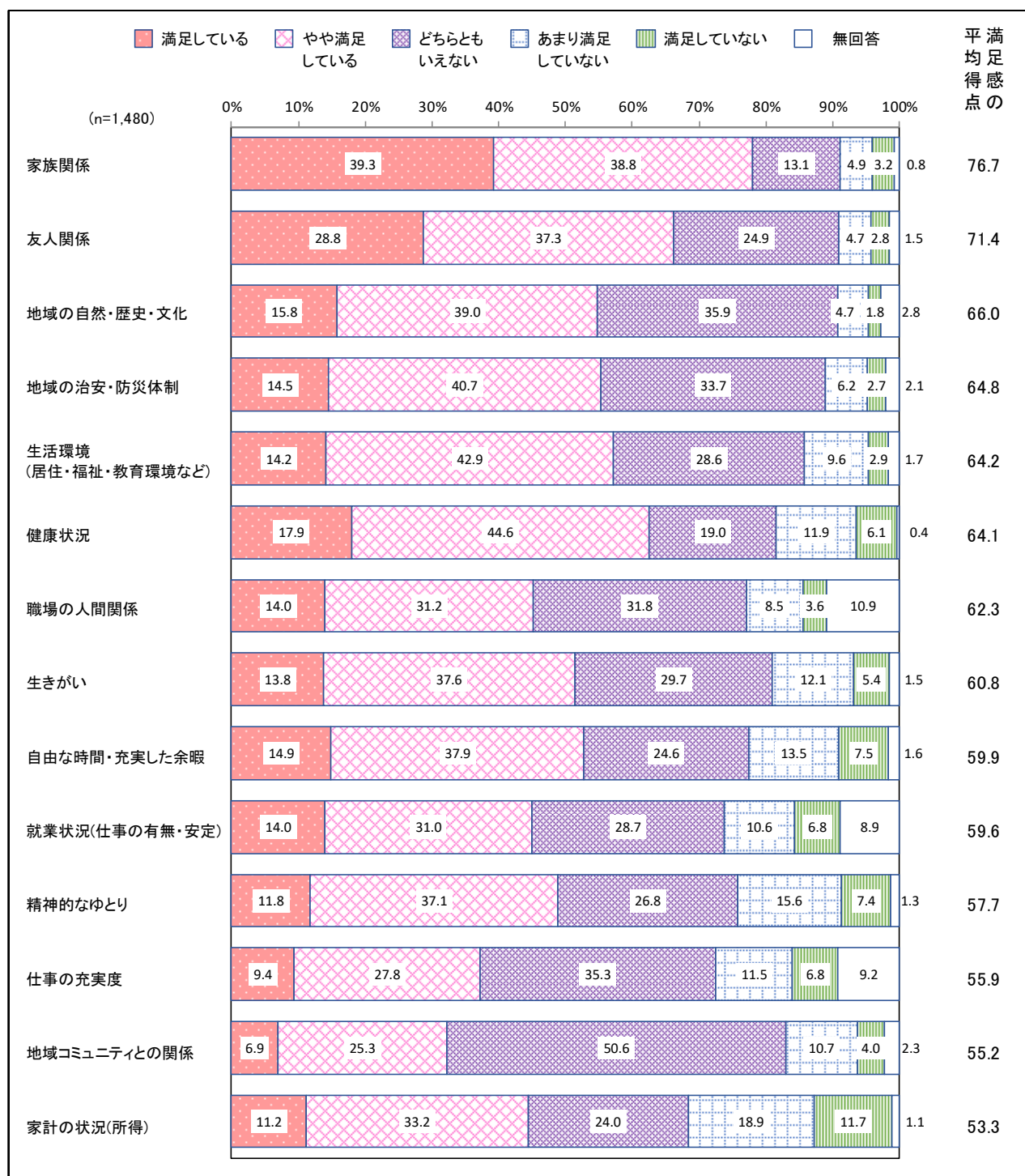
Q 現在のあなたご自身の気持ちについてお答えください。次の1～14の各項目について、あなたはどの程度満足していますか。最も近いものをそれぞれ1つずつ選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

① 満足感結果一覧

14項目の満足感の平均得点をランキング化しました。

※満足感の平均得点の算出方法

25ページで算出した幸福実感の平均得点と同様に、「満足している」を100点、「やや満足している」を75点、「どちらともいえない」を50点、「あまり満足していない」を25点、「満足していない」を0点とし、合計値を「満足している」から「満足していない」の回答数の合計で除して算出しました。



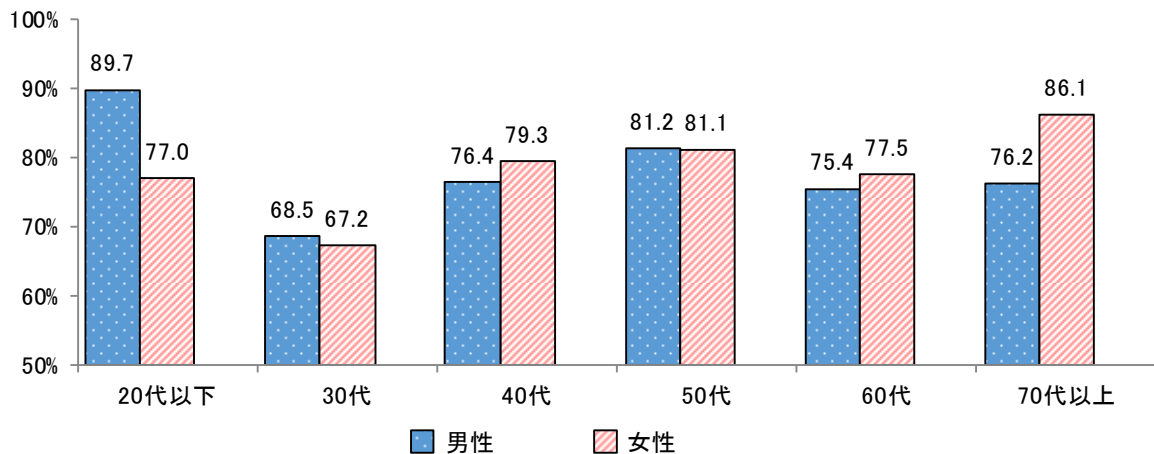
② 満足感が高い項目の属性別の傾向

満足感の平均得点が高い3項目について、性別・年代別の傾向を分析しました。

【家族関係】 満足感の平均得点 76.7 点

満足感の平均得点が高かった家族関係について、『満足している』割合が最も高いのは、男性は20代以下、女性は70代以上となり、最も低いのは男女ともに30代となっています。20代、30代では女性より男性の方が『満足している』の割合が高く、40代、60代、70代以上では男性より女性の方が高くなっています。また、50代では男女ともに『満足している』の割合は同程度となっています。

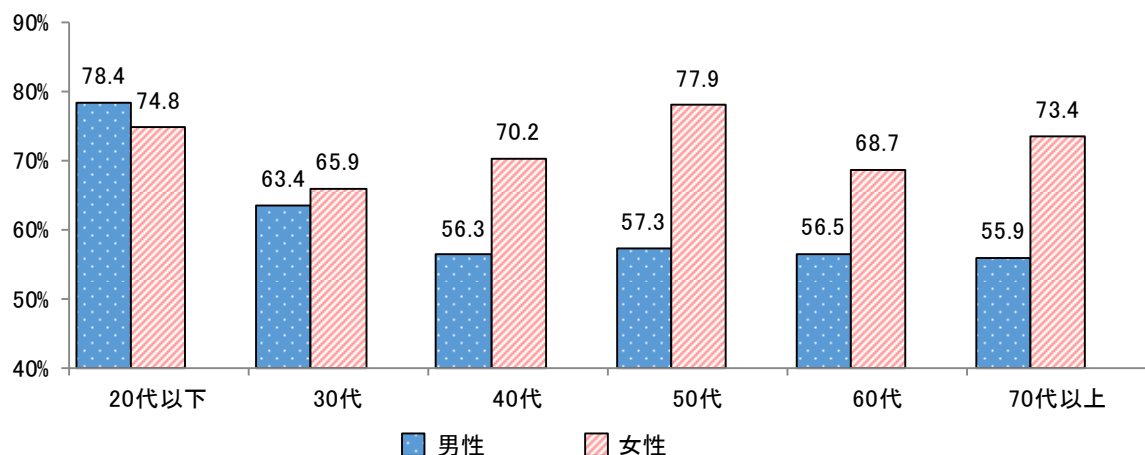
家族関係に『満足している』と回答した割合（性別・年代別）



【友人関係】 満足感の平均得点 71.4 点

満足感の平均得点が2番目に高かった友人関係について、『満足している』の割合が最も高いのは、男性は20代以下、女性は50代となり、最も低いのは男性では70代以上、女性では30代となっています。20代以下では女性より男性の方が『満足している』の割合が高いものの、30代以上では男性より女性が高くなっています。

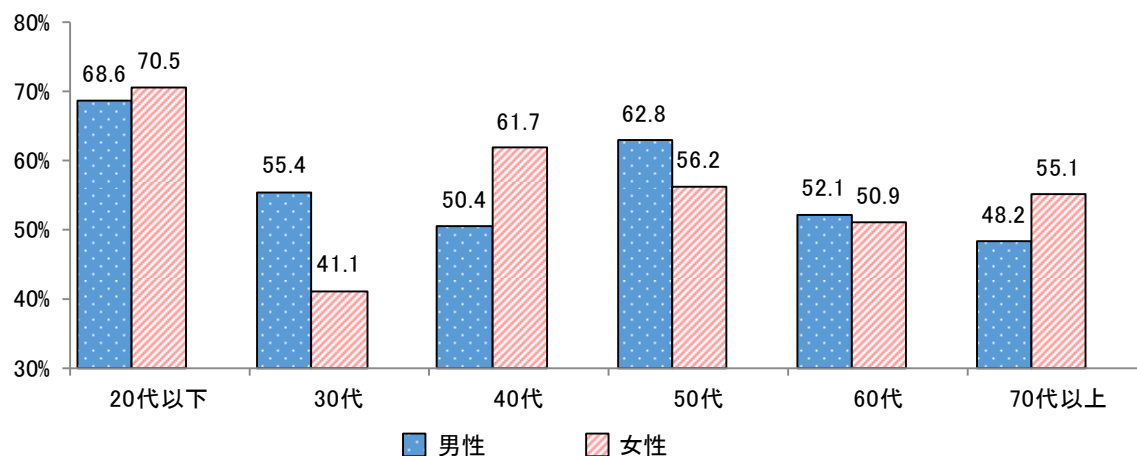
友人関係に『満足している』と回答した割合（性別・年代別）



【地域の自然・歴史・文化】 満足感の平均得点 66.0 点

満足感の平均得点が3番目に高かった地域の自然・歴史・文化について、『満足している』の割合が最も高いのは、男女ともに20代以下となり、最も低いのは男性では70代以上、女性では30代となっています。30代、50代、60代では女性より男性の方が『満足している』の割合が高く、20代以下、40代、70代以上では男性より女性が高くなっています。

地域の自然・歴史・文化に『満足している』と回答した割合（性別・年代別）



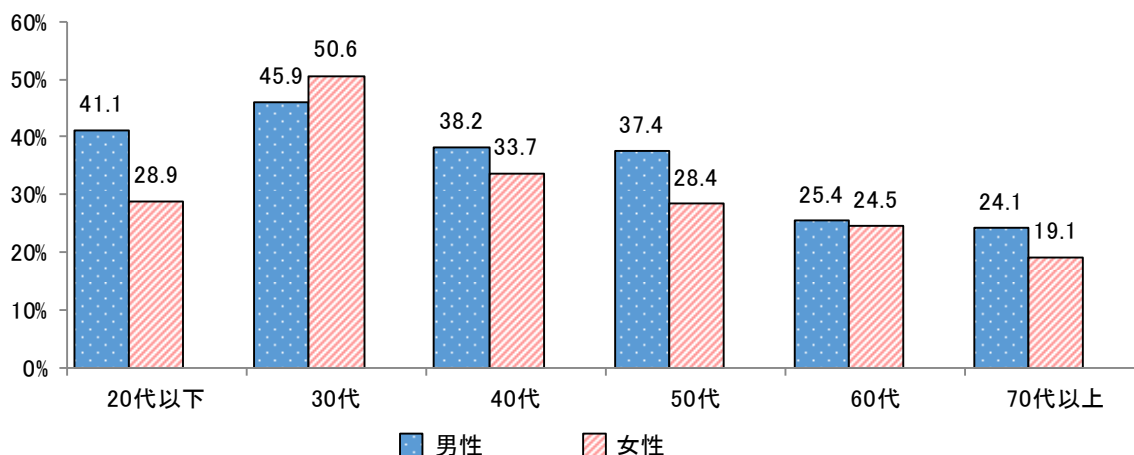
③ 満足感が低い項目の属性別の傾向

満足感の平均得点が低い3項目について、性別・年代別の傾向を分析しました。

【家計の状況(所得)】 満足感の平均得点 53.3 点

満足感の平均得点が最も低かった家計の状況(所得)について、男女ともに『満足していない』割合が最も高いのは30代で、最も低いのは男女ともに70代以上となっています。30代を除く年代で、女性より男性の方が『満足していない』の割合が高くなっています。

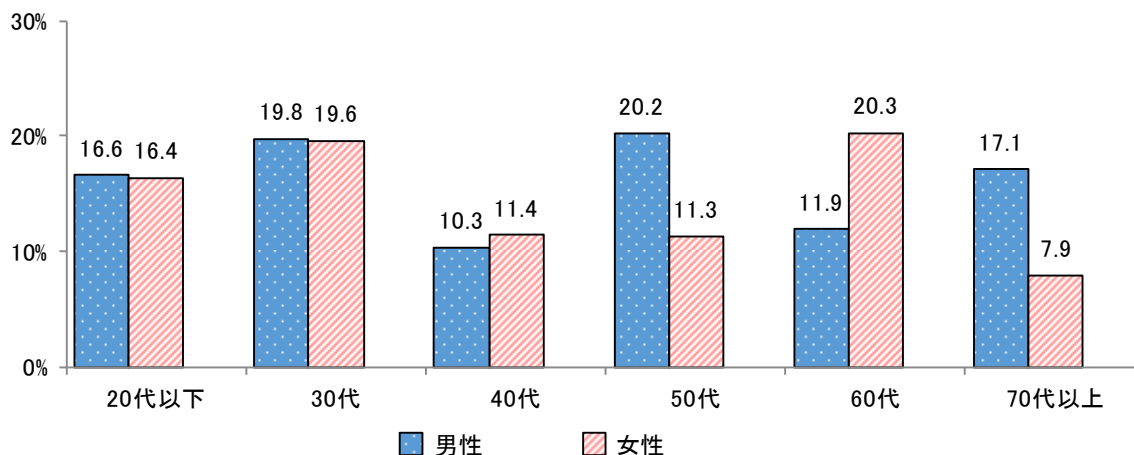
家計の状況(所得)に『満足していない』と回答した割合(性別・年代別)



【地域コミュニティとの関係】 満足感の平均得点 55.2 点

満足感の平均得点が2番目に低かった地域コミュニティとの関係について、『満足していない』の割合が最も高いのは、男性は50代、女性は60代となり、最も低いのは男性では40代、女性では70代以上となっています。50代、70代以上では女性より男性の方が『満足していない』の割合が高く、40代、60代では男性より女性の方が高くなっています。また、20代以下、30代では男女に差がみられません。

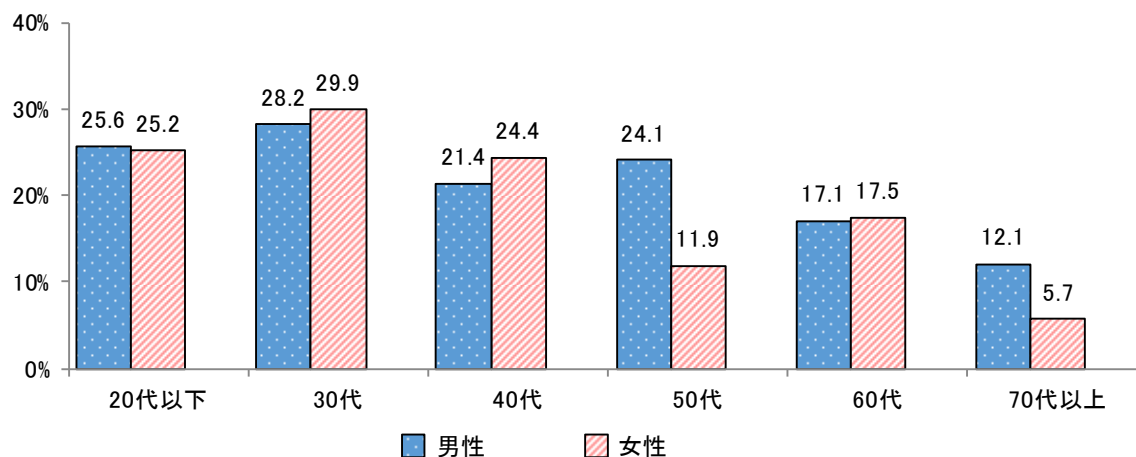
地域コミュニティとの関係に『満足していない』と回答した割合(性別・年代別)



【仕事の充実度】 満足感の平均得点 55.9 点

満足感の平均得点が3番目に低かった仕事の充実度について、『満足していない』の割合が最も高いのは、男女ともに30代となり、最も低いのは男女ともに70代以上となっています。50代、70代以上では女性より男性の方が『満足していない』の割合が高く、30代、40代では男性より女性の方が高くなっています。また、20代以下、60代では男女に差がみられません。

仕事の充実に『満足していない』と回答した割合（性別・年代別）



④ 満足感の経年変化

14 項目に関して、令和 2 年度及び令和 4 年度の結果との満足感平均得点の差の検定を行いました（各年度アンケートと令和 5 年度アンケートの平均得点には差がないとする帰無仮説を検定）。有意水準を 1%、5%、10%とし、どの水準において有意となるか検証しました。統計的有意差検定や有意水準の考え方については、25 ページをご参照ください。

結果は以下のとおりです。

【令和 2 年度との比較】

項目	満足感平均得点		差 (R5-R2)	P値	有意水準 統計的な有意差が 認められる場合に「○」		
	令和2年度	令和5年度			1%	5%	10%
家計の状況(所得)	49.9	53.3	3.4	0.001	○	○	○
精神的なゆとり	54.8	57.7	2.9	0.003	○	○	○
就業状況(仕事の有無・安定)	56.9	59.6	2.6	0.013	－	○	○
生きがい	58.8	60.8	1.9	0.043	－	○	○
健康状況	62.4	64.1	1.7	0.080	－	－	○
職場の人間関係	60.7	62.3	1.6	0.105	－	－	－
家族関係	75.3	76.7	1.4	0.110	－	－	－
地域の自然・歴史・文化	64.8	66.0	1.3	0.107	－	－	－
地域の治安・防災体制	63.6	64.8	1.2	0.134	－	－	－
生活環境(居住・福祉・教育環境など)	63.1	64.2	1.1	0.208	－	－	－
自由な時間・充実した余暇	59.2	59.9	0.7	0.471	－	－	－
友人関係	70.7	71.4	0.7	0.423	－	－	－
仕事の充実度	56.0	55.9	▲ 0.1	0.949	－	－	－
地域コミュニティとの関係	55.8	55.2	▲ 0.6	0.457	－	－	－

満足感が有意に上昇した項目（有意水準10%）

項目		満足感平均得点		差 (R5-R2)
		令和2年度	令和5年度	
1	家計の状況(所得)	49.9	53.3	3.4
2	精神的なゆとり	54.8	57.7	2.9
3	就業状況(仕事の有無・安定)	56.9	59.6	2.6
4	生きがい	58.8	60.8	1.9
5	健康状況	62.4	64.1	1.7

— 満足感が有意に上昇したのは「家計の状況（所得）」、「精神的なゆとり」等 —

令和 2 年度と令和 5 年度の満足感平均得点を比較すると、平均得点が増加したのは 12 項目、低下したのは 2 項目となりました。

満足感平均得点が増加したのは、「家計の状況（所得）」（49.9 点→53.3 点）、「精神的なゆとり」（54.8 点→57.7 点）、「就業状況（仕事の有無・安定）」（56.9 点→59.6 点）、「生きがい」（58.8 点→60.8 点）、「健康状況」（62.4 点→64.1 点）となっています。

満足感平均得点が増加した項目はありませんでした。

【令和４年度との比較】

項目	満足感平均得点		差 (R5-R4)	P値	有意水準 統計的な有意差が 認められる場合に「○」		
	令和4年度	令和5年度			1%	5%	10%
家計の状況(所得)	47.3	53.3	6.0	0.000	○	○	○
健康状況	59.7	64.1	4.4	0.000	○	○	○
精神的なゆとり	54.4	57.7	3.3	0.002	○	○	○
生活環境(居住・福祉・教育環境など)	61.2	64.2	3.0	0.001	○	○	○
就業状況(仕事の有無・安定)	57.4	59.6	2.2	0.047	－	○	○
生きがい	59.0	60.8	1.7	0.074	－	－	○
自由な時間・充実した余暇	59.0	59.9	0.9	0.374	－	－	－
地域の治安・防災体制	64.2	64.8	0.7	0.442	－	－	－
家族関係	76.3	76.7	0.4	0.686	－	－	－
職場の人間関係	62.1	62.3	0.2	0.848	－	－	－
友人関係	71.4	71.4	▲ 0.0	0.988	－	－	－
地域コミュニティとの関係	55.3	55.2	▲ 0.1	0.919	－	－	－
地域の自然・歴史・文化	66.7	66.0	▲ 0.6	0.445	－	－	－
仕事の充実度	57.0	55.9	▲ 1.1	0.285	－	－	－

※「友人関係」の差は小数点以下第１位までの表示のため、▲0.0 となっています。

満足感が有意に上昇した項目（有意水準10％）

項目		満足感平均得点		差 (R5-R4)
		令和4年度	令和5年度	
1	家計の状況(所得)	47.3	53.3	6.0
2	健康状況	59.7	64.1	4.4
3	精神的なゆとり	54.4	57.7	3.3
4	生活環境(居住・福祉・教育環境など)	61.2	64.2	3.0
5	就業状況(仕事の有無・安定)	57.4	59.6	2.2
6	生きがい	59.0	60.8	1.7

－ 満足感が有意に上昇したのは「家計の状況（所得）」、「健康状況」等 －

令和４年度と令和５年度の満足感平均得点を比較すると、平均得点が増加したのは10項目、低下したのは4項目となりました。

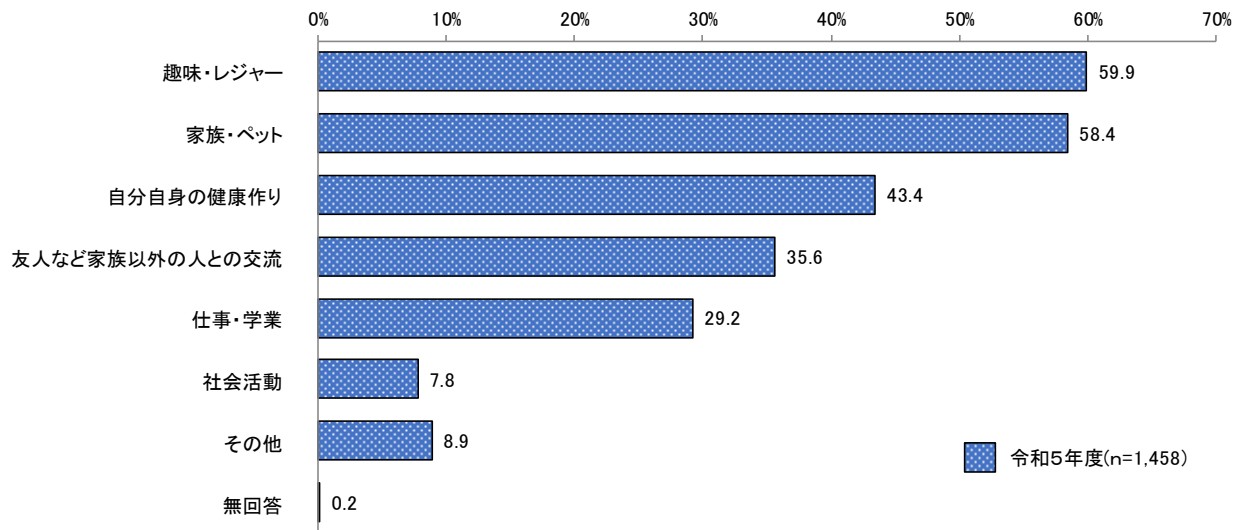
満足感平均得点が増加したのは、「家計の状況（所得）」（47.3点→53.3点）、「健康状況」（59.7点→64.1点）、「精神的なゆとり」（54.4点→57.7点）、「生活環境（居住・福祉・教育環境）」（61.2点→64.2点）、「就業状況（仕事の有無・安定）」（57.4点→59.6点）、「生きがい」（59.0点→60.8点）となっています。

満足感平均得点が増加した項目はありませんでした。

(3) 「生きがい」について

Q 「12 生きがい」について、満足感を判断する際に重視したことは何ですか。次の 1～7 の中から特に重視したことを最大3つまで選び○を付けてください。(○は最大3つ)

① 満足感を判断する際に重視する事項



— 1位「趣味・レジャー」、2位「家族・ペット」、3位「自分自身の健康作り」 —

【全体結果】

「生きがい」の満足感を判断する際に重視する事項は、「趣味・レジャー」(59.9%)が最も高く約6割、次いで「家族・ペット」(58.4%)、「自分自身の健康作り」(43.4%)となっています。

【属性別結果】

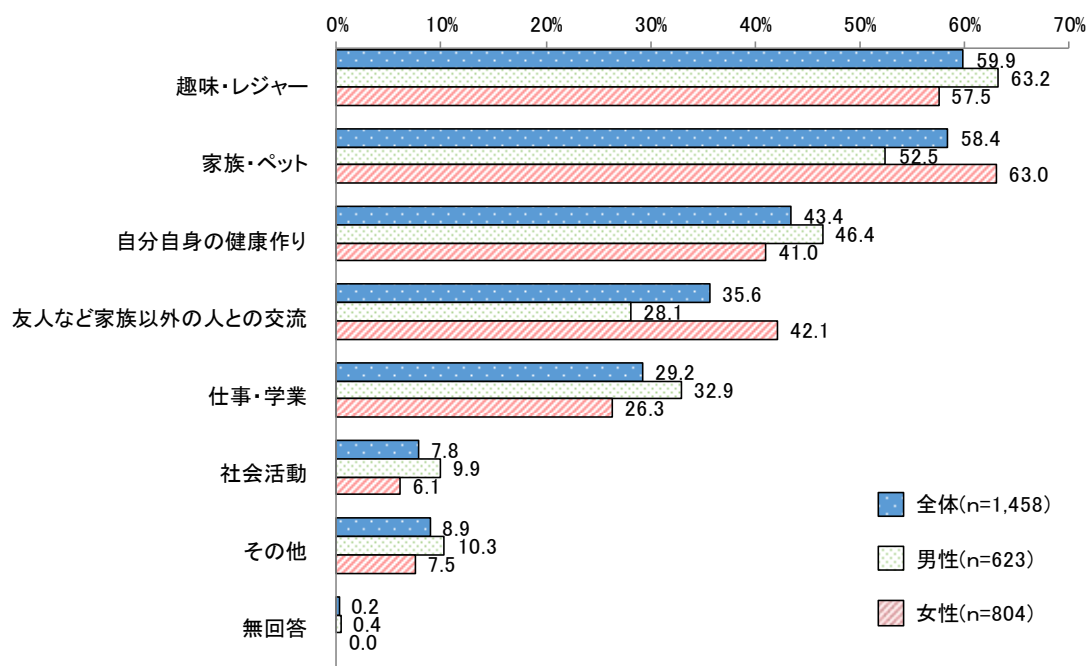
ア 性別

男性では「趣味・レジャー」が最も高く、女性では「家族・ペット」が最も高くなっています。

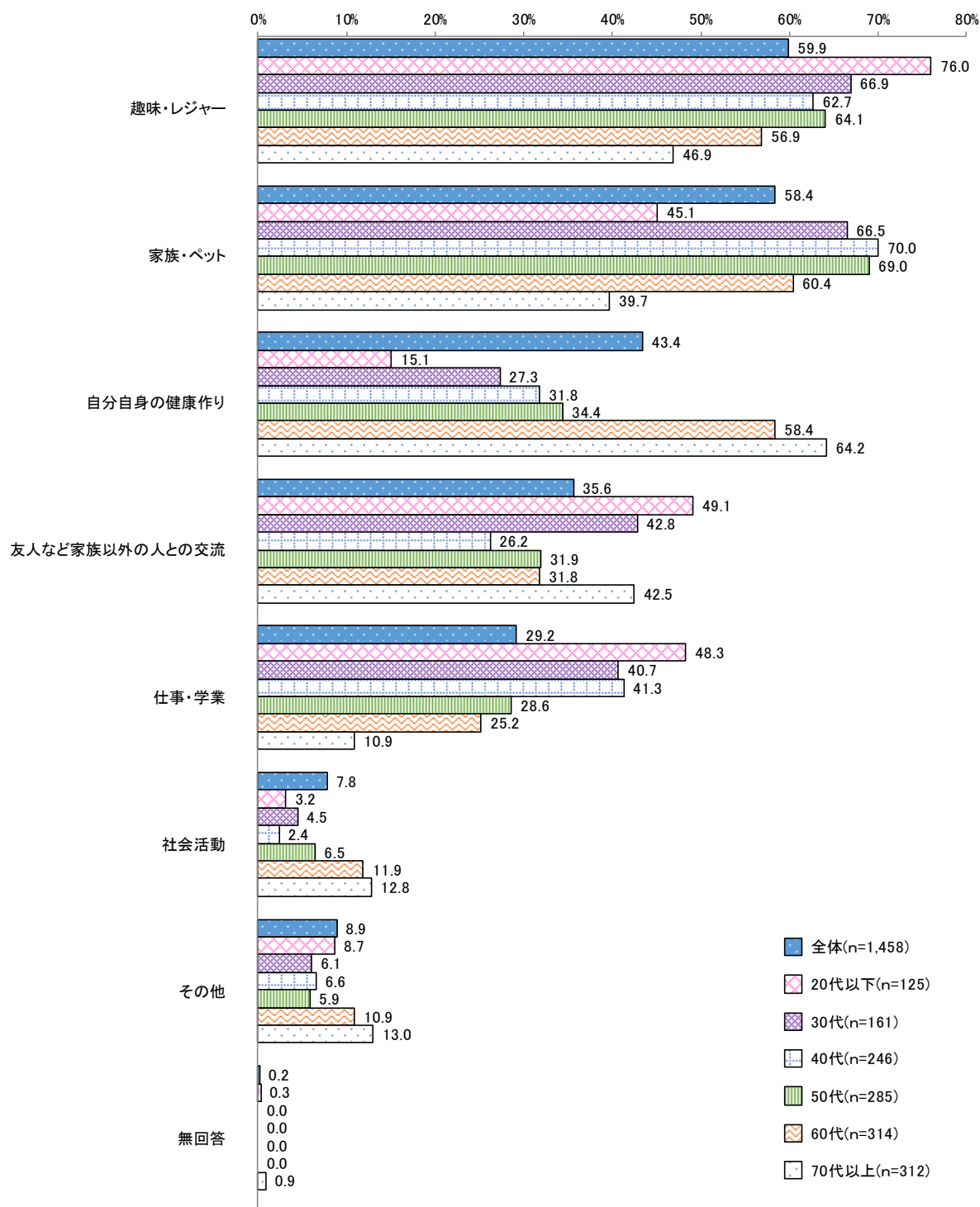
イ 年代別

30代以下では「趣味・レジャー」が最も高く、40代から60代は「家族・ペット」、70代以上では「自分自身の健康作り」がそれぞれ最も高くなっています。

【性別】



【年代別】



② 満足度別の満足感を判断する際に重視する事項

	全体 (n=1,458)	『満足している』		どちらとも いえない (n=439)	『満足していない』		(%)
		満足している (n=204)	やや満足 している (n=557)		あまり満足 していない (n=179)	満足していない (n=79)	
趣味・レジャー	59.9	63.4	60.6	56.3	65.6	52.7	
家族・ペット	58.4	64.1	65.8	53.6	45.6	47.3	
自分自身の健康作り	43.4	37.3	45.1	42.3	45.3	48.3	
友人など家族以外の人との交流	35.6	41.9	34.2	35.4	36.9	27.9	
仕事・学業	29.2	26.8	28.4	30.3	28.5	36.5	
社会活動	7.8	9.2	6.4	8.4	8.6	8.9	
その他	8.9	7.9	4.6	10.2	11.7	27.8	

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 で色付け

ー 『満足している』層、では、「家族・ペット」、「趣味・レジャー」を重視。

『満足していない』層では、「趣味・レジャー」、「自分自身の健康作り」の重視度が高い傾向 ー

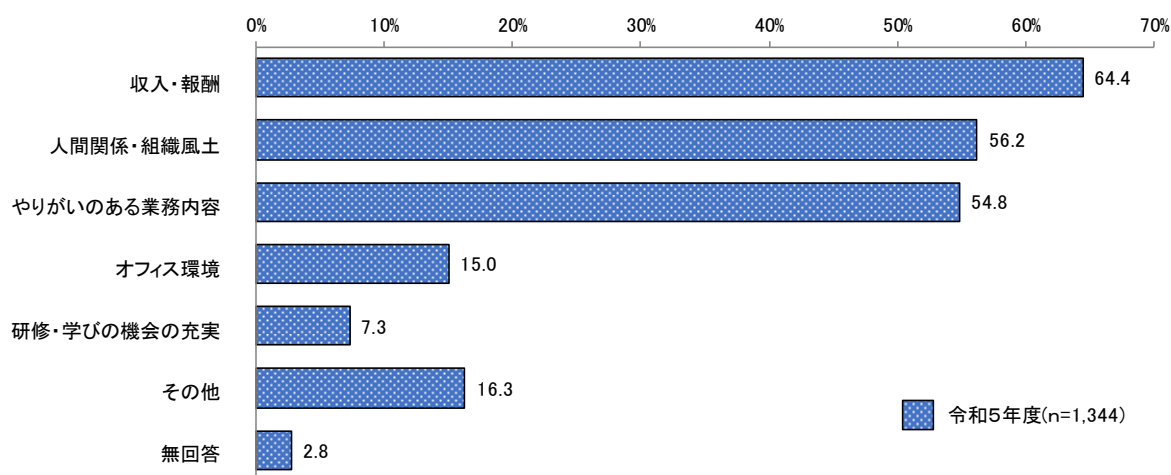
満足度別に重視度をみると、「満足している」層及び「やや満足している」層では、「家族・ペット」が最も高くなっています。次いで「趣味・レジャー」、「友人などの家族以外の人との交流」、「自分自身の健康作り」となっています。

「満足していない」及び「あまり満足していない」層では、「趣味・レジャー」が最も高く、次いで「家族・ペット」、「自分自身の健康作り」となっています。

(4) 「仕事の充実」について

Q 「13 仕事の充実」について、満足感を判断する際に重視したことは何ですか。次の 1～7 の中から特に重視したことを最大3つまで選び○を付けてください。(○は最大3つ)

① 満足感を判断する際に重視する事項



— 1位「収入・報酬」、2位「人間関係・組織風土」、3位「やりがいのある業務内容」 —

【全体結果】

「仕事の充実度」の満足感を判断する際に重視する事項は、「収入・報酬」(64.4%)が最も高く6割台、次いで「人間関係・組織風土」(56.2%)、「やりがいのある業務内容」(54.8%)となっています。

【属性別結果】

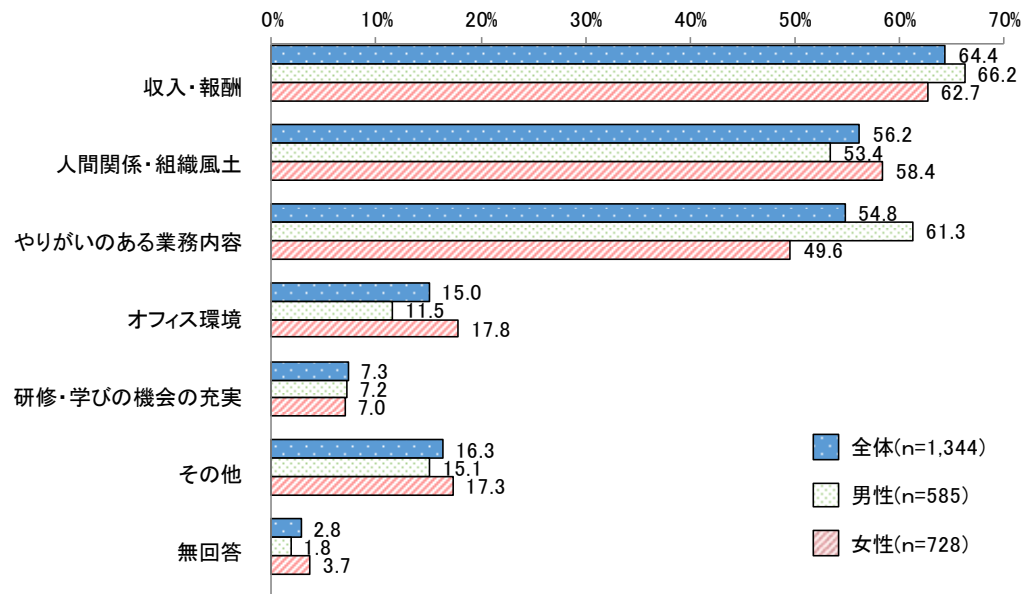
ア 性別

男女ともに「収入・報酬」が最も高くなっています。次いで男性は「やりがいのある業務内容」。女性は「人間関係・組織風土」が高くなっています。

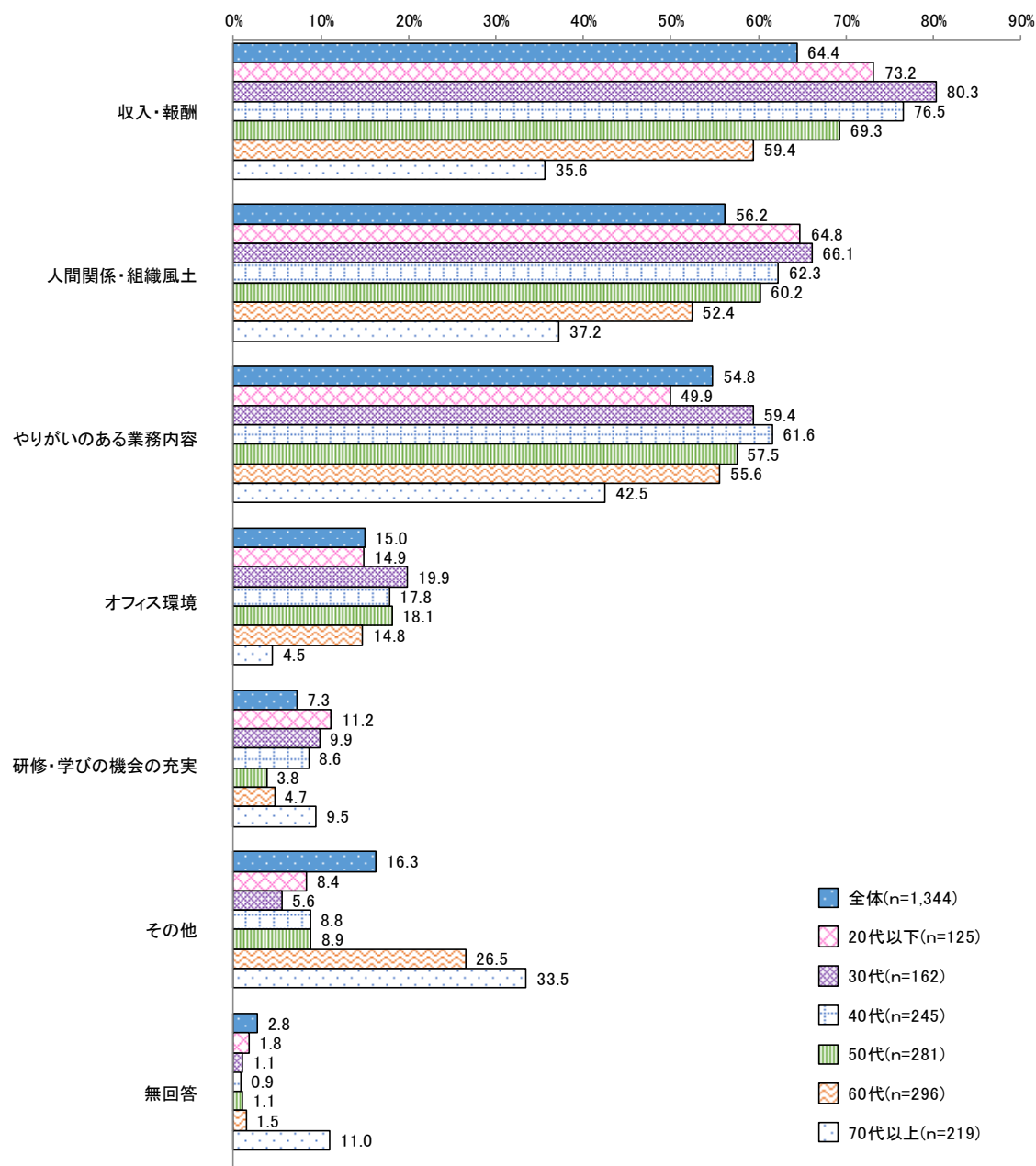
イ 年代別

70代以上を除く年代では「収入・報酬」が最も高くなっています。次いで50代以下は「人間関係・組織風土」、60代では「やりがいのある業務内容」が高くなっています。また、70代以上では「やりがいのある業務内容」が最も高く、次いで「人間関係・組織風土」、「収入・報酬」となっています。

【性別】



【年代別】



② 満足度別の満足感を判断する際に重視する事項

	全体 (n=1,344)	『満足している』		どちらとも いえない (n=523)	『満足していない』		(%)
		満足している (n=139)	やや満足 している (n=412)		あまり満足 していない (n=170)	満足していない (n=101)	
収入・報酬	64.4	54.1	64.0	63.0	72.1	74.3	
人間関係・組織風土	56.2	57.6	61.8	53.5	54.0	48.8	
やりがいのある業務内容	54.8	80.9	65.7	41.7	49.7	51.0	
オフィス環境	15.0	11.0	17.7	14.3	15.6	12.5	
研修・学びの機会の充実	7.3	11.5	7.7	6.3	7.5	4.3	
その他	16.3	14.3	8.8	20.0	18.5	26.4	

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 で色付け

— 『満足している』層では、「やりがいのある業務内容」、「人間関係・組織風土」を重視。
『満足していない』層では、「収入・報酬」、「やりがいのある業務内容」の重視度が高い傾向 —

満足度別に重視度をみると、「満足している」層及び「やや満足している」層では、「やりがいのある業務内容」が最も高くなっています。次いで「人間関係・組織風土」、「収入・報酬」となっています。

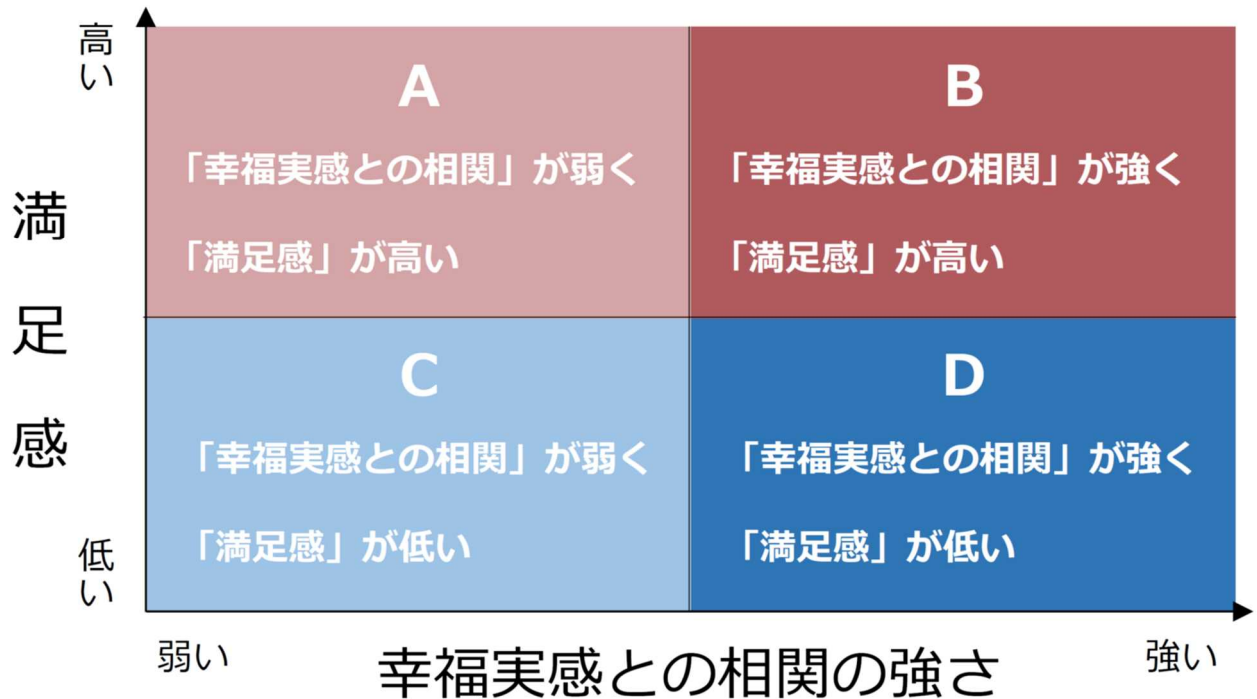
「満足していない」及び「あまり満足していない」層では、「収入・報酬」が最も高く、次いで「人間関係・組織風土」、「やりがいのある業務内容」となっています。

(5) 【参考】幸福感と満足感との関係

《満足感の平均得点と幸福実感との相関の強さの散布図》

本県の取組における項目間の相対的な位置づけを整理するため、「満足感の平均得点」を縦軸、「幸福実感との相関の強さ（幸福実感と満足感に関する回答の相関係数）」を横軸にとり、各項目の「満足感の平均得点」「幸福実感との相関の強さ」の数値を散布図に示しました。

「満足感の平均得点」と「幸福実感との相関の強さ」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

幸福実感との相関は弱いが満足感が高い項目。今後も現状を維持するよう取り組むべきと考えられる。

B：重点的維持領域

幸福実感との相関が強く満足感も高い項目。高い満足感を維持するために重点的に取り組むべきと考えられる。

C：要検討領域

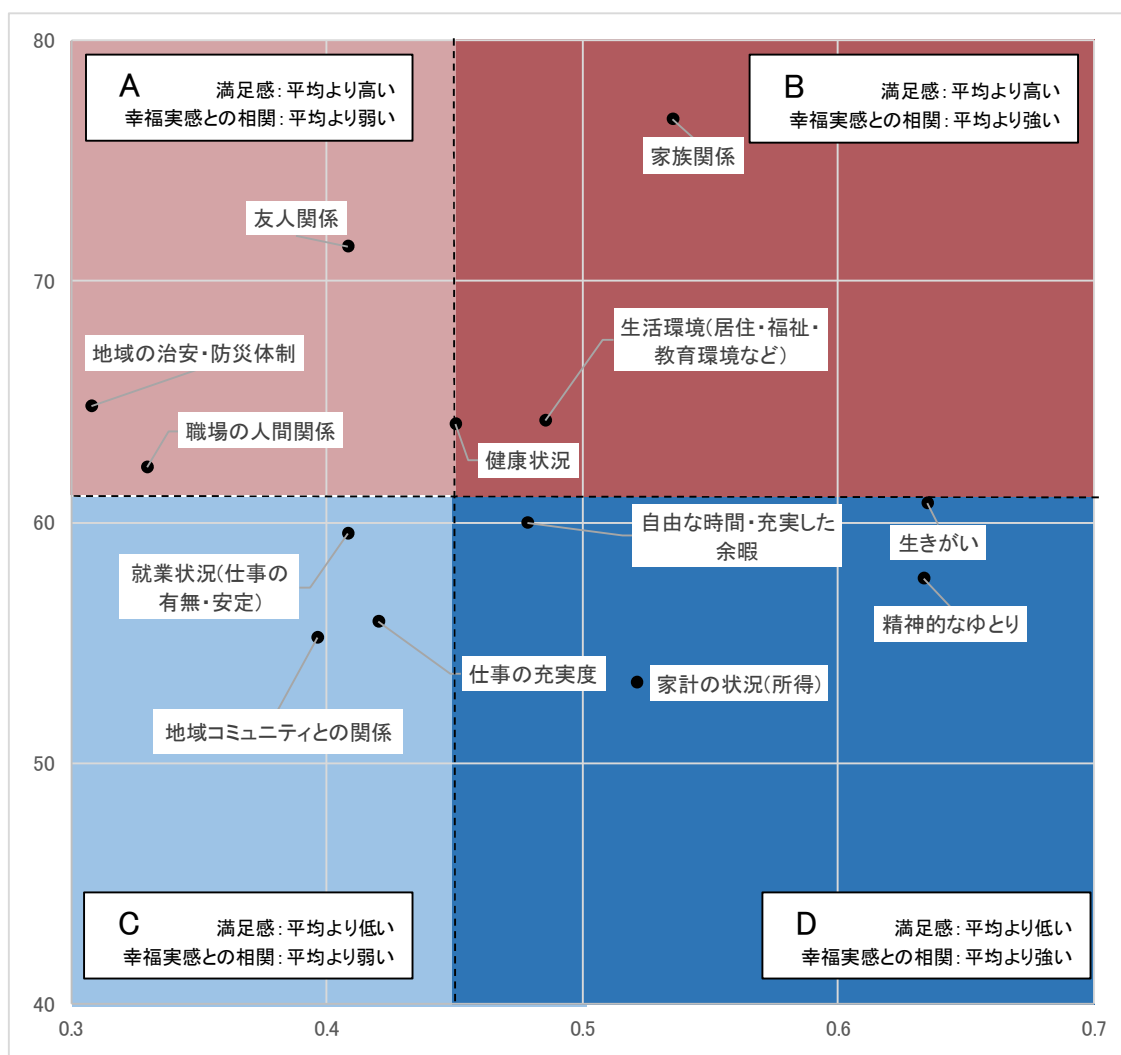
幸福実感との相関が弱く満足感も低い項目。県民のニーズを捉えつつ、必要な施策を検討すべきと考えられる。

D：重点的改善領域

幸福実感との相関は強いが満足感が低い項目。幸福実感の向上のために、重点的な改善の取組が必要と考えられる。

上記の領域に該当した項目の幸福実感との相関の強弱や満足感の高低については、全体の平均と比較して、相対的に強い/高い、または弱い/低いということになります。

満足感



幸福実感との相関の強さ

— 特に、幸福実感と相関が強く満足感が低い項目は「生きがい」、「精神的なゆとり」等 —

幸福実感と相関が強く満足感が低い「D 重点的改善領域」の項目は、「生きがい」、「精神的なゆとり」、「家計の状況（所得）」、「自由な時間・充実した余暇」となっています。

また、幸福実感と相関が強く満足感が高い「B 重点的維持領域」の項目は、「家族関係」、「生活環境（居住・福祉・教育環境）など」となっています。

(6) 新型コロナの5類感染症移行後と比較した満足感の変化

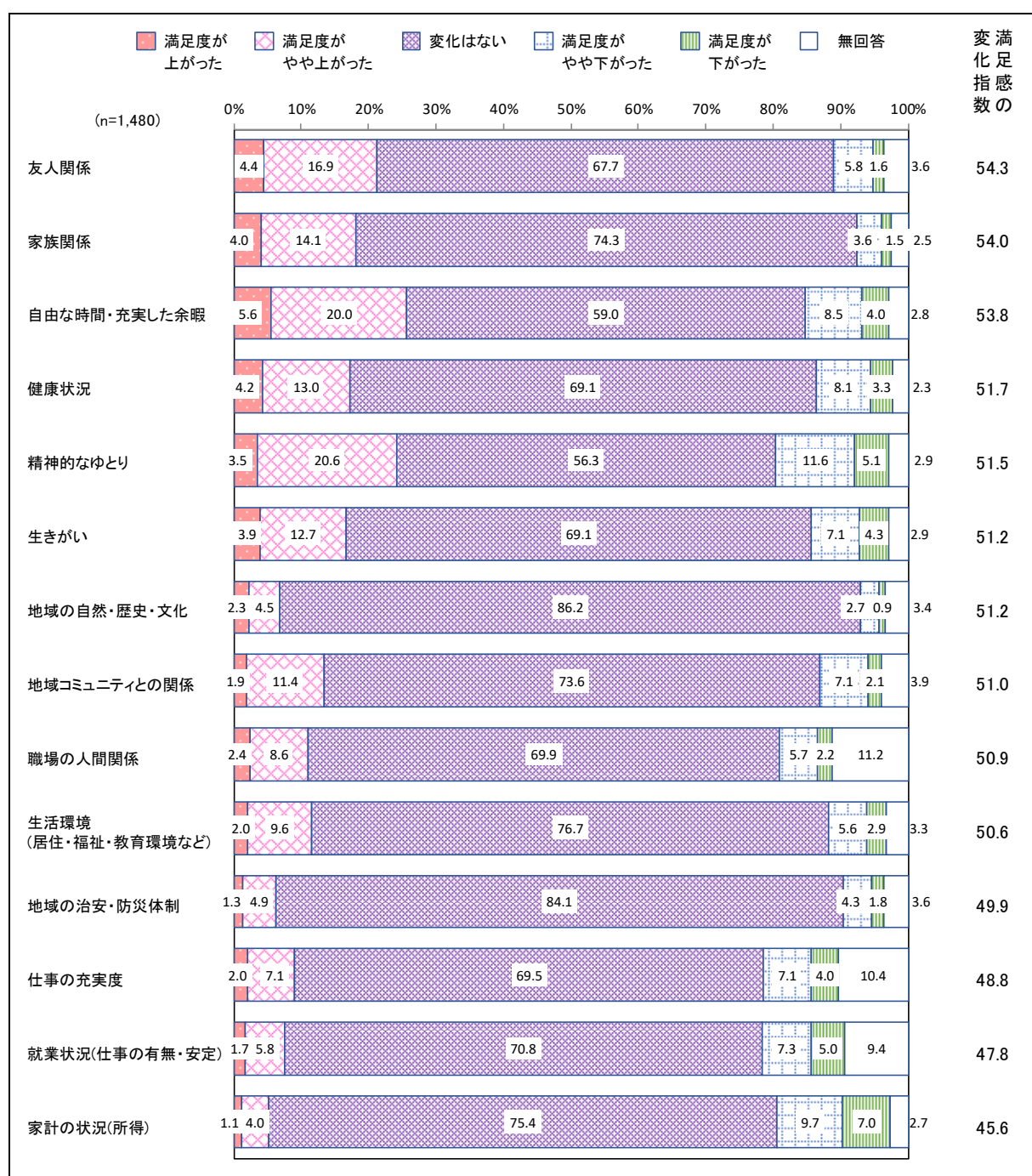
Q 次の1～14の各項目について、新型コロナが5類感染症移行したことであなたの満足度に変化はありましたか。最も近いものをそれぞれ1つずつ選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

※5類感染症移行による主な変更点：行動制限がなくなった、幅広い医療機関で受診可能になった 感染対策が個人の判断に委ねられることになった 等

14項目の満足感における変化指数をランキング化しました。

※満足感における変化指数の算出方法

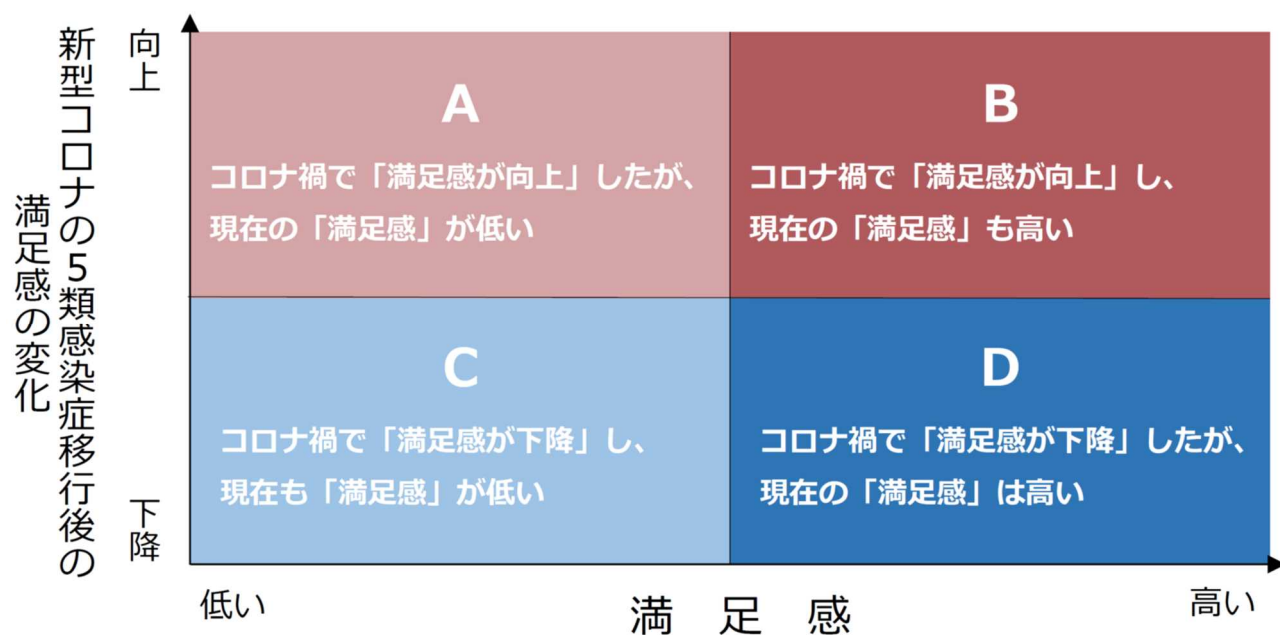
25 ページで算出した幸福実感の平均得点と同様に、「満足度が上がった」を100点、「満足度がやや上がった」を75点、「変化はない」を50点、「満足度がやや下がった」を25点、「満足度が下がった」を0点とし、合計値を「満足度が上がった」から「満足度が下がった」の回答数の合計で除して算出しました。

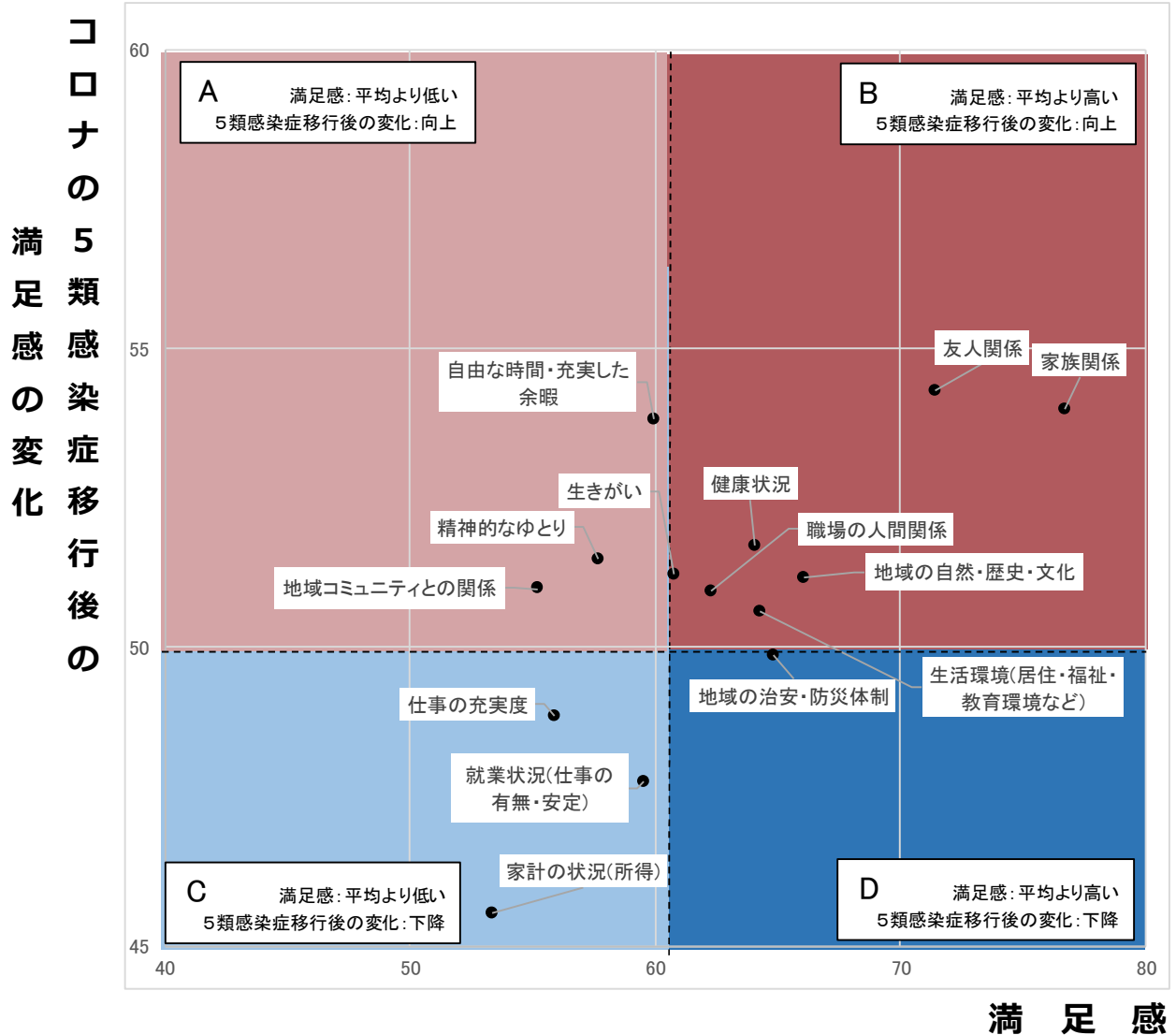


《満足感の平均得点と新型コロナの5類感染症移行後と比較した満足感の変化指数の散布図》

新型コロナの5類感染症移行後の満足感の変化と、現在の満足感との相対的な位置づけを整理するため、「新型コロナの5類感染症移行後と比較した満足感の変化指数」を縦軸、「満足感の平均得点」を横軸にとり、各項目の「新型コロナの5類感染症移行後と比較した満足感の変化指数」「満足感の平均得点」の数値を散布図に示しました。

「新型コロナの5類感染症移行後と比較した満足感の変化指数」の向上/下降を判断する領域線は50、「満足感の平均得点」の高低を表す領域線は平均値となります。





— 新型コロナの5類感染症移行で満足度が上昇した項目は「友人関係」、「家族関係」等 —

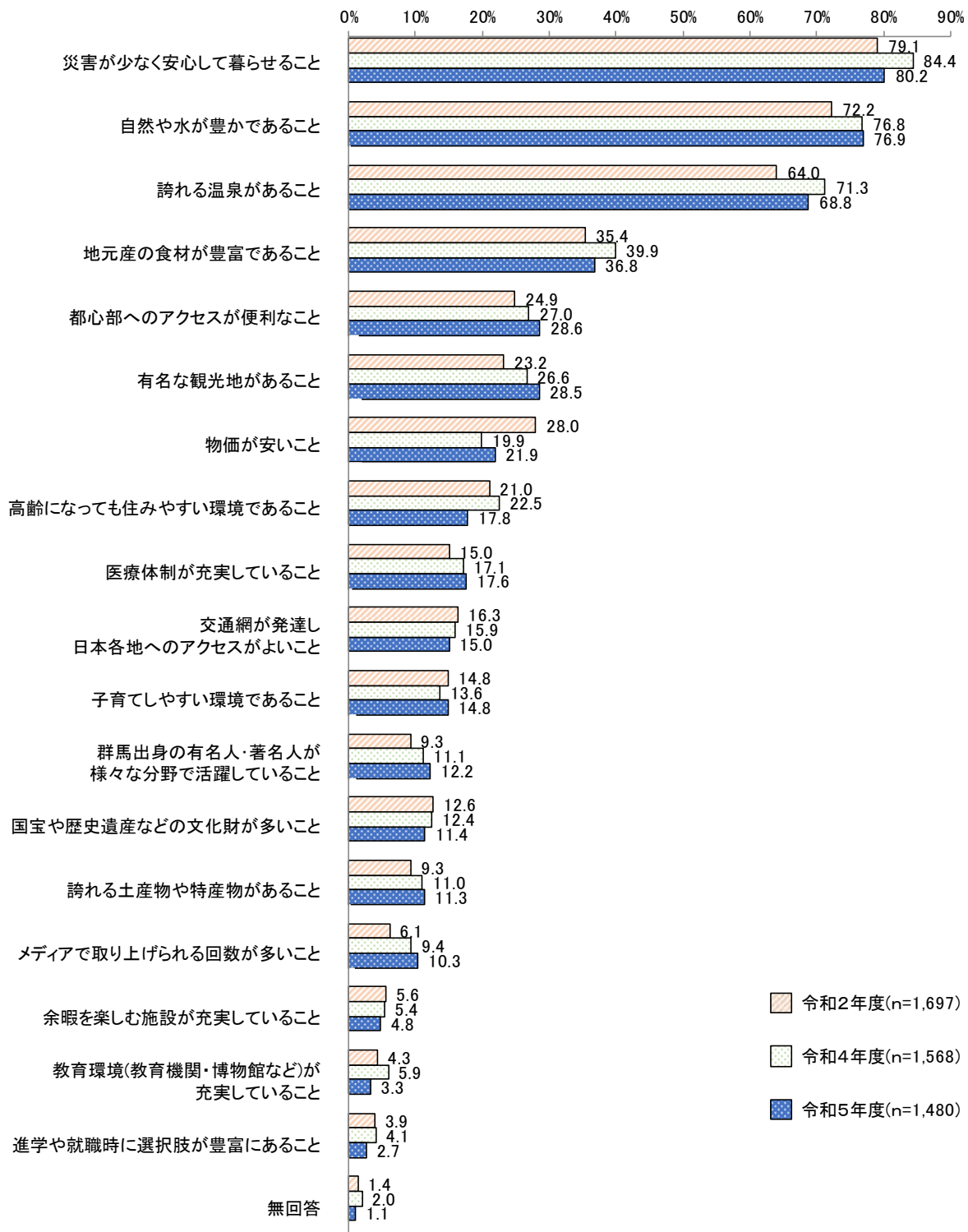
新型コロナの5類感染症移行で満足度が上昇し、現在の満足度も高い「B領域」は、「友人関係」、「家族関係」、「地域の自然・歴史・文化」、「健康状況」、「職場の人間関係」、「生活環境（居住・福祉・教育環境など）」となっています。また、5類感染症移行で満足度が上昇したものの、現在の満足度が低い「A領域」は、「自由な時間・充実した余暇」、「生きがい」、「精神的なゆとり」、「地域コミュニティとの関係」となりました。

一方、新型コロナが5類感染症移行したものの、満足度が下降し、現在の満足度が低い「C領域」の項目は、「家計の状況（所得）」、「仕事の充実度」、「就業状況（仕事の有無・安定）」となっています。

2. 『群馬県に対する気持ち』について

(1) 群馬県のよいところ

Q あなたが思う「群馬県のよいところ」はどのようなところですか。次の1～18の中から、該当するすべての番号に○をつけてください。(○はいくつでも)



— 「災害が少なく安心して暮らせること」が8割半ば —

【全体結果】

「群馬県のよいところ」について、「災害が少なく安心して暮らせること」(80.2%)が最も高く約8割となっています。次いで「自然や水が豊かであること」(76.9%)が7割台、「誇れる温泉があること」(68.8%)が6割台、「地元産の食材が豊富であること」(36.8%)が3割台、「都心部へのアクセスが便利なこと」(28.6%)、「有名な観光地があること」(28.5%)、「物価が安い」(21.9%)が2割台となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、上位6項目の順位は同じであり、特に上位3項目は2年連続で同じになりました。

「物価が安いこと」は2.0ポイント増加、「有名な観光地があること」は1.9ポイントそれぞれ増加しました。一方、「高齢になっても住みやすい環境であること」は4.7ポイント、「災害が少なく安心して暮らせること」は4.2ポイントそれぞれ減少しています。

【属性別結果】

ア 性別

男性は「自然や水が豊かであること」(78.3%)が最も高く、女性は「災害が少なく安心して暮らせること」(82.3%)が最も高くなっています。

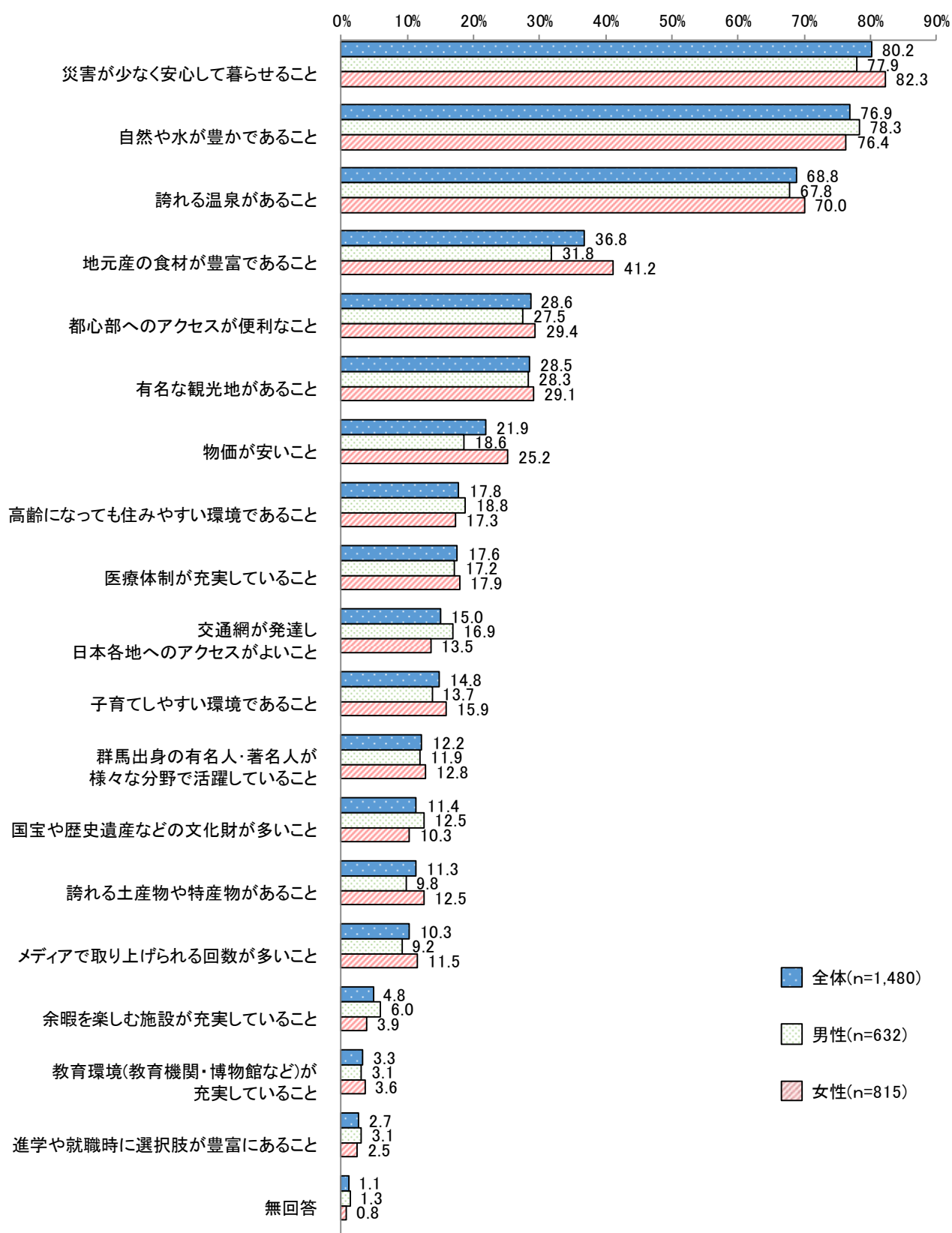
男女で差が大きい項目は「地元産の食材が豊富であること」となり、男性が31.8%に対し、女性が41.2%と9.4ポイントの差がみられました。また、「物価が安いこと」も男性が18.6%、女性が25.2%となり、6.6ポイントの差がみられました。

イ 年代別

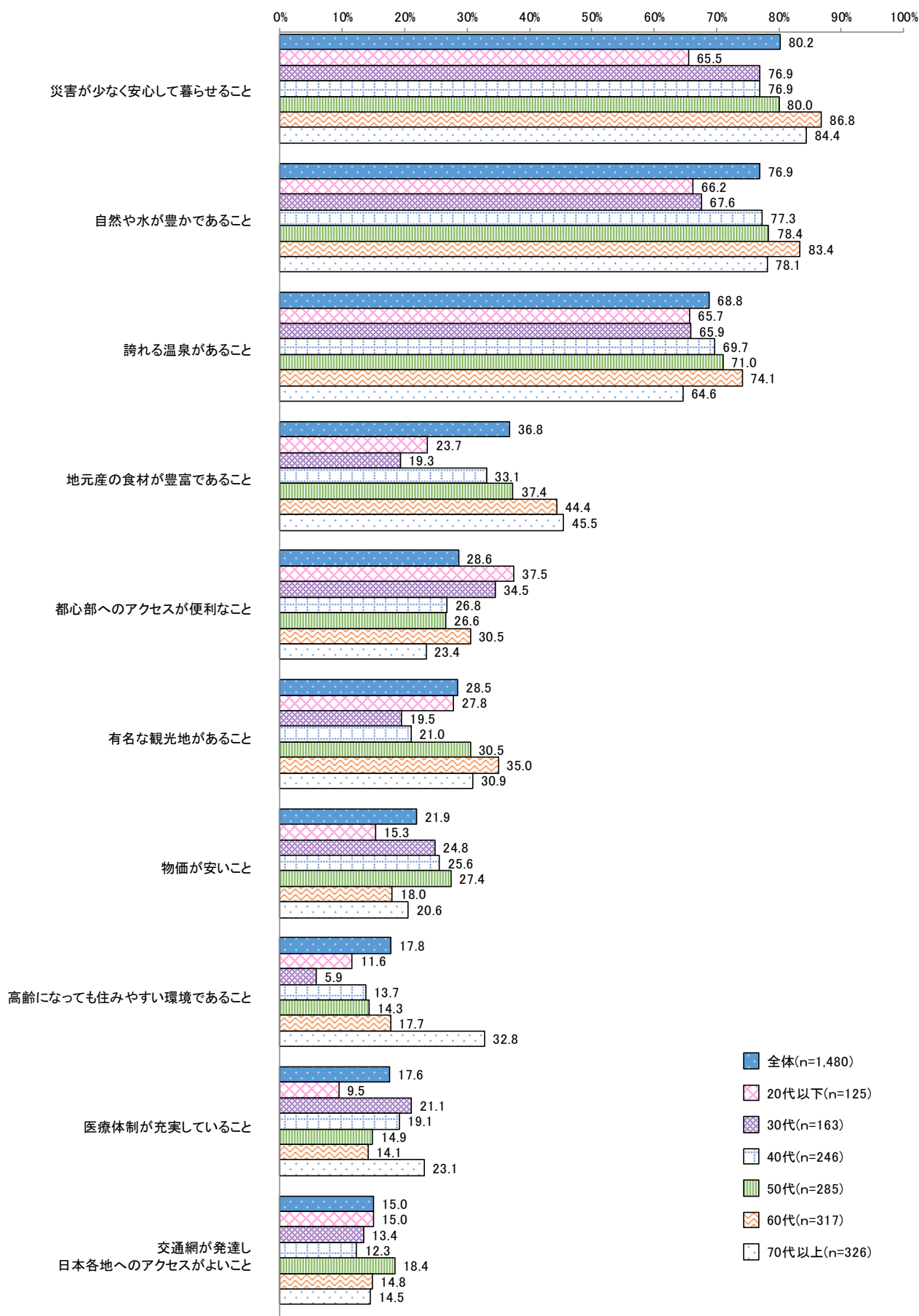
20代以下と40代では「自然や水が豊かであること」がそれぞれ最も高く、その他の年代では「災害が少なく安心して暮らせること」がそれぞれ最も高くなっています。

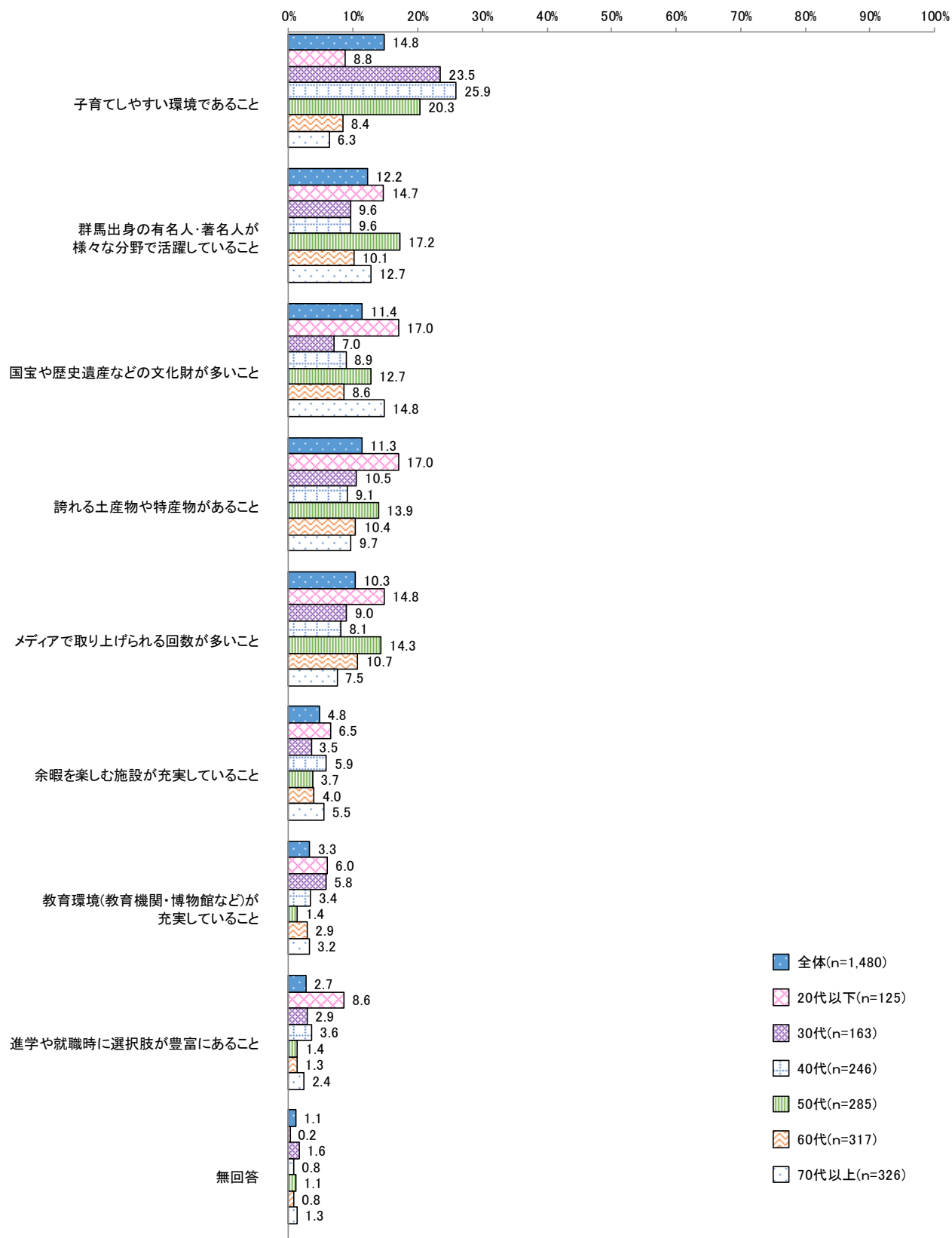
また、30代以下、60代では「都心部へのアクセスが便利なこと」がいずれも3割台となり、他の年代と比べて高くなっています。

【性別】



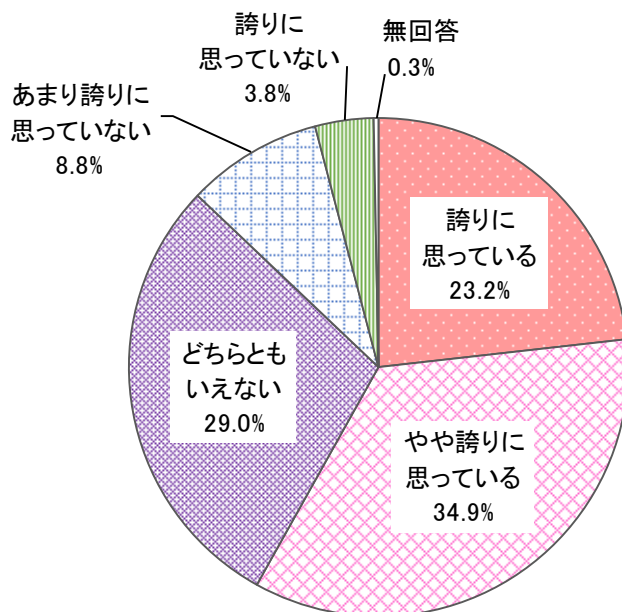
【年代別】





(2) 群馬県への誇り

Q あなたは、群馬県のことを誇りに思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ)



(n=1,480)

— 群馬県を『誇りに思っている』は6割弱 —

【全体結果】

群馬県への誇りについて、「誇りに思っている」(23.2%)と「やや誇りに思っている」(34.9%)を合わせた『誇りに思っている』(58.1%)は6割弱となっています。「あまり誇りに思っていない」(8.8%)と「誇りに思っていない」(3.8%)を合わせた『誇りに思っていない』(12.6%)は1割台となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、『誇りに思っている』は0.2ポイント増加と同程度となっています。『誇りに思っていない』は2.4ポイント増加しています。

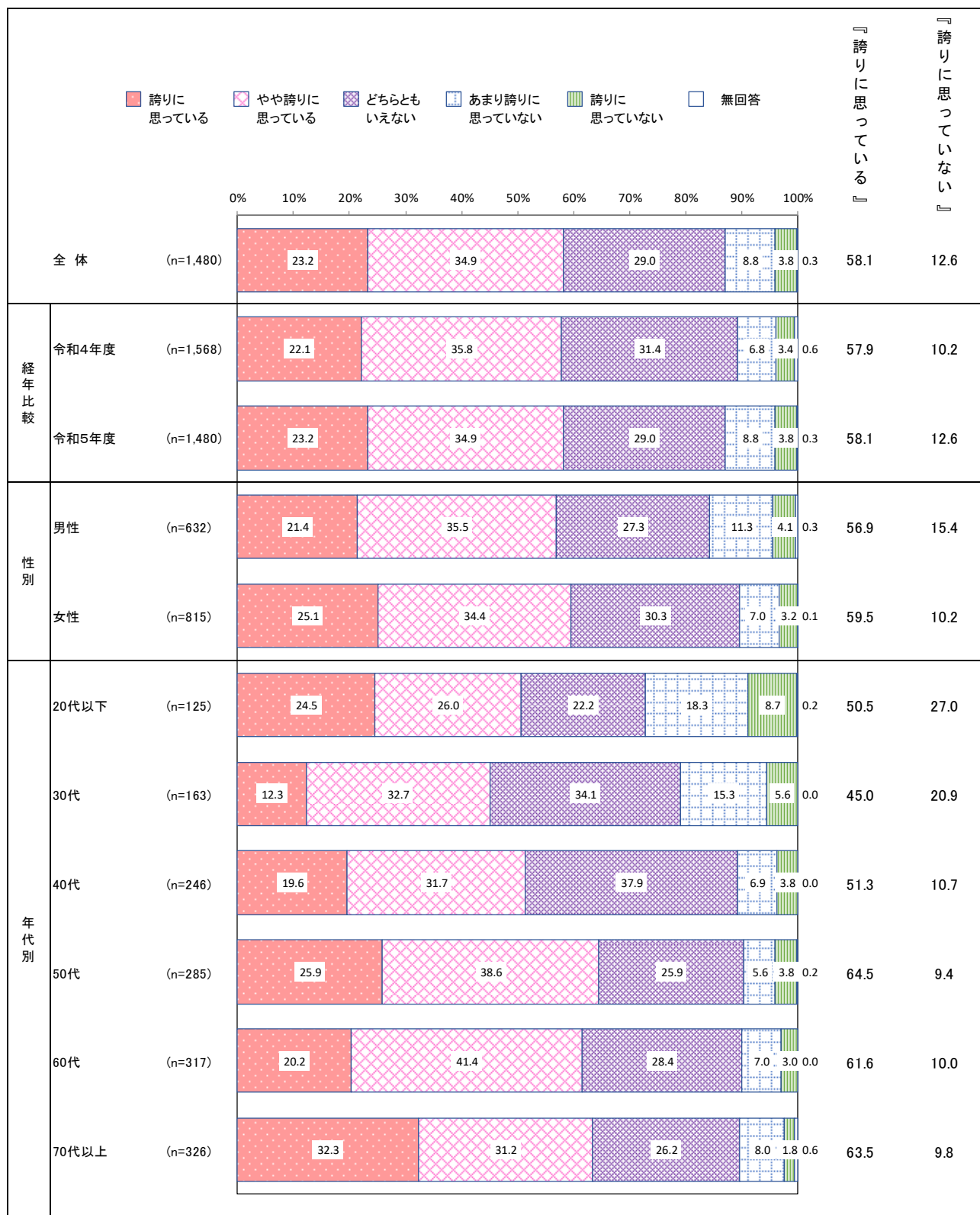
【属性別結果】

ア 性別

『誇りに思っている』は、男性(56.9%)に比べて女性(59.5%)が2.6ポイント高くなっています。

イ 年代別

『誇りに思っている』は、50代以上(64.5%)で最も高く、30代(45.0%)で最も低くなっています。「誇りに思っている」は、70代以上(32.3%)で3割台とやや高くなっています。



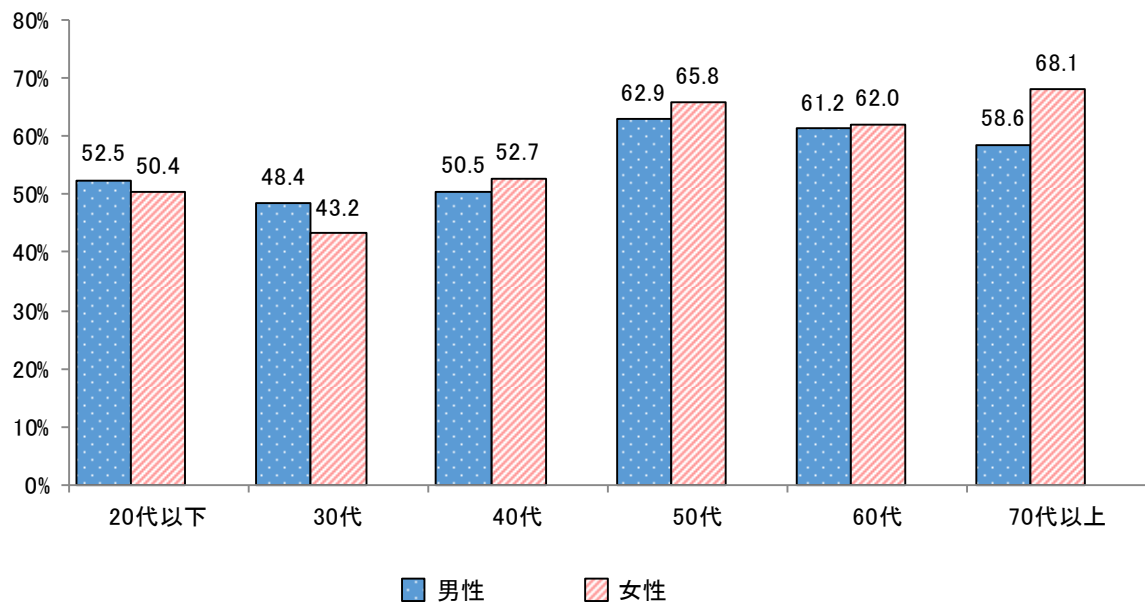
【性別・年代別の傾向】

『誇りに思っている』（「誇りに思っている」＋「やや誇りに思っている」）割合について、性別・年代別の傾向を分析しました。

群馬県を『誇りに思っている』割合は、男性では50代、60代で6割台と高く、30代で4割台と最も低くなっています。女性では、50代以上が6割台と高く、30代で4割台と最も低くなっています。

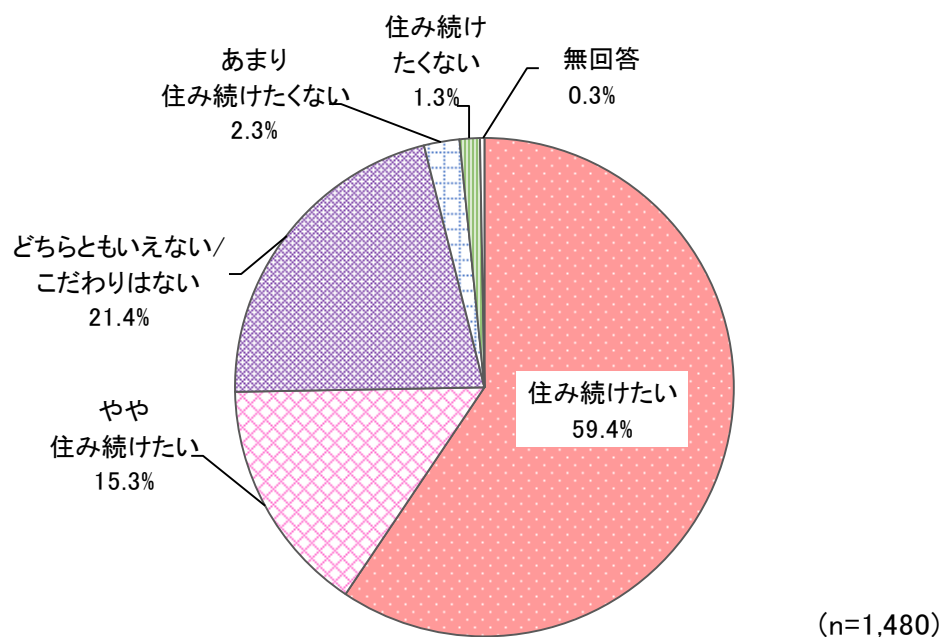
『誇りに思っている』の割合は、30代以下では女性より男性の方が高く、40代以上では男性より女性の方が高くなっています。特に70代以上では9.5ポイントの差がみられました。

群馬県を『誇りに思っている』と回答した割合（性別・年代別）



(3) 今後の居留意向

Q あなたは、今後も群馬県に住み続けたいと思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ)



— 『住み続けたい』は7割台 —

【全体結果】

今後の居留意向について、「住み続けたい」(59.4%)と「やや住み続けたい」(15.3%)を合わせた『住み続けたい』(74.7%)は7割台となっています。「あまり住み続けたくない」(2.3%)と「住み続けたくない」(1.3%)を合わせた『住み続けたくない』(3.6%)は1割未満となっています。「どちらともいえない/こだわりはない」(21.4%)は2割台となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、『住み続けたい』は3.5ポイント、『住み続けたくない』は0.5ポイントそれぞれ減少しています。

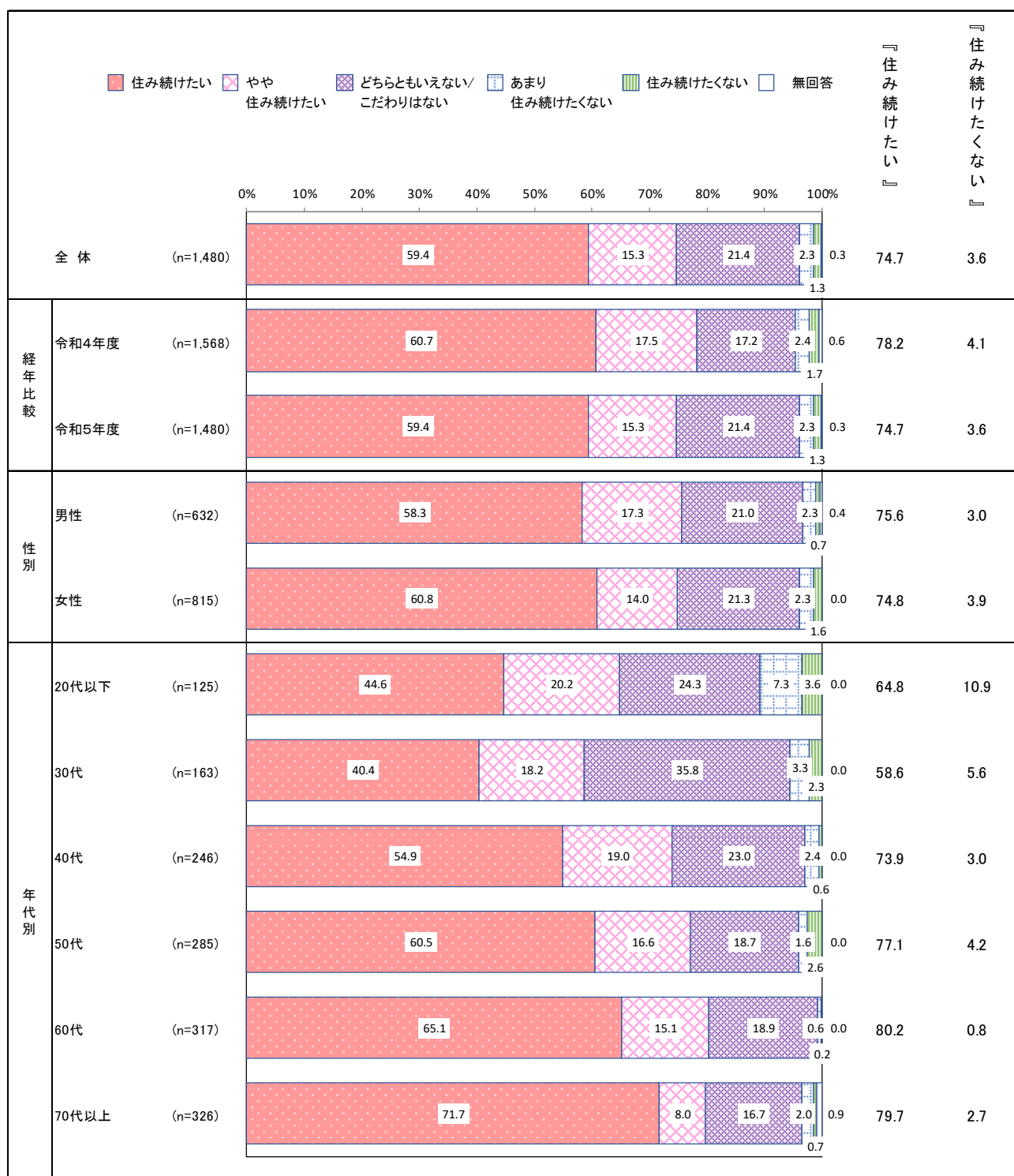
【属性別結果】

ア 性別

『住み続けたい』は、女性(74.8%)に比べて男性(75.6%)が0.8ポイント高くなっています。

イ 年代

『住み続けたい』は、60代(80.2%)で最も高く約8割、次いで70代以上(79.7%)と、50代(77.1%)で7割台となっています。最も低いのは30代(58.6%)となり、「どちらともいえない/こだわりはない」の割合が3割台と、他の年代に比べ高くなっています。



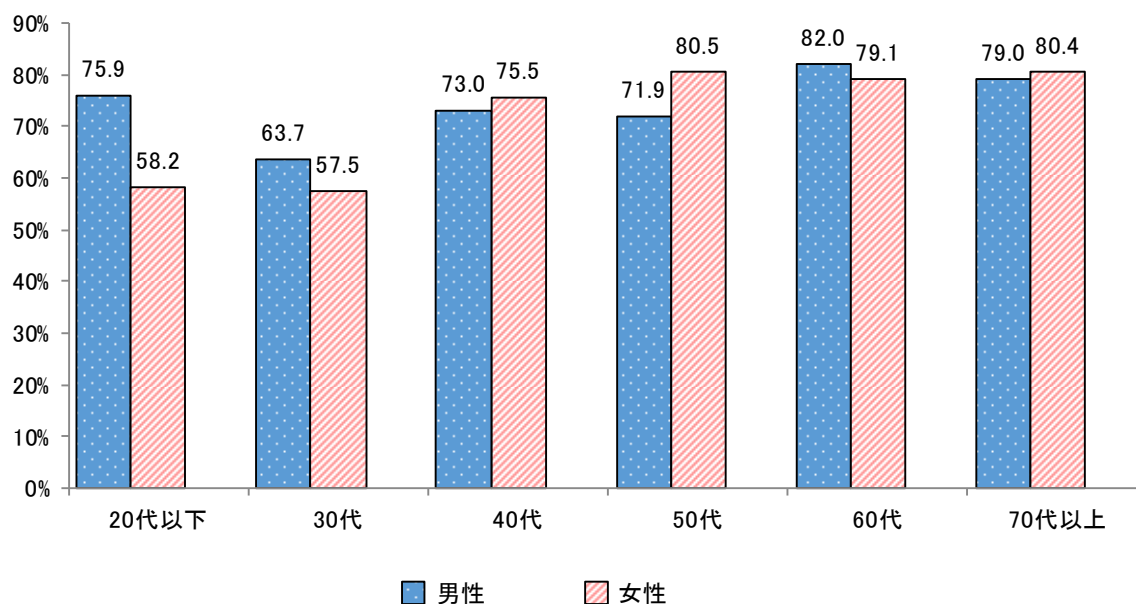
【性別・年代別の傾向】

『住み続けたい』（「住み続けたい」＋「やや住み続けたい」）割合について、性別・年代別の傾向を分析しました。

今後も群馬県に『住み続けたい』割合は、男性では60代で8割台と最も高く、30代で6割台と最も低くなっています。女性では、50代以上では約8割と高く、30代で5割台と最も低くなっています。

『住み続けたい』の割合は、30代以下と60代では女性より男性の方が高く、特に20代以下では17.7ポイントの差がみられました。40代、50代、70代以上では男性より女性の方が高くなっています。

今後も群馬県に『住み続けたい』と回答した割合（性別・年代別）



3. 居住地域や社会状況等への所感（施策実感）について

（１） 施策実感について

Q 次の1～40の質問について、あなたの実感に最も近いものをそれぞれ1つずつ選び、番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

① 施策実感結果一覧

居住地域や社会状況等に関する40項目の施策実感平均得点をランキング化しました。

結果の一覧は次ページのとおりです。

※施策実感の平均得点の算出方法

25ページで算出した幸福実感の平均得点と同様に、「感じる」を100点、「やや感じる」を75点、「どちらともいえない」を50点、「あまり感じない」を25点、「感じない」を0点とし、合計値を「感じる」から「感じない」の回答数の合計で除して算出しました。

* 過年度の調査結果報告書では、合計値を全体の回答数から無回答を引いた数で除して算出しています。本調査は標本補正を行っており、小数点以下を四捨五入していることから、「感じる」から「感じない」の回答数と無回答の合計値が全体の回答数が一致しない場合があります、過年度の調査結果報告書と平均得点が一致しない場合があります。

— 施策実感の最上位は「安心・安全な食品・農畜産物の提供」 —

【全体結果】

居住地域や社会状況等における施策実感平均得点は、「安心・安全な食品・農畜産物の提供」（65.2点）で最も得点が高くなっています。次いで、「治安がよく安心した生活」（63.8点）、「群馬の歴史文化への誇り」（60.9点）、「消費者としての安心・安全」（57.5点）、「海外からの観光客にとって魅力的だと思える観光地」（57.1点）、「運動やスポーツに取り組むことができる環境」（56.4点）と続いています。

【属性別結果】（上位5項目）

ア 性別

男女ともに「安心・安全な食品・農畜産物の提供」が最も高くなっています。

イ 年代別

50代と70代以上を除く年代では、上位2項目は「安心・安全な食品・農畜産物の提供」、「治安がよく安心した生活」となっています。50代と70代以上の上位2項目は「安心・安全な食品・農畜産物の提供」、「群馬の歴史文化への誇り」となっています。

40代以下では上位5項目に「移住者を受け入れる土壌」がはいりました。

平均より高い

↑

平均より低い

↓

順位	項目	施策実感平均得点		差異 (R5-R4)
		令和4年度	令和5年度	
1	安心・安全な食品・農畜産物の提供	66.2	65.2	▲ 1.0
2	治安がよく安心した生活	66.5	63.8	▲ 2.7
3	群馬の歴史文化への誇り	61.8	60.9	▲ 0.9
4	消費者としての安心・安全	58.6	57.5	▲ 1.1
5	海外からの観光客にとって魅力的だと思う観光地	58.8	57.1	▲ 1.7
6	運動やスポーツに取り組むことができる環境	58.5	56.4	▲ 2.1
7	救急医療体制	57.4	56.2	▲ 1.2
8	近隣住民同士が困ったときに助け合える地域環境	56.3	56.0	▲ 0.3
9	健診や生活習慣病対策など健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境	57.9	56.0	▲ 1.9
10	移住者を受け入れる土壌	55.1	55.2	0.1
11	自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	55.9	54.5	▲ 1.4
12	芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場	54.3	53.6	▲ 0.7
13	安心して子どもを産み育てられる環境	53.8	52.4	▲ 1.4
14	災害時に必要な情報提供を受けられる体制	52.3	52.0	▲ 0.3
15	必要な医療サービスを受けられる体制	52.5	51.4	▲ 1.1
16	運動やスポーツを観戦する機会	49.8	50.8	1.0
17	群馬県産の農林水産物のブランド評価、県内外への販路拡大	51.7	50.6	▲ 1.1
18	介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境	52.5	50.5	▲ 2.0
19	ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	48.7	50.3	1.6
20	魅力ある観光地づくり	51.8	50.1	▲ 1.7
21	教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組	52.1	50.0	▲ 2.1
22	交通事故が少なく安全な生活	53.5	49.7	▲ 3.8
23	外国人と日本人が国籍・民族・文化の違いを理解し、認め合う暮らし	50.4	49.2	▲ 1.2
24	自主的な健康づくりを促すための支援	49.8	48.9	▲ 0.9
25	性別や年齢、障害の有無、国籍などにとらわれない、社会のあらゆる分野での個性と能力の発揮	47.0	47.8	0.8
26	子育てをしながら働き続けられる環境	47.8	47.4	▲ 0.4
27	群馬県の文化、産業、観光などの魅力が広く世界に発信され、認められている	46.7	46.6	▲ 0.1
28	食品ロスを減らすための行動の定着	45.3	46.5	1.2
29	子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育	45.1	44.2	▲ 0.9
30	行政手続きのデジタル化と、利便性の向上	44.6	44.1	▲ 0.5
31	地球温暖化防止のための再生可能エネルギーの普及や利活用	44.1	43.1	▲ 1.0
32	働きやすい職場環境の整備	43.7	43.0	▲ 0.7
33	適切な森林の管理や利用	43.1	42.4	▲ 0.7
34	悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境	43.5	42.0	▲ 1.5
35	自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間の整備	45.1	41.2	▲ 3.9
36	新たな価値やビジネスを創出するために、行政と民間が連携・協力する体制	40.0	40.9	0.9
37	公共施設や住宅などに県産材等の木材が使われている	41.6	39.8	▲ 1.8
38	農林水産業の担い手の確保・育成	40.8	39.8	▲ 1.0
39	十分な収入を得ることができる仕事	39.3	39.1	▲ 0.2
40	鉄道・バスなどの公共交通機関の利用しやすさ	31.8	30.3	▲ 1.5
平均		50.4	49.4	▲ 1.0

【性別】

男性		
順位	項目	施策実感 平均得点
1	安心・安全な食品・農畜産物の提供	63.8
2	治安がよく安心した生活	61.6
3	群馬の歴史文化への誇り	59.8
4	救急医療体制	56.3
5	運動やスポーツに取り組むことができる環境	55.9

女性		
順位	項目	施策実感 平均得点
1	安心・安全な食品・農畜産物の提供	66.5
2	治安がよく安心した生活	65.5
3	群馬の歴史文化への誇り	62.1
4	消費者としての安心・安全	59.0
5	海外からの観光客にとって魅力的だと思ふ観光地	58.8

【年代別】

20代以下		
順位	項目	施策実感 平均得点
1	安心・安全な食品・農畜産物の提供	70.2
2	治安がよく安心した生活	66.8
3	移住者を受け入れる土壌	61.8
4	自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	60.9
5	群馬の歴史文化への誇り	60.4

30代		
順位	項目	施策実感 平均得点
1	安心・安全な食品・農畜産物の提供	61.0
2	治安がよく安心した生活	57.3
3	海外からの観光客にとって魅力的だと思ふ観光地	54.3
4	移住者を受け入れる土壌	54.0
5	運動やスポーツに取り組むことができる環境	54.0

40代		
順位	項目	施策実感 平均得点
1	安心・安全な食品・農畜産物の提供	65.3
2	治安がよく安心した生活	64.3
3	群馬の歴史文化への誇り	57.6
4	消費者としての安心・安全	55.3
5	移住者を受け入れる土壌	54.9

50代		
順位	項目	施策実感 平均得点
1	安心・安全な食品・農畜産物の提供	65.7
2	群馬の歴史文化への誇り	62.5
3	治安がよく安心した生活	62.4
4	海外からの観光客にとって魅力的だと思ふ観光地	56.8
5	消費者としての安心・安全	56.6

60代		
順位	項目	施策実感 平均得点
1	治安がよく安心した生活	65.1
2	安心・安全な食品・農畜産物の提供	65.0
3	群馬の歴史文化への誇り	62.9
4	消費者としての安心・安全	60.4
5	近隣住民同士が困ったときに助け合える地域環境	58.2

70代以上		
順位	項目	施策実感 平均得点
1	安心・安全な食品・農畜産物の提供	65.2
2	群馬の歴史文化への誇り	65.0
3	治安がよく安心した生活	64.9
4	救急医療体制	63.5
5	健診や生活習慣病対策など 健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境	61.8

② 施策実感の経年変化

40 項目に関して、令和 2 年度及び令和 4 年度の結果との施策実感平均得点の差の検定を行いました(各年度アンケートと令和 5 年度アンケートの平均得点には差がないとする帰無仮説を検定)。有意水準を 1%、5%、10%とし、どの水準において有意となるか検証しました。統計的有意差検定や有意水準の考え方については、25 ページをご参照ください。

結果は以下のとおりです。

【令和 2 年度との比較】

項目	施策実感平均得点		差 (R5-R2)	P値	有意水準 統計的な有意差が 認められる場合に「○」		
	令和2年度	令和5年度			1%	5%	10%
教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組	45.8	50.0	4.2	0.000	○	○	○
食品ロスを減らすための行動の定着	43.3	46.5	3.2	0.000	○	○	○
運動やスポーツを観戦する機会	48.3	50.8	2.6	0.002	○	○	○
子育てをしながら働き続けられる環境	45.1	47.4	2.2	0.012	—	○	○
行政手続きのデジタル化と、利便性の向上	42.3	44.1	1.8	0.046	—	○	○
鉄道・バスなどの公共交通機関の利用しやすさ	28.7	30.3	1.6	0.102	—	—	—
群馬県の文化、産業、観光などの魅力が広く世界に発信され、認められている	45.2	46.6	1.4	0.108	—	—	—
ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	48.9	50.3	1.4	0.088	—	—	○
性別や年齢、障害の有無、国籍などにとらわれない、社会のあらゆる分野での個性と能力の発揮	46.5	47.8	1.3	0.113	—	—	—
芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場	53.0	53.6	0.7	0.451	—	—	—
魅力ある観光地づくり	49.8	50.1	0.3	0.710	—	—	—
外国人と日本人が国籍・民族・文化の違いを理解し、認め合う暮らし	49.0	49.2	0.2	0.858	—	—	—
新たな価値やビジネスを創出するために、行政と民間が連携・協力する体制	40.8	40.9	0.1	0.904	—	—	—
海外からの観光客にとって魅力的だと思える観光地	57.2	57.1	▲ 0.1	0.905	—	—	—
適切な森林の管理や利用	42.8	42.4	▲ 0.3	0.672	—	—	—
農林水産業の担い手の確保・育成	40.4	39.8	▲ 0.6	0.393	—	—	—
悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境	42.8	42.0	▲ 0.8	0.351	—	—	—
救急医療体制	57.0	56.2	▲ 0.8	0.364	—	—	—
災害時に必要な情報提供を受けられる体制	52.9	52.0	▲ 0.9	0.295	—	—	—
近隣住民同士が困ったときに助け合える地域環境	56.9	56.0	▲ 1.0	0.318	—	—	—
移住者を受け入れる土壌	56.3	55.2	▲ 1.1	0.240	—	—	—
自主的な健康づくりを促すための支援	50.2	48.9	▲ 1.3	0.129	—	—	—
働きやすい職場環境の整備	44.4	43.0	▲ 1.4	0.067	—	—	○
群馬の歴史文化への誇り	62.4	60.9	▲ 1.5	0.086	—	—	○
十分な収入を得ることができる仕事	40.7	39.1	▲ 1.6	0.072	—	—	○
自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	56.1	54.5	▲ 1.6	0.043	—	○	○
公共施設や住宅などに県産材等の木材が使われている	41.5	39.8	▲ 1.6	0.043	—	○	○
安心・安全な食品・農畜産物の提供	66.9	65.2	▲ 1.7	0.024	—	○	○
介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境	52.3	50.5	▲ 1.8	0.036	—	○	○
必要な医療サービスを受けられる体制	53.2	51.4	▲ 1.8	0.035	—	○	○
健診や生活習慣病対策など健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境	57.8	56.0	▲ 1.9	0.031	—	○	○
交通事故が少なく安全な生活	51.7	49.7	▲ 2.0	0.022	—	○	○
子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育	46.3	44.2	▲ 2.0	0.007	○	○	○
運動やスポーツに取り組むことができる環境	58.7	56.4	▲ 2.3	0.006	○	○	○
群馬県産の農林水産物のブランド評価、県内外への販路拡大	53.0	50.6	▲ 2.4	0.004	○	○	○
治安がよく安心した生活	66.7	63.8	▲ 2.9	0.000	○	○	○
地球温暖化防止のための再生可能エネルギーの普及や利活用	46.3	43.1	▲ 3.2	0.000	○	○	○
消費者としての安心・安全	60.9	57.5	▲ 3.3	0.000	○	○	○
安心して子どもを産み育てられる環境	56.1	52.4	▲ 3.7	0.000	○	○	○
自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間の整備	45.1	41.2	▲ 3.9	0.000	○	○	○

施策実感が有意に上昇した項目（有意水準10％）

項目		施策実感平均得点		差 (R5-R2)
		令和2年度	令和5年度	
1	教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組	45.8	50.0	4.2
2	食品ロスを減らすための行動の定着	43.3	46.5	3.2
3	運動やスポーツを観戦する機会	48.3	50.8	2.6
4	子育てをしながら働き続けられる環境	45.1	47.4	2.2
5	行政手続きのデジタル化と、利便性の向上	42.3	44.1	1.8
6	ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	48.9	50.3	1.4

施策実感が有意に下降した項目（有意水準10％）

項目		施策実感平均得点		差 (R5-R2)
		令和2年度	令和5年度	
1	自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間の整備	45.1	41.2	▲ 3.9
2	安心して子どもを産み育てられる環境	56.1	52.4	▲ 3.7
3	消費者としての安心・安全	60.9	57.5	▲ 3.3
4	地球温暖化防止のための再生可能エネルギーの普及や利活用	46.3	43.1	▲ 3.2
5	治安がよく安心した生活	66.7	63.8	▲ 2.9
6	群馬県産の農林水産物のブランド評価、県内外への販路拡大	53.0	50.6	▲ 2.4
7	運動やスポーツに取り組むことができる環境	58.7	56.4	▲ 2.3
8	子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育	46.3	44.2	▲ 2.0
9	交通事故が少なく安全な生活	51.7	49.7	▲ 2.0
10	健診や生活習慣病対策など健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境	57.8	56.0	▲ 1.9
11	必要な医療サービスを受けられる体制	53.2	51.4	▲ 1.8
12	介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境	52.3	50.5	▲ 1.8
13	安心・安全な食品・農畜産物の提供	66.9	65.2	▲ 1.7
14	公共施設や住宅などに県産材等の木材が使われている	41.5	39.8	▲ 1.6
15	自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	56.1	54.5	▲ 1.6
16	十分な収入を得ることができる仕事	40.7	39.1	▲ 1.6
17	群馬の歴史文化への誇り	62.4	60.9	▲ 1.5
18	働きやすい職場環境の整備	44.4	43.0	▲ 1.4

— 施策実感が有意に上昇したのは「教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組」、「食品ロスを減らすための行動の定着」等 —

令和2年度と令和5年度の施策実感平均得点を比較すると、平均得点が増加したのは13項目、低下したのは27項目となりました。

施策実感平均得点が増加したのは、「教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組」、「食品ロスを減らすための行動の定着」、「運動やスポーツを観戦する機会」、「子育てをしながら働き続けられる環境」、「行政手続きのデジタル化と、利便性の向上」、「ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会」の6項目となっています。

一方で、施策実感平均得点が増加しなかったのは、「自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間の整備」、「安心して子どもを産み育てられる環境」、「消費者としての安心・安全」、「地球温暖化防止のための再生可能エネルギーの普及や利活用」等の18項目となっています。

【令和４年度との比較】

項目	施策実感平均得点		差 (R5-R4)	P値	有意水準 統計的な有意差が 認められる場合に「○」		
	令和4年度	令和5年度			1%	5%	10%
ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	48.7	50.3	1.6	0.060	－	－	○
食品ロスを減らすための行動の定着	45.3	46.5	1.2	0.193	－	－	－
運動やスポーツを観戦する機会	49.8	50.8	1.1	0.217	－	－	－
新たな価値やビジネスを創出するために、行政と民間が連携・協力する体制	40.0	40.9	0.8	0.291	－	－	－
性別や年齢、障害の有無、国籍などにとらわれない、社会のあらゆる分野での個性と能力の発揮	47.0	47.8	0.7	0.380	－	－	－
移住者を受け入れる土壌	55.1	55.2	0.1	0.914	－	－	－
十分な収入を得ることができ仕事	39.3	39.1	▲ 0.2	0.861	－	－	－
群馬県の文化、産業、観光などの魅力が広く世界に発信され、認められている	46.7	46.6	▲ 0.2	0.859	－	－	－
災害時に必要な情報提供を受けられる体制	52.3	52.0	▲ 0.3	0.750	－	－	－
近隣住民同士が困ったときに助け合える地域環境	56.3	56.0	▲ 0.4	0.708	－	－	－
子育てをしながら働き続けられる環境	47.8	47.4	▲ 0.4	0.663	－	－	－
行政手続きのデジタル化と、利便性の向上	44.6	44.1	▲ 0.5	0.618	－	－	－
適切な森林の管理や利用	43.1	42.4	▲ 0.7	0.405	－	－	－
芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場	54.3	53.6	▲ 0.7	0.440	－	－	－
働きやすい職場環境の整備	43.7	43.0	▲ 0.7	0.389	－	－	－
自主的な健康づくりを促すための支援	49.8	48.9	▲ 0.9	0.312	－	－	－
子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育	45.1	44.2	▲ 0.9	0.287	－	－	－
群馬の歴史文化への誇り	61.8	60.9	▲ 0.9	0.317	－	－	－
地球温暖化防止のための再生可能エネルギーの普及や利活用	44.1	43.1	▲ 1.0	0.289	－	－	－
農林水産業の担い手の確保・育成	40.8	39.8	▲ 1.0	0.194	－	－	－
安心・安全な食品・農畜産物の提供	66.2	65.2	▲ 1.0	0.186	－	－	－
消費者としての安心・安全	58.6	57.5	▲ 1.1	0.187	－	－	－
群馬県産の農林水産物のブランド評価、県内外への販路拡大	51.7	50.6	▲ 1.1	0.200	－	－	－
必要な医療サービスを受けられる体制	52.5	51.4	▲ 1.2	0.192	－	－	－
外国人と日本人が国籍・民族・文化の違いを理解し、認め合う暮らし	50.4	49.2	▲ 1.2	0.173	－	－	－
救急医療体制	57.4	56.2	▲ 1.2	0.169	－	－	－
安心して子どもを産み育てられる環境	53.8	52.4	▲ 1.4	0.123	－	－	－
悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境	43.5	42.0	▲ 1.4	0.092	－	－	○
自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	55.9	54.5	▲ 1.5	0.078	－	－	○
鉄道・バスなどの公共交通機関の利用しやすさ	31.8	30.3	▲ 1.6	0.118	－	－	－
魅力ある観光地づくり	51.8	50.1	▲ 1.7	0.062	－	－	○
海外からの観光客にとって魅力的だと思える観光地	58.8	57.1	▲ 1.7	0.076	－	－	○
公共施設や住宅などに県産材等の木材が使われている	41.6	39.8	▲ 1.7	0.034	－	○	○
介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境	52.5	50.5	▲ 2.0	0.027	－	○	○
健診や生活習慣病対策など健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境	57.9	56.0	▲ 2.0	0.025	－	○	○
運動やスポーツに取り組むことができる環境	58.5	56.4	▲ 2.1	0.015	－	○	○
教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組	52.1	50.0	▲ 2.1	0.014	－	○	○
治安がよく安心した生活	66.5	63.8	▲ 2.7	0.001	○	○	○
交通事故が少なく安全な生活	53.5	49.7	▲ 3.8	0.000	○	○	○
自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間の整備	45.1	41.2	▲ 3.9	0.000	○	○	○

施策実感が有意に上昇した項目（有意水準10％）

項目		施策実感平均得点		差 (R5-R4)
		令和4年度	令和5年度	
4	ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	48.7	50.3	1.6

施策実感が有意に下降した項目（有意水準10％）

項目		施策実感平均得点		差 (R5-R4)
		令和4年度	令和5年度	
1	自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間の整備	45.1	41.2	▲ 3.9
2	交通事故が少なく安全な生活	53.5	49.7	▲ 3.8
3	治安がよく安心した生活	66.5	63.8	▲ 2.7
4	教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組	52.1	50.0	▲ 2.1
5	運動やスポーツに取り組むことができる環境	58.5	56.4	▲ 2.1
6	健診や生活習慣病対策など健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境	57.9	56.0	▲ 2.0
7	介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境	52.5	50.5	▲ 2.0
8	公共施設や住宅などに県産材等の木材が使われている	41.6	39.8	▲ 1.7
9	海外からの観光客にとって魅力的だと思う観光地	58.8	57.1	▲ 1.7
10	魅力ある観光地づくり	51.8	50.1	▲ 1.7
11	自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	55.9	54.5	▲ 1.5
12	悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境	43.5	42.0	▲ 1.4

ー 施策実感が有意に上昇したのは「ボランティア活動や市民活動に取り組みやすい社会」 ー

令和4年度と令和5年度の施策実感平均得点を比較すると、平均得点が上昇したのは6項目、低下したのは34項目となりました。

施策実感平均得点が増加したのは、「ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会」の1項目となっています。

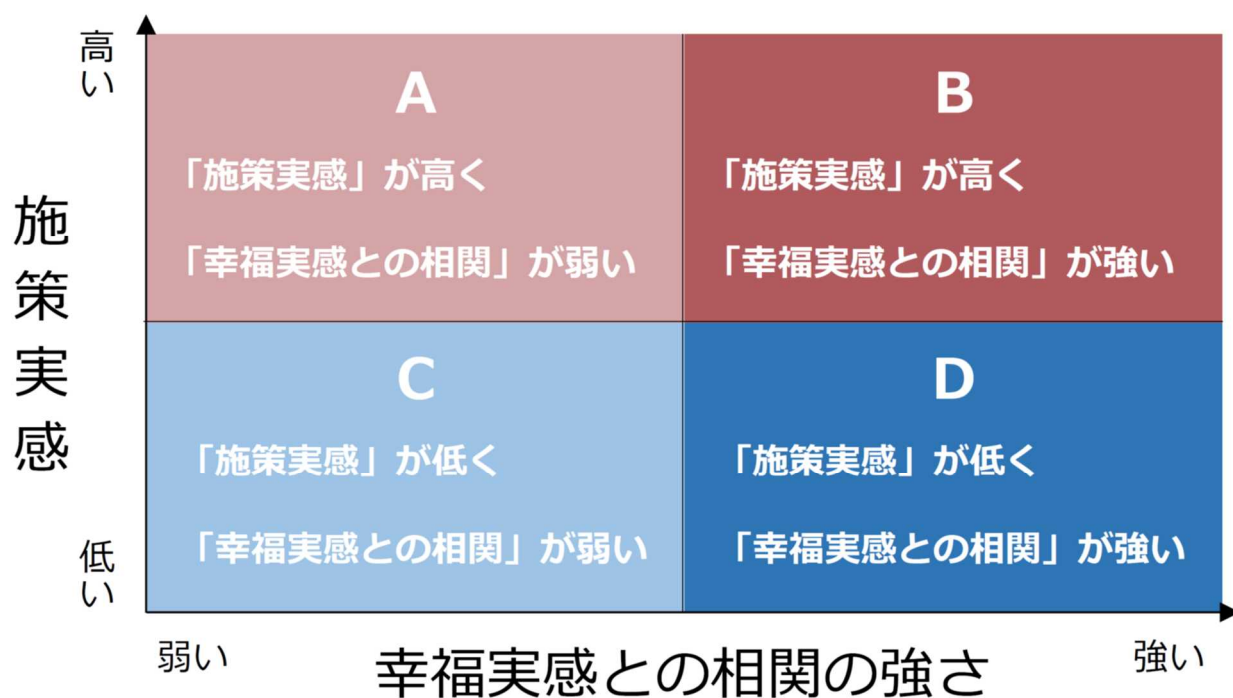
一方で、施策実感平均得点が増加したのは、「自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間の整備」、「交通事故が少なく安全な生活」、「治安がよく安心した生活」、「教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組」、「運動やスポーツに取り組むことができる環境」などの12項目となっています。

(2) 【参考】施策実感と幸福実感との関係

《施策実感の平均得点と幸福実感との相関の強さの散布図》

本県の取組における項目間の相対的な位置づけを整理するため、「施策実感の平均得点」を縦軸、「幸福実感との相関の強さ」を横軸にとり、各項目の「施策実感の平均得点」「幸福実感との相関の強さ」の数値を散布図に示しました。

「施策実感の平均得点」と「幸福実感との相関の強さ」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

幸福実感との相関は弱いが施策実感が高い項目。今後も現状を維持するよう取り組むべきと考えられる。

B：重点的維持領域

幸福実感との相関が強く施策実感も高い項目。高い施策実感を維持するために重点的に取り組むべきと考えられる。

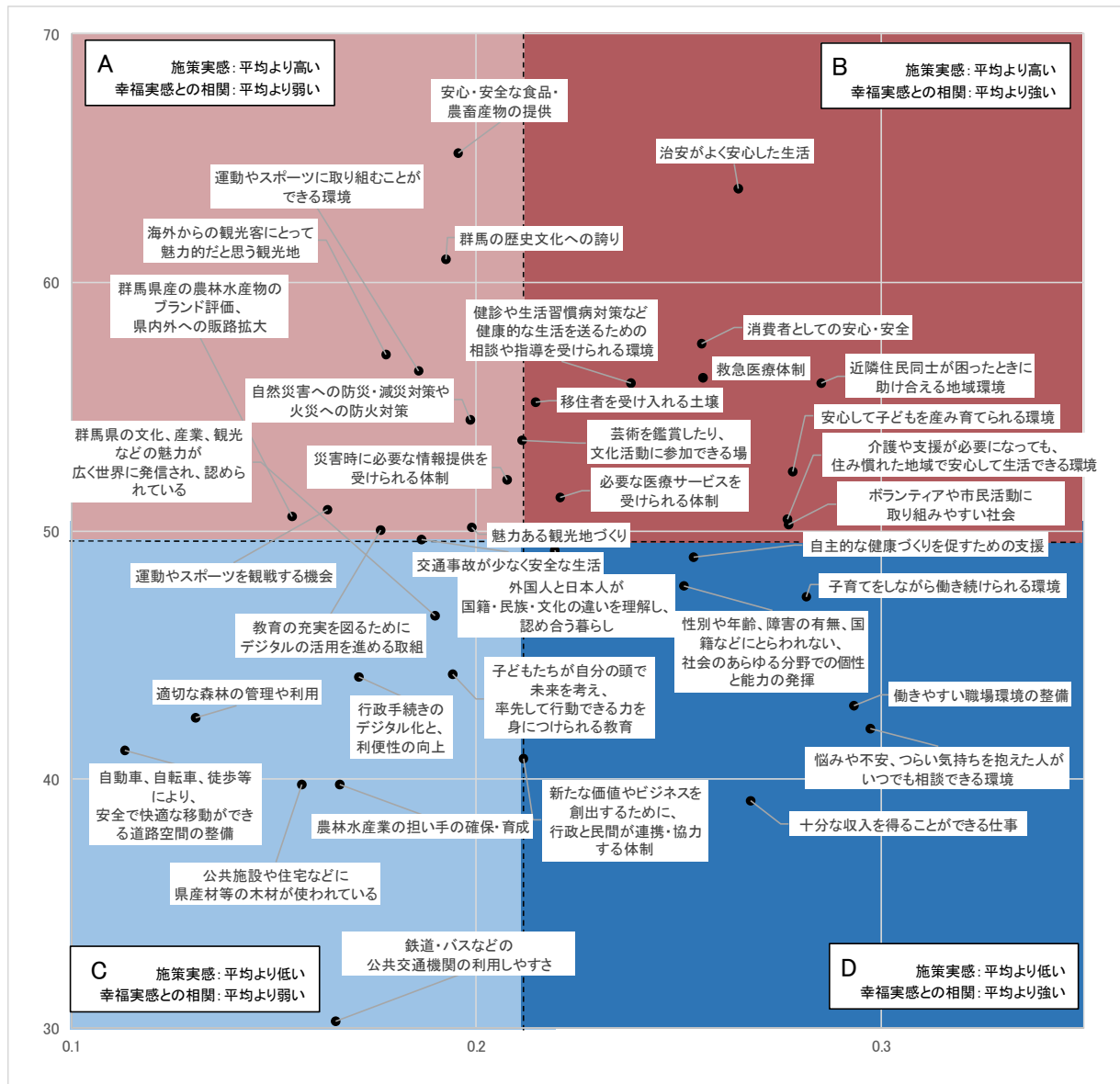
C：要検討領域

幸福実感との相関が弱く施策実感も低い項目。県民のニーズを捉えつつ、必要な施策を検討すべきと考えられる。

D：重点的改善領域

幸福実感との相関は強いが施策実感が低い項目。幸福実感の向上のために、重点的な改善の取組が必要と考えられる。

上記の領域に該当した項目の施策実感の高低や幸福実感との相関の強弱については、全体の平均と比較して、相対的に高い/強い、または低い/弱いということになります。



幸福実感との相関の強さ

— 幸福実感と相関が強く、施策実感が低い項目は「悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境」等 —

幸福実感と相関が強く、施策実感が低い「D 重点的改善領域」の項目は、「悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境」、「働きやすい職場環境の整備」、「子育てをしながら働き続けられる環境」、「十分な収入を得ることができる仕事」、「自主的な健康づくりを促すための支援」、「性別や年齢、障害の有無、国籍などにとらわれない、社会のあらゆる分野での個性と能力の発揮」、「外国人と日本人が国籍・民族・文化の違いを理解し、認め合う暮らし」となっています。

なお、幸福実感との相関の強さ（相関係数）については、最も相関が高い「悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境」でも 0.30 にとどまっており、いずれの項目も強い相関まではみられませんでした※。

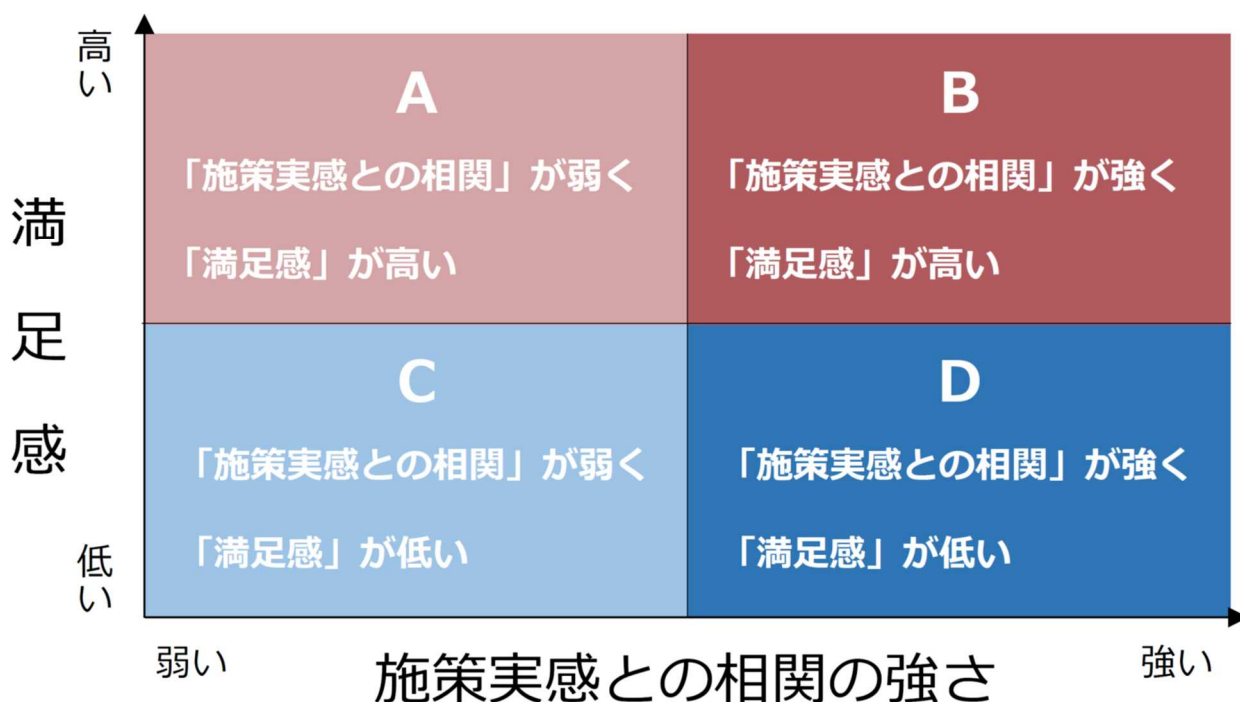
※一般的に、相関係数が 0.2 を超えると弱い相関があると認められ、0.7 を超えると強い相関があると認められます。

(3) 【参考】満足感と施策実感との関係

《満足感の平均得点と施策実感との相関の強さの散布図》

本県の取組における項目間の相対的な位置づけを整理するため、「満足感の平均得点」を縦軸、「施策実感との相関の強さ」を横軸にとり、各項目の「満足感の平均得点」「施策実感との相関の強さ」の数値を算出しました。ここでは特徴的な結果が表れた散布図を示します。

「満足感の平均得点」と「施策実感との相関の強さ」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

施策実感との相関は弱いが高満足度の項目。今後も現状を維持するよう取り組むべきと考えられる。

B：重点的維持領域

施策実感との相関が強く満足度も高い項目。高い満足度を維持するために重点的に取り組むべきと考えられる。

C：要検討領域

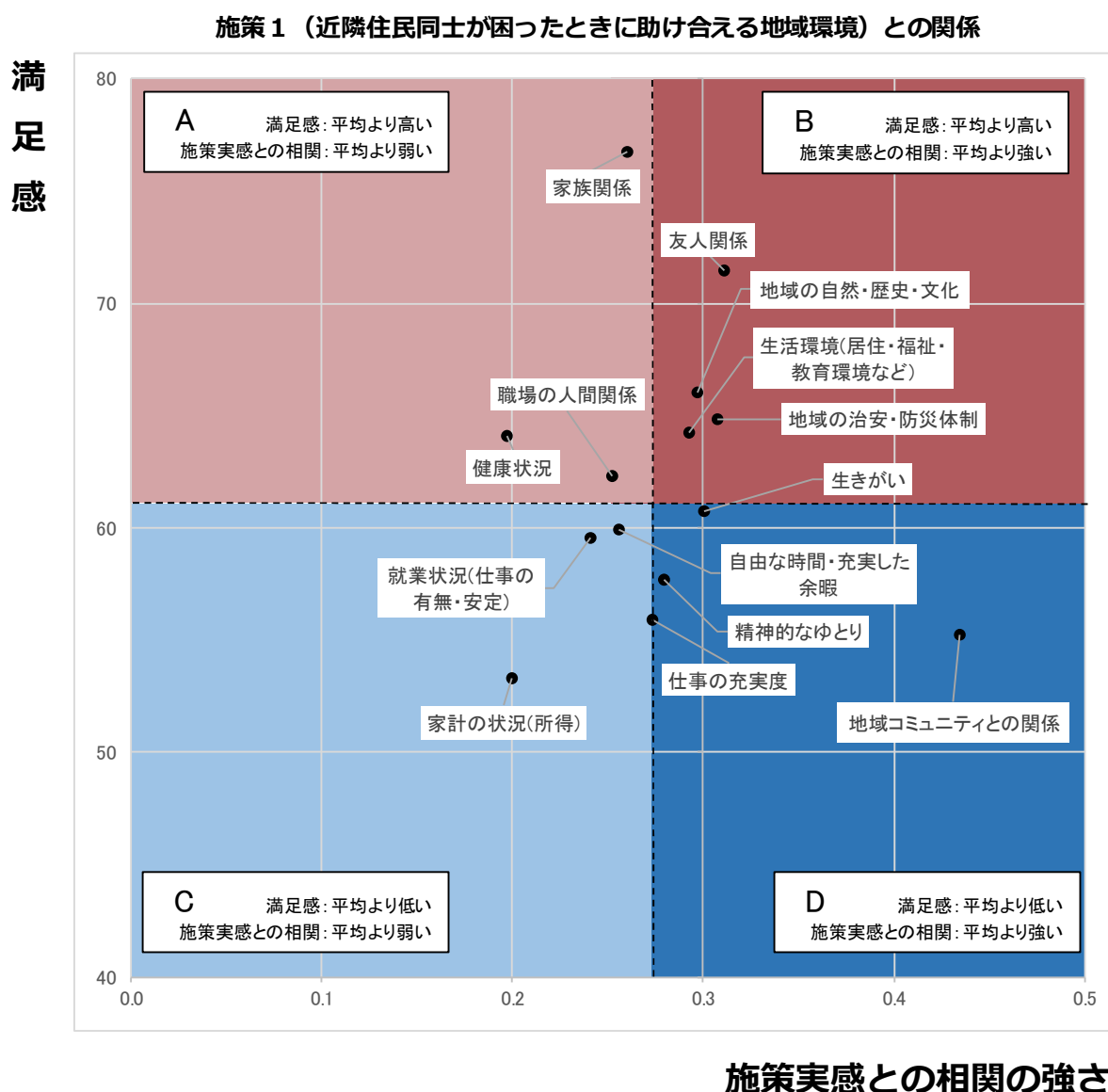
施策実感との相関が弱く満足度も低い項目。県民のニーズを捉えつつ、現状の施策内容を検討すべきと考えられる。

D：重点的改善領域

施策実感との相関は強いが満足度が低い項目。満足度の向上のために、重点的な改善の取組が必要と考えられる。

上記の領域に該当した項目の満足度の高低や施策実感との相関の強弱については、全体の平均と比較して、相対的に高い/強い、または低い/弱いということになります。

《満足感の平均得点と施策実感（施策 1）との相関の強さの散布図》



— 施策 1 の施策実感と相関が強く、満足感が低い項目は「地域コミュニティとの関係」等 —
 施策 1「近隣住民同士が困ったときに助け合える地域環境」の施策実感と相関が強く、満足感が低い「D 重点的改善領域」の項目は、「地域コミュニティとの関係」、「生きがい」、「精神的なゆとり」となっています。

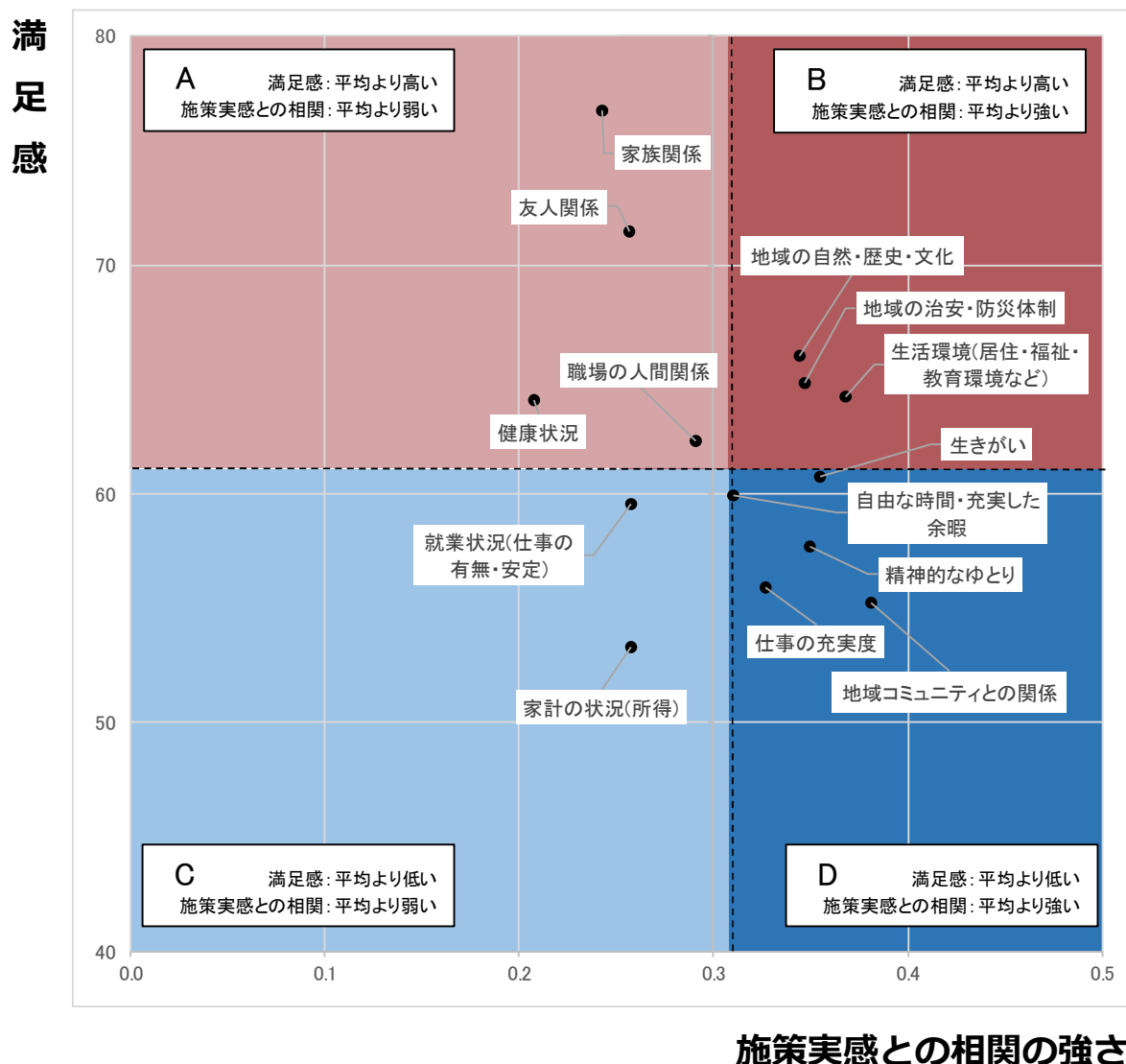
施策 1 の施策実感と相関が強く、満足感も高い「B 重点的維持領域」の項目は、「友人関係」、「地域の治安・防災体制」などでした。

なお、施策実感との相関の強さ（相関係数）については、最も相関が高い「地域コミュニティとの関係」でも 0.43 にとどまっており、いずれの項目も強い相関まではみられませんでした※。

※一般的に、相関係数が 0.2 を超えると弱い相関があると認められ、0.7 を超えると強い相関があると認められます。

《満足感の平均得点と施策実感（施策 19）との相関の強さの散布図》

施策19（悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境）との関係



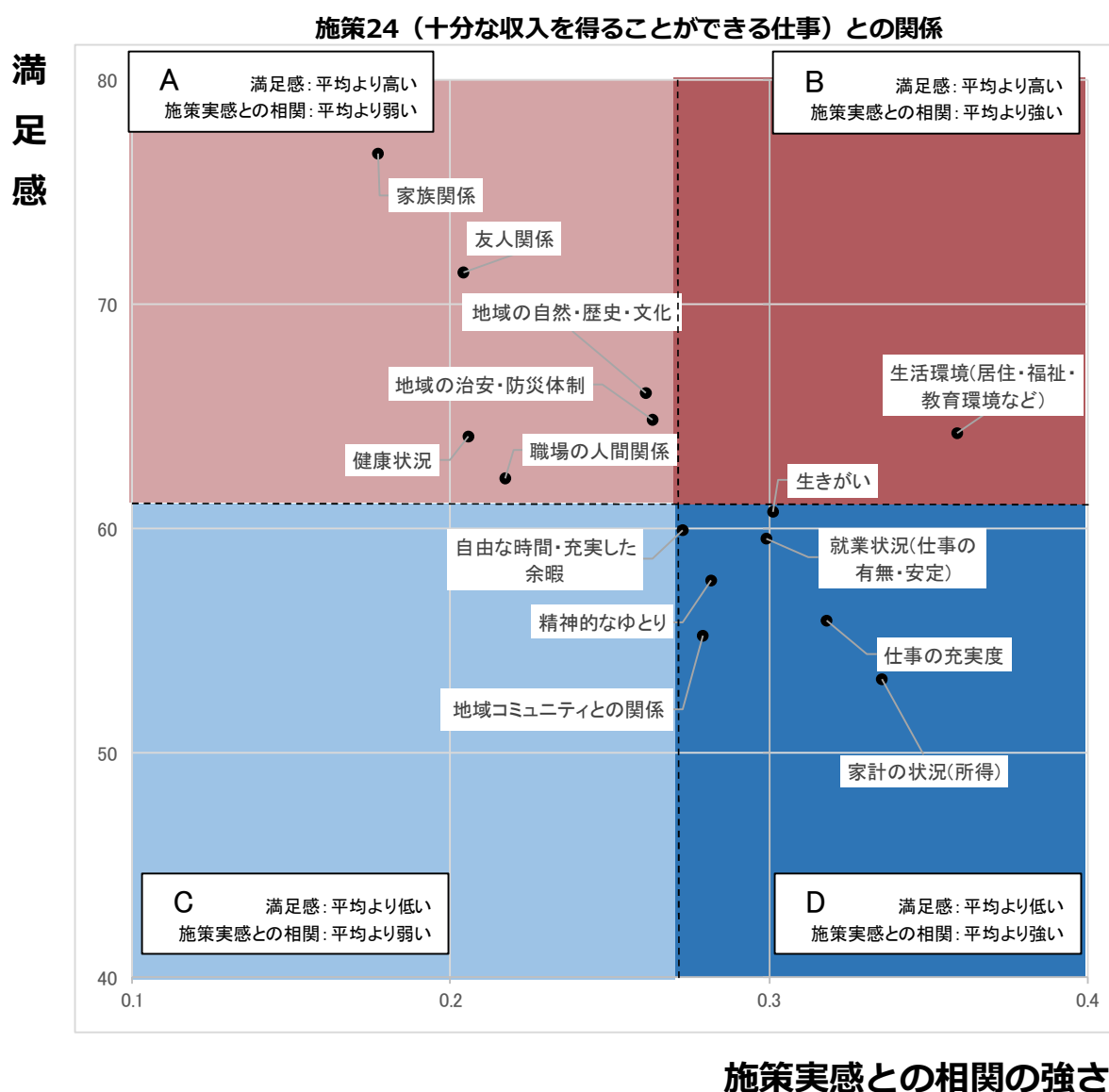
— 施策 19 の施策実感と相関が強く、満足感が低い項目は「地域コミュニティとの関係」等 —
 施策 19「悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境」の施策実感と相関が強く、満足感が低い「D 重点的改善領域」の項目は、「地域コミュニティとの関係」、「生きがい」、「精神的なゆとり」、「自由な時間・充実した余暇」、「仕事の充実度」となっています。

施策 19 の施策実感と相関が強く、満足感も高い「B 重点的維持領域」の項目は、「生活環境（居住・福祉・教育環境）など」、「地域の治安・防災体制」などでした。

なお、施策実感との相関の強さ（相関係数）については、最も相関が高い「地域コミュニティとの関係」でも 0.38 にとどまっており、いずれの項目も強い相関まではみられませんでした※。

※一般的に、相関係数が 0.2 を超えると弱い相関があると認められ、0.7 を超えると強い相関があると認められます。

《満足感の平均得点と施策実感（施策 24）との相関の強さの散布図》



— 施策 24 の施策実感と相関が強く、満足感が低い項目は「家計の状況（所得）」等 —

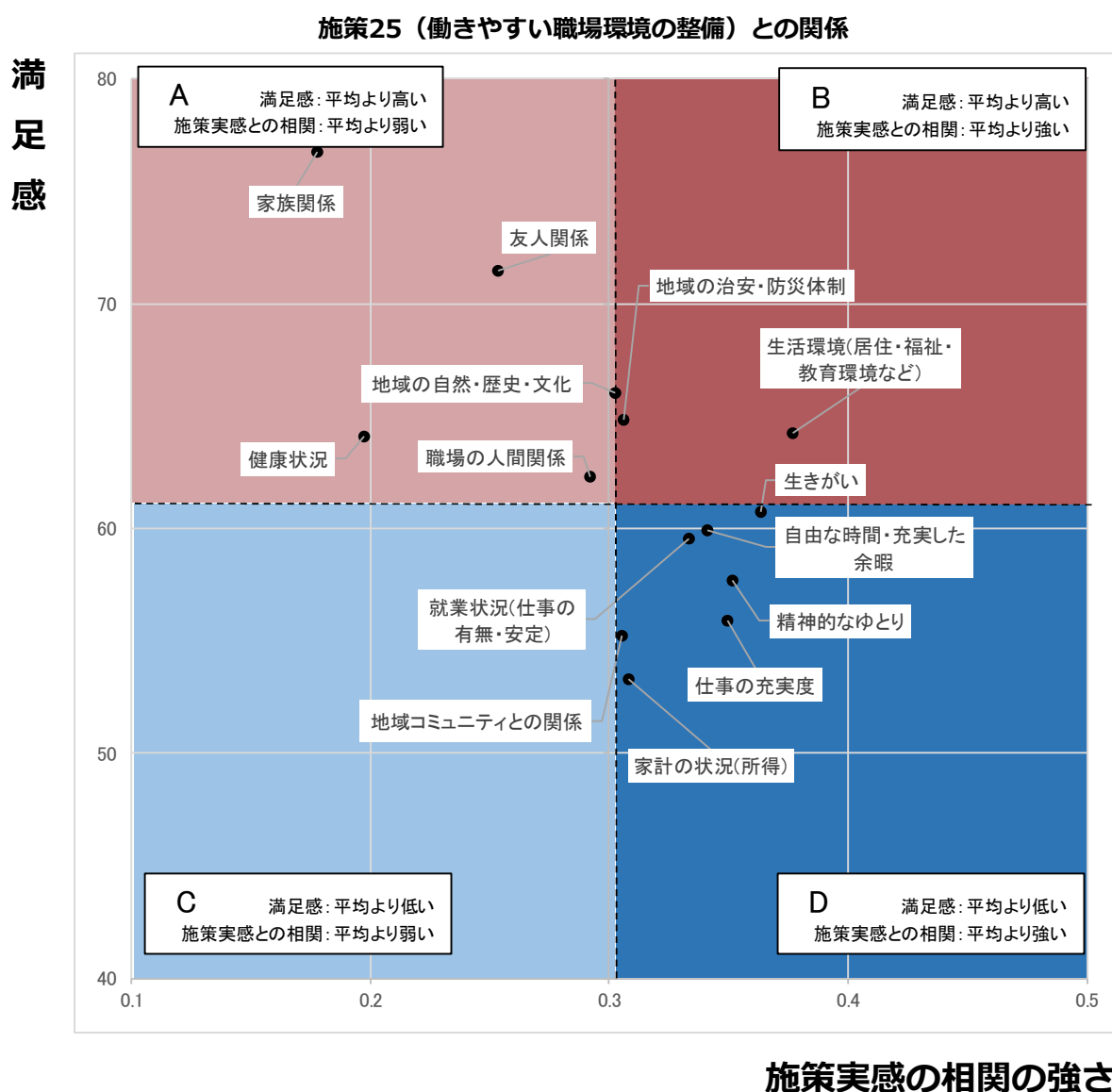
施策 24「十分な収入を得ることができる仕事」の施策実感と相関が強く、満足感が低い「D 重点的改善領域」の項目は、「家計の状況（所得）」、「仕事の充実度」、「生きがい」、「就業状況（仕事の有無・安定）」、「精神的なゆとり」、「地域コミュニティとの関係」、「自由な時間・充実した余暇」となっています。

施策 24 の施策実感と相関が強く、満足感も高い「B 重点的維持領域」の項目は、「生活環境（居住・福祉・教育環境など）」でした。

なお、施策実感との相関の強さ（相関係数）については、最も相関が高い「生活環境（居住・福祉・教育環境など）」でも 0.36 にとどまっており、いずれの項目も強い相関まではみられませんでした※。

※一般的に、相関係数が 0.2 を超えると弱い相関があると認められ、0.7 を超えると強い相関があると認められます。

《満足感の平均得点と施策実感（施策 25）との相関の強さの散布図》



— 施策 25 の施策実感と相関が強く、満足感が低い項目は「仕事の充実度」等 —

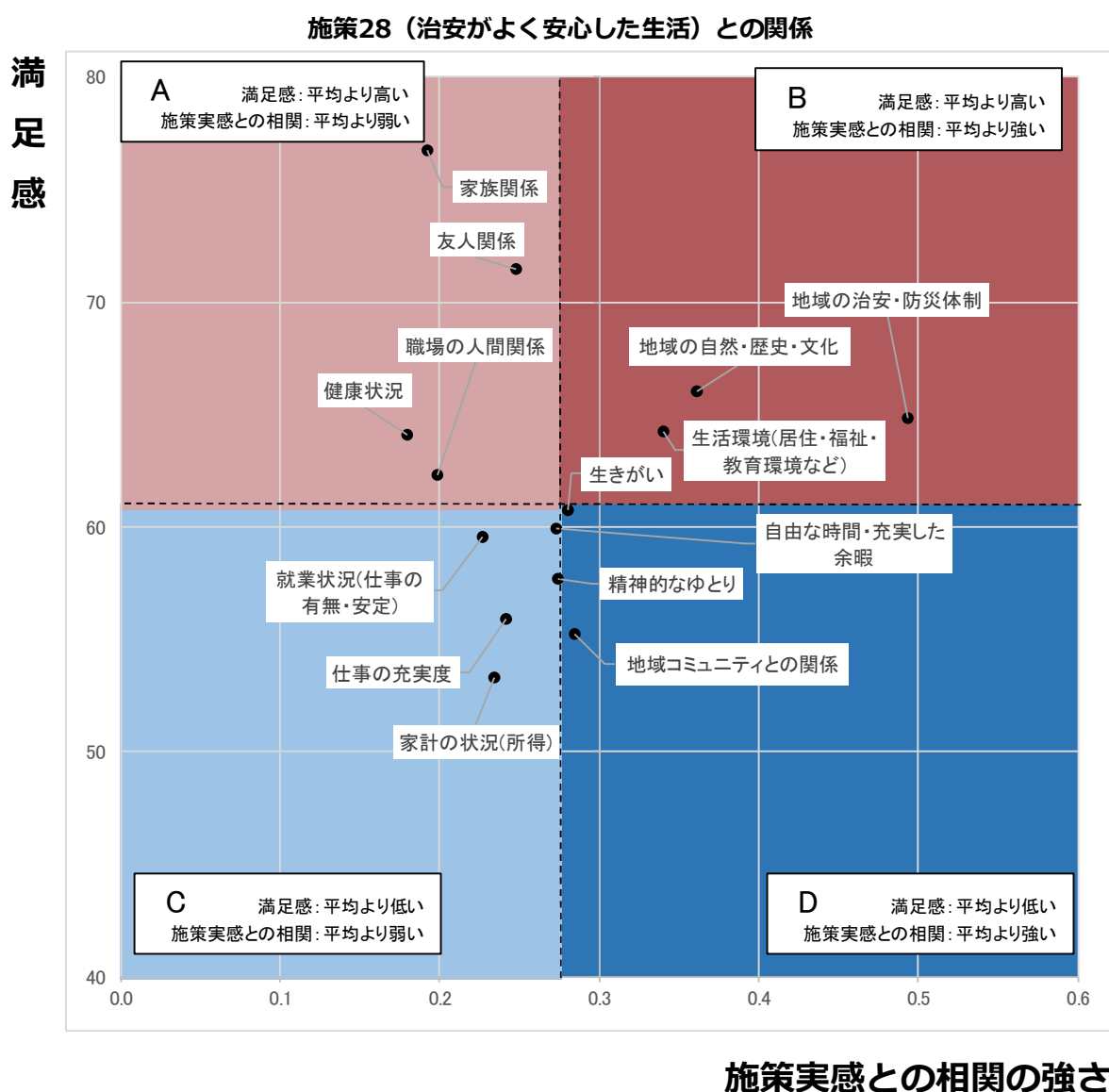
施策 25「働きやすい職場環境の整備」の施策実感と相関が強く、満足感が低い「D 重点的改善領域」の項目は、「仕事の充実度」、「精神的なゆとり」、「生きがい」、「自由な時間・充実した余暇」、「就業状況（仕事の有無・安定）」、「地域コミュニティとの関係」、「家計の状況（所得）」となっています。

施策 25 の施策実感と相関が強く、満足感も高い「B 重点的維持領域」の項目は、「生活環境（居住・福祉・教育環境など）」、「地域の治安・防災体制」などでした。

なお、施策実感との相関の強さ（相関係数）については、最も相関が高い「生活環境（居住・福祉・教育環境など）」でも 0.38 にとどまっており、いずれの項目も強い相関まではみられませんでした※。

※一般的に、相関係数が 0.2 を超えると弱い相関があると認められ、0.7 を超えると強い相関があると認められます。

《満足感の平均得点と施策実感（施策 28）との相関の強さの散布図》



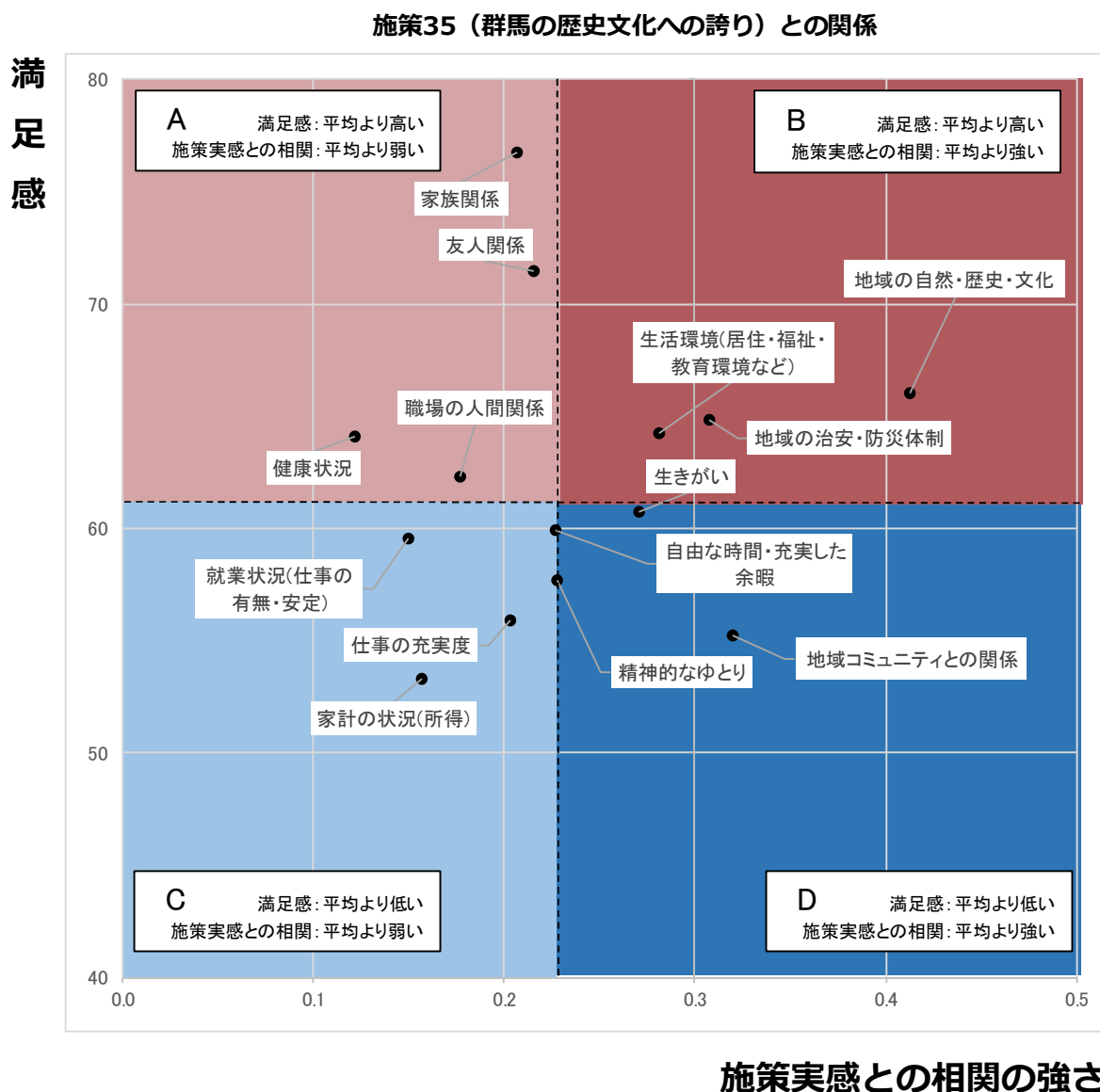
一 施策 28 の施策実感と相関が強く、満足感が低い項目は「地域コミュニティとの関係」等一
 施策 28「治安がよく安心した生活」の施策実感と相関が強く、満足感が低い「D 重点的改善領域」の項目は、「地域コミュニティとの関係」、「精神的なゆとり」、「自由な時間・充実した余暇」となっています。

施策 28 の施策実感と相関が強く、満足感も高い「B 重点的維持領域」の項目は、「地域の治安・防災体制」、「地域の自然・歴史・文化」などでした。

なお、施策実感との相関の強さ（相関係数）については、最も相関が高い「地域の治安・防災体制」でも 0.49 にとどまっており、いずれの項目も強い相関まではみられませんでした※。

※一般的に、相関係数が 0.2 を超えると弱い相関があると認められ、0.7 を超えると強い相関があると認められます。

《満足感の平均得点と施策実感（施策 35）との相関の強さの散布図》



一 施策 35 の施策実感と相関が強く、満足感が低い項目は「地域コミュニティとの関係」等一
施策 35「群馬の歴史文化への誇り」の施策実感と相関が強く、満足感が低い「D 重点的改善領域」の項目は、「地域コミュニティとの関係」、「生きがい」、「精神的なゆとり」、「自由な時間・充実した余暇」となっています。

施策 35 の施策実感と相関が強く、満足感も高い「B 重点的維持領域」の項目は、「地域の自然・歴史・文化」、「地域の治安・防災体制」などでした。

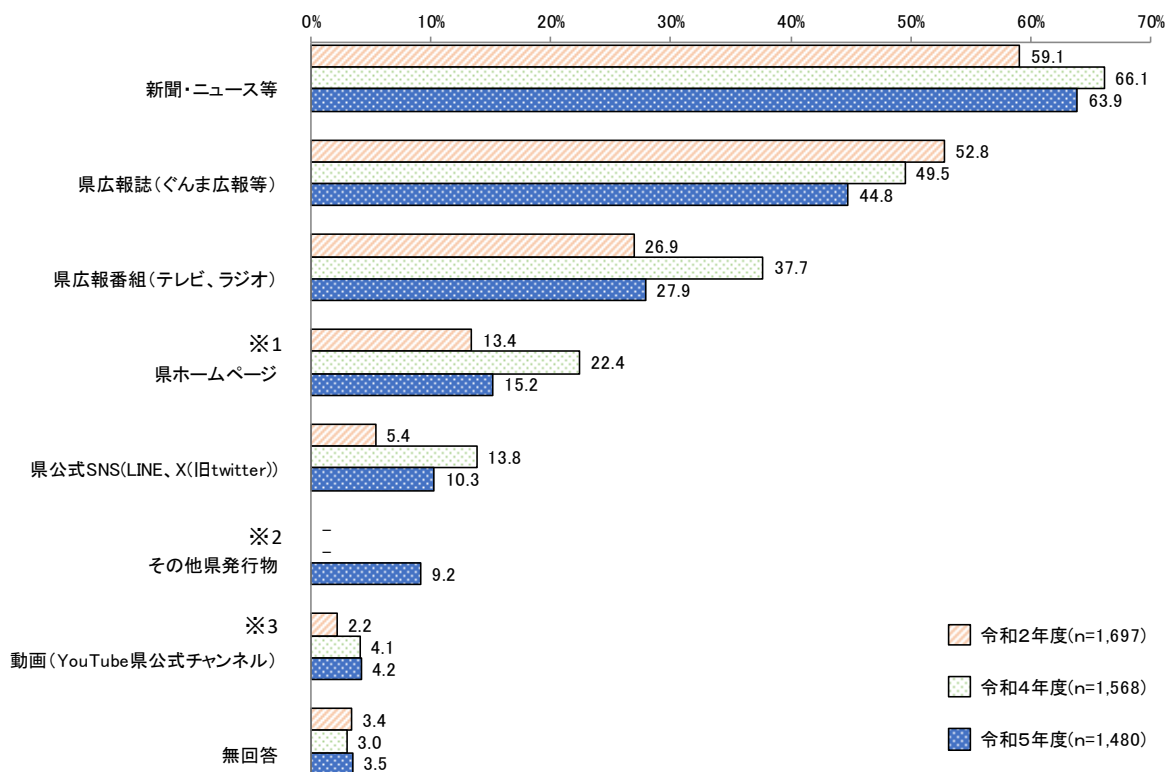
なお、施策実感との相関の強さ（相関係数）については、最も相関が高い「地域の自然・歴史・文化」でも 0.41 にとどまっており、いずれの項目も強い相関まではみられませんでした※。

※一般的に、相関係数が 0.2 を超えると弱い相関があると認められ、0.7 を超えると強い相関があると認められます。

4. 情報発信について

(1) 県政に関する情報の入手媒体

Q あなたは、県政に関する情報をどのような媒体から入手していますか。あなたの状況にあてはまるすべての番号に○をつけてください。(○はいくつでも)



※1 令和2年度、令和3年度は「YouTube(tsulunos)」という項目で聴取、参考として示すに留める
 ※2 今年度(令和5年度)の新設選択肢のため、令和2年度、令和4年度は(-)で示す

— 情報の入手媒体は「新聞・ニュース等」が6割台 —

【全体結果】

県政に関する情報の入手媒体について、「新聞・ニュース等」(63.9%)が最も高く6割台、次いで「紙広報誌(ぐんま広報等)」(44.8%)となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、「県広報番組(テレビ、ラジオ)」で9.8ポイント、「県ホームページ」で7.2ポイントそれぞれ減少しています。

【属性別結果】

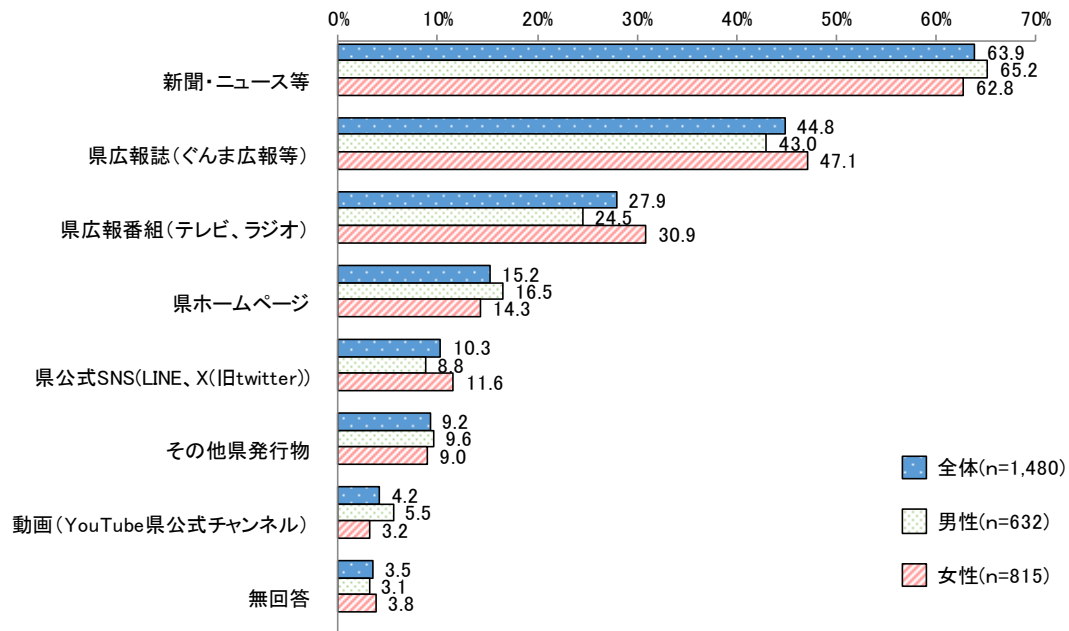
ア 性別

「県広報番組(テレビ、ラジオ)」では、男性(24.5%)に比べて女性(30.9%)が6.4ポイント高くなっています。

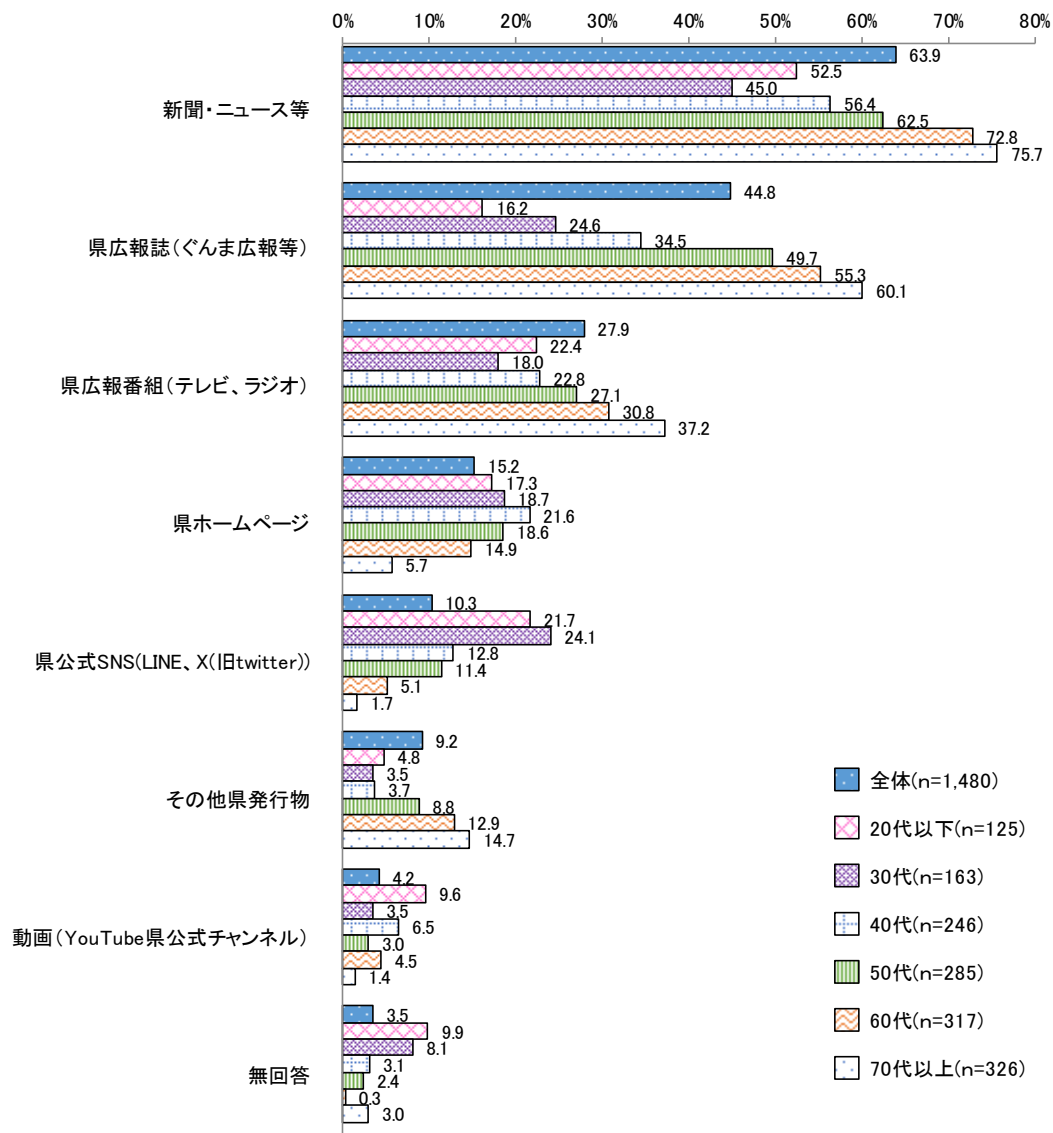
イ 年代別

すべての年代で「新聞・ニュース等」が最も高くなっています。次いで20代以下では「県広報番組(テレビ、ラジオ)」、30代以上では「県広報誌(ぐんま広報等)」がそれぞれ高くなっています。

【性別】

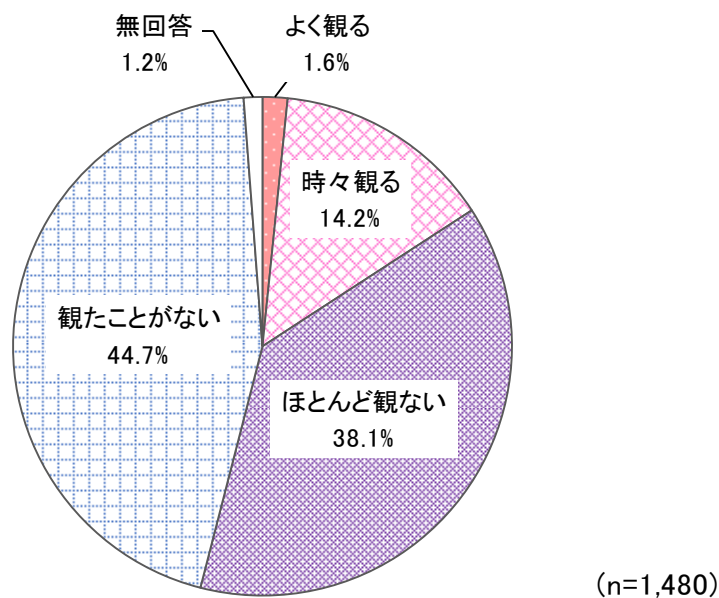


【年代別】



(2) 群馬県制作動画の視聴頻度

Q あなたは、県が制作した動画をどのくらいの頻度で視聴したことがありますか。あなたの状況にあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ)



— 県が制作した動画を『観る』は1割半ば —

【全体結果】

県が制作した動画について、「よく観る」(1.6%)と「時々観る」(14.2%)を合わせた『観る』(15.8%)は1割半ばとなっています。「ほとんど観ない」(38.1%)は3割台、「観たことがない」(44.7%)は4割台となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、『観る』は3.7ポイント減少しています。

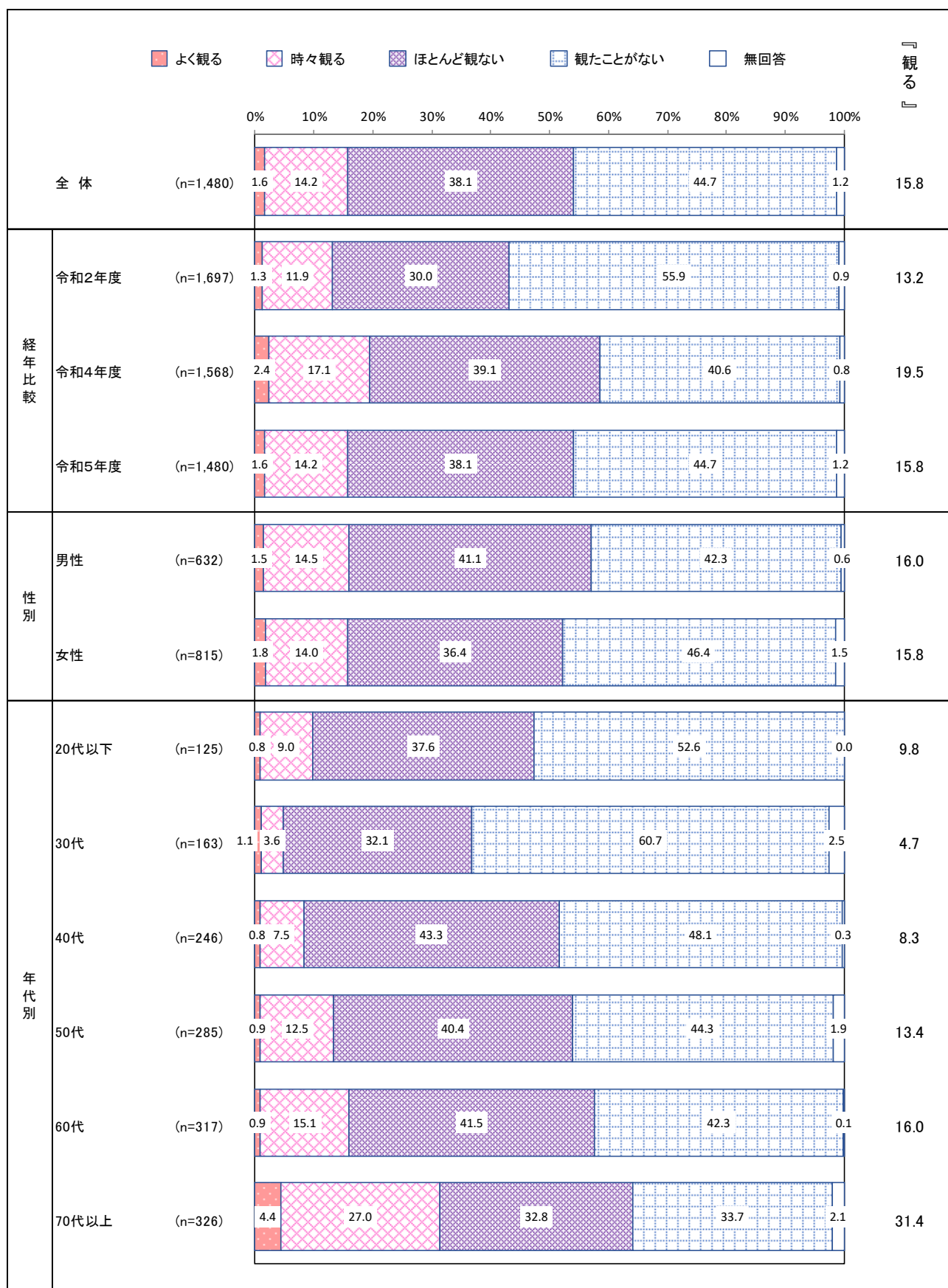
【属性別結果】

ア 性別

性別による大きな差はみられません。

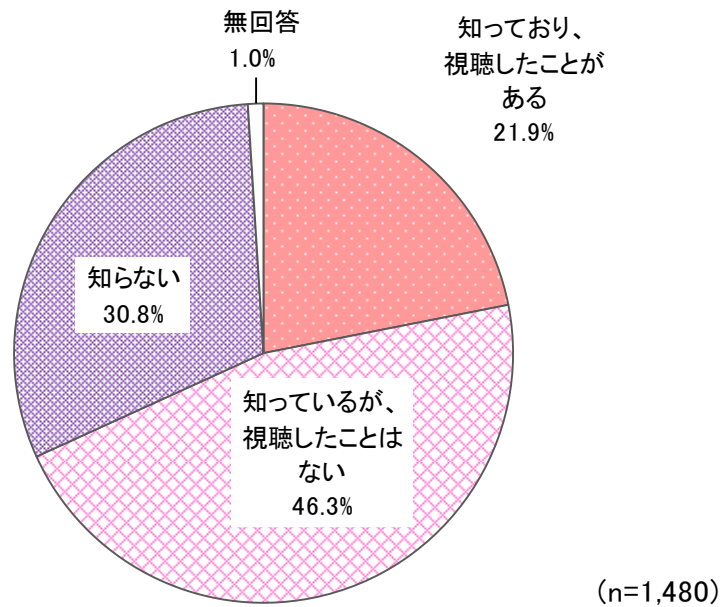
イ 年代別

『観る』は、70代以上(31.4%)で最も高く3割台、30代(4.7%)では最も低く1割未満となっています。「観たことがない」は、30代(60.7%)で約6割、20代以下(52.6%)で5割台と他の年代に比べて高くなっています。



(3) アニメ「ぐんまちゃん」の認知度・視聴状況

Q あなたは、群馬県が県のマスコットぐんまちゃんのアニメをテレビや動画配信サービスで放送・配信していることを知っていますか。あなたの状況にあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ)



— アニメ「ぐんまちゃん」を『知っている』は7割弱 —

【全体結果】

アニメ「ぐんまちゃん」について、「知っている、視聴したことがある」(21.9%)は2割台となっています。「知っているが、視聴したことはない」(46.3%)と合わせた『知っている』(68.2%)は7割弱となっています。「知らない」(30.8%)は約3割となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、『知っている』の割合が0.4ポイント減少したものの、いずれの項目もほとんど変化はありません。

【属性別結果】

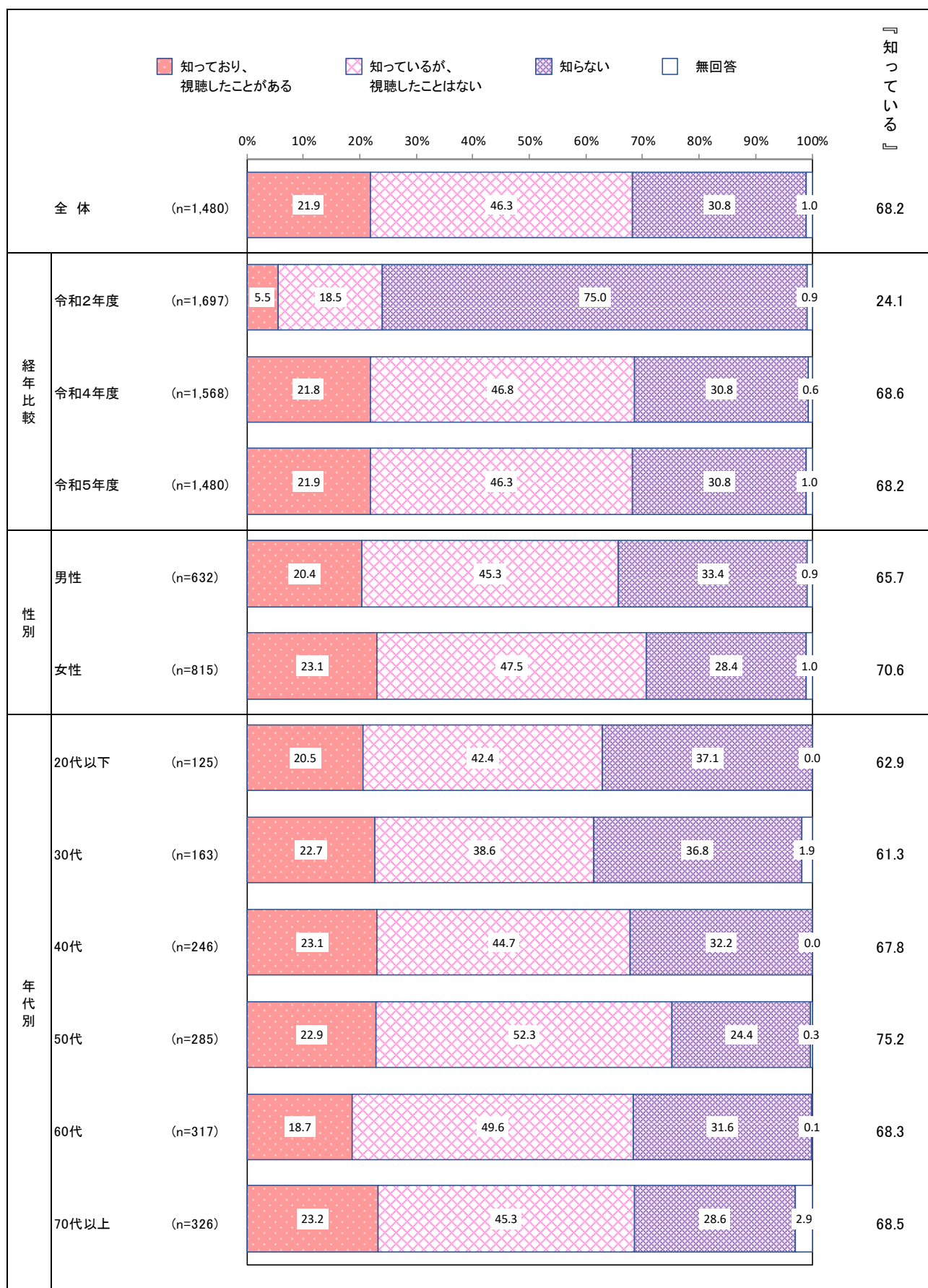
ア 性別

『知っている』は、男性(65.7%)に比べて女性(70.6%)で約5ポイント高くなっています。

イ 年代別

『知っている』は、50代(75.2%)で最も高く、その他の年代はいずれも6割台となっています。

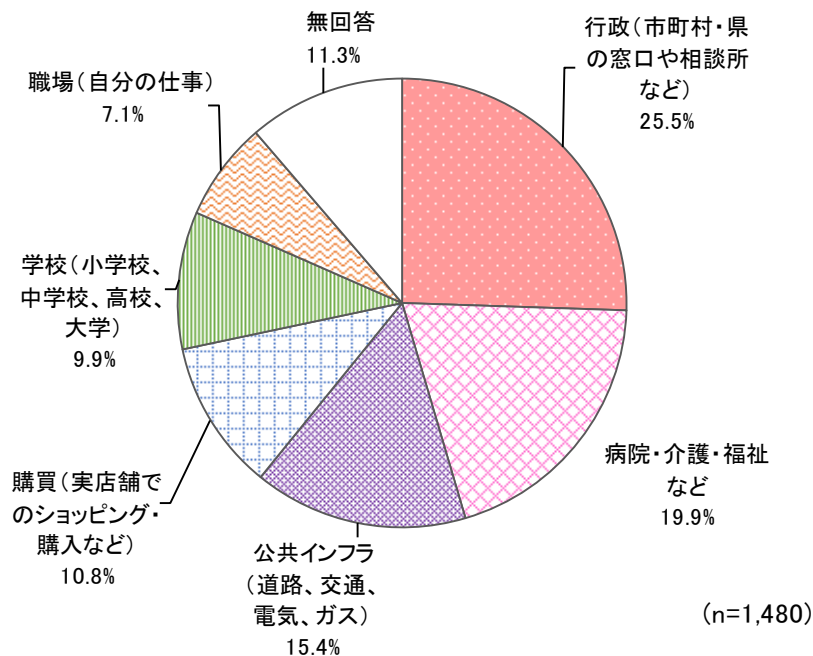
「知っている、視聴したことがある」は、60代が1割台、その他の年代は2割台となっています。「知っているが、視聴したことはない」は、50代が5割台、60代が約5割と他の年代に比べてやや高くなっています。



5. デジタルトランスフォーメーション（DX）について

（1）デジタル化の推進意向

Q あなたは、今後、生活や仕事等どのようなシーンでデジタル化が進んでほしいと思いますか。
あなたが特にデジタル化が進んでほしいと思うものを1つ選び、番号に○をつけてください。
（○は1つだけ）



— デジタル化の推進意向は、「行政（市町村・県の窓口や相談所など）」が2割半ば —

【全体結果】

デジタル化の推進意向について、「行政（市町村・県の窓口や相談所など）」（25.5%）が最も高く2割半ば、次いで「病院・介護・福祉など」（19.9%）、「公共インフラ（道路、交通、電気、ガス）」（15.4%）となっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、「行政（市町村・県の窓口や相談所など）」は3.3ポイント減少したものの、「職場（自分の仕事）」は約3ポイント増加しました。

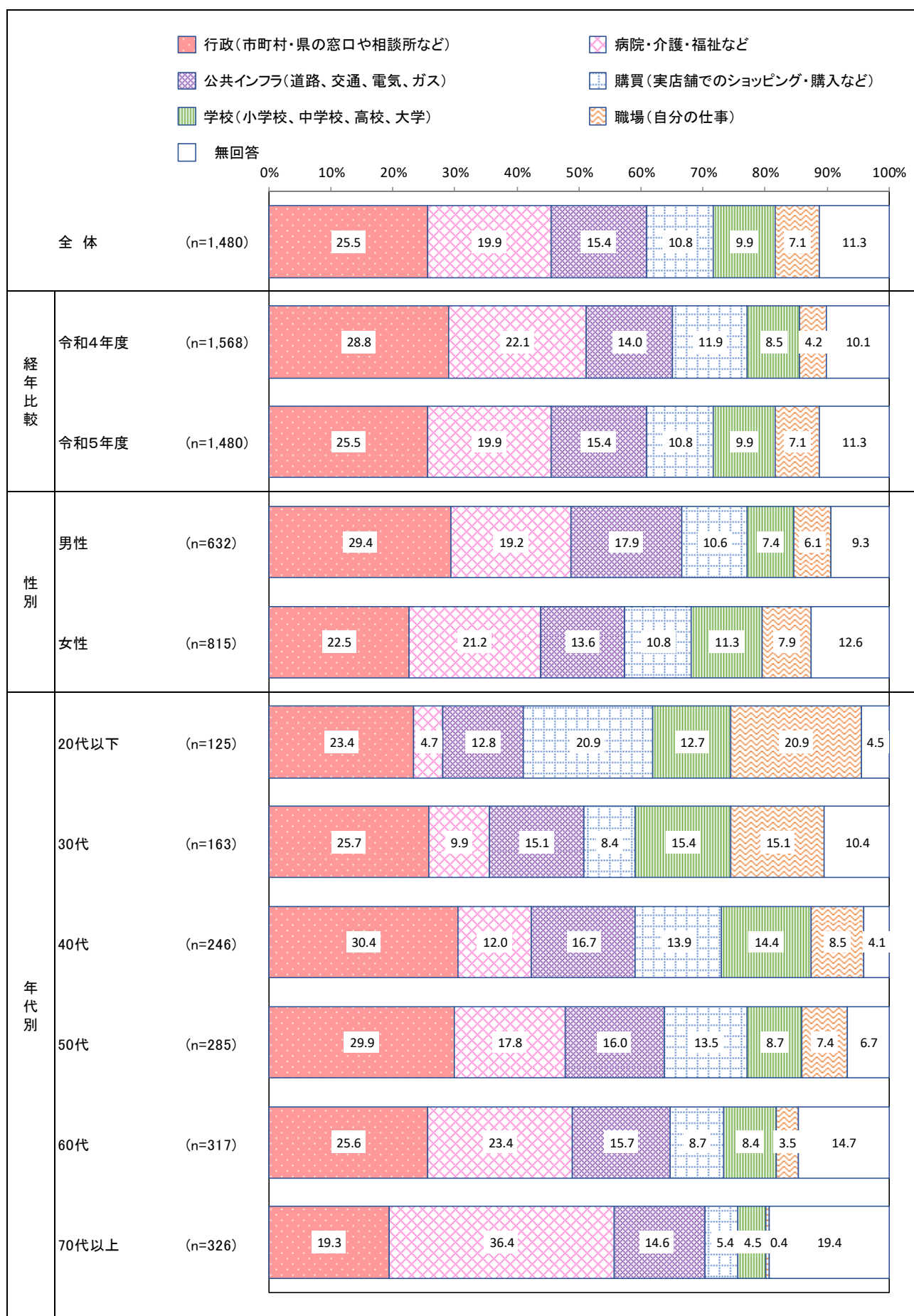
【属性別結果】

ア 性別

「行政（市町村・県の窓口や相談所など）」は女性（22.5%）に比べて男性（29.4%）が約7ポイント高くなっています。「学校（小学校、中学校、高校、大学）」は男性（7.4%）に比べて女性（11.3%）が約4ポイント高くなっています。

イ 年代別

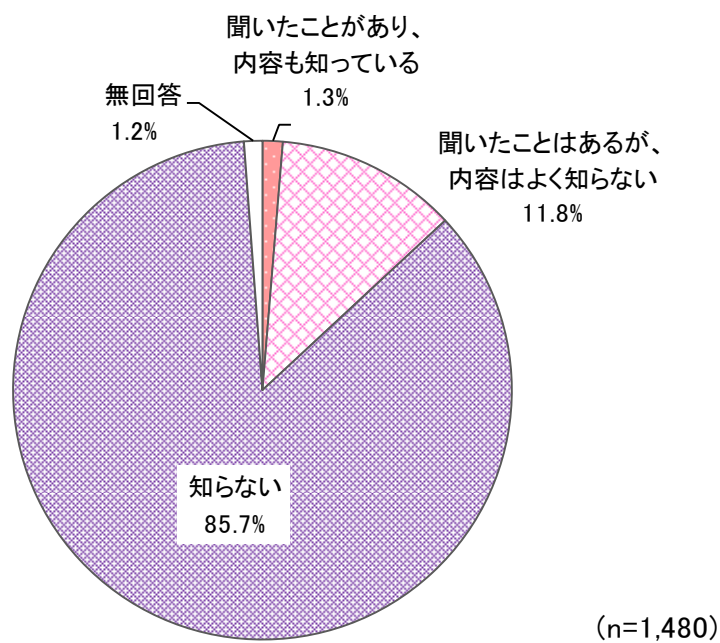
70代以上では「病院・介護・福祉など」、20代以下と30代から60代では「行政（市町村・県の窓口や相談所など）」がそれぞれ最も高くなっています。



6. 新・群馬県総合計画について

(1) 『始動人』の認知度

Q あなたは、県が策定した新・総合計画「ビジョン」のキーワードとしている『始動人(しどうじん)』を聞いたことがありますか。あなたの状況にあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つだけ)



— 『始動人』を「知らない」が8割半ば —

【全体結果】

『始動人』の認知度について、「聞いたことがあり、内容も知っている」はわずか1.3%となっています。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」(11.8%)と合わせた『聞いたことがある』(13.1%)は1割台となっており、「知らない」(85.7%)は8割半ばとなっています。

【前回調査との比較結果】

令和4年度調査と比較すると、『聞いたことがある』は2.8ポイント減少しています。

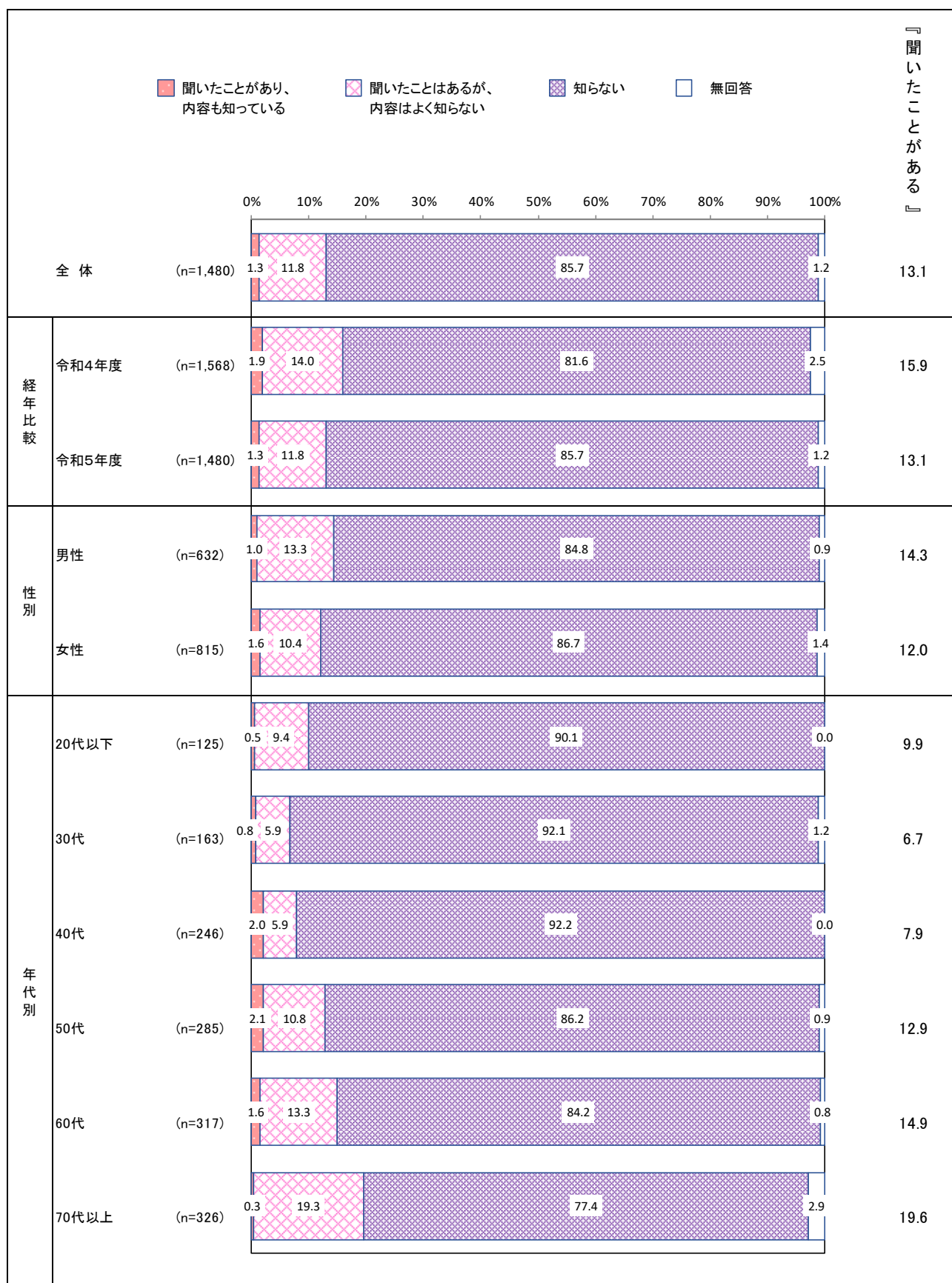
【属性別結果】

ア 性別

『聞いたことがある』は女性(12.0%)に比べて男性(14.3%)が2.3ポイント高くなっています。

イ 年代別

『聞いたことがある』は50代以上が1割を超えており、特に70代以上は約2割となっています。また、「知らない」は40代以下で9割台となっています。



(付) 調査票

群馬県から **大切なお願い** です。

あなたの **声** をお聞かせください

～ 令和5年度 県民幸福度アンケート ～



群馬県では、県民の「幸福度向上」を大きな目標としています。皆さまの「幸福」とは何か、また日頃の生活で感じていることを本アンケートでお聞かせいただくことで、必要な施策を講じたいと考えています。

全ての県民が幸福を実感できる社会を実現するために、是非あなたの声をお聞かせください。

令和5年9月

群馬県知事 **山本 一太**

群馬県内にお住まいの満18歳以上の方を対象に、選挙人名簿から3,300人を無作為に抽出し調査票を送付しています。住所や氏名などの個人情報、回答の有無に関わらず、他の目的には使用せず、調査終了後には速やかに廃棄・消去します。

無記名回答で集計値のみを用いますので、個人や個別の回答が特定されることは一切ありません。
回答時間は約10分です。貴重なお時間を頂きますが、ご協力をお願いします。

<< ご回答前にお読みください >>

- 1 **あて名のご本人**がお答えください（代筆・代理入力による回答も可能です）。
- 2 次のいずれかの方法でご回答ください。

■ **オンライン上で回答**

>> 令和5年10月6日（金）23:59までに回答送信

- パソコン、スマートフォン、タブレットを使い、右図のQRコードを読み込むか、

以下のアドレスを入力し、回答用ページを開き、入力してください。

<https://kktsr.com/gunmakofukur5>

- 本調査票を返送いただく必要はありません。



■ **調査票に記入して回答**

>> 令和5年10月6日（金）までに投函

- あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
- 回答する数（○をつける数）は、各設問の（ ）内の表記をご参照ください。
- 記入済みの本調査票を同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください（切手は不要です）。

お問合せ先

群馬県 戦略企画課 総合計画・EBPM推進室

電話 : 027-226-2405（直通）

メール : keikaku@pref.gunma.lg.jp

※調査の取りまとめ・集計は、群馬県より委託した（株）東京商工リサーチ前橋支店が行います。

最初に、「幸福」に関する考え方などについてお聞きます。

Q1 あなたは現在、幸せだと感じていますか。

最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | |
|---|---------------|
| 1 | 幸せだと感じている |
| 2 | やや幸せだと感じている |
| 3 | どちらともいえない |
| 4 | あまり幸せだと感じていない |
| 5 | 幸せだと感じていない |

Q2 現在のあなたが、「幸せ」かどうかを判断する際に重視した事項は何ですか。

次の1～15の中から、特に重視したものを3つ選び、番号に○をつけてください。

(○は3つ)

- | | | | |
|---|--------------------|----|--------------|
| 1 | 健康状況 | 9 | 職場の人間関係 |
| 2 | 家計の状況(所得) | 10 | 地域コミュニティとの関係 |
| 3 | 就業状況(仕事の有無・安定) | 11 | 精神的なゆとり |
| 4 | 生活環境(居住・福祉・教育環境など) | 12 | 生きがい |
| 5 | 地域の治安・防災体制 | 13 | 仕事の充実度 |
| 6 | 地域の自然・歴史・文化 | 14 | 自由な時間・充実した余暇 |
| 7 | 家族関係 | 15 | その他 |
| 8 | 友人関係 | | |

Q3 10年後のあなたを想像してお答えください。

10年後のあなたが、「幸せ」かどうかを判断する際に、重視するだろうと考えられる事項は何ですか。

次の1～15の中から、特に重視するだろうと考えられるものを3つ選び、番号に○をつけてください。

(○は3つ)

- | | | | |
|---|--------------------|----|--------------|
| 1 | 健康状況 | 9 | 職場の人間関係 |
| 2 | 家計の状況(所得) | 10 | 地域コミュニティとの関係 |
| 3 | 就業状況(仕事の有無・安定) | 11 | 精神的なゆとり |
| 4 | 生活環境(居住・福祉・教育環境など) | 12 | 生きがい |
| 5 | 地域の治安・防災体制 | 13 | 仕事の充実度 |
| 6 | 地域の自然・歴史・文化 | 14 | 自由な時間・充実した余暇 |
| 7 | 家族関係 | 15 | その他 |
| 8 | 友人関係 | | |

Q4 現在のあなたご自身の気持ちについてお答えください。

次の1～14の各項目について、あなたはどの程度満足していますか。最も近いものをそれぞれ1つずつ選び、番号に○をつけてください。

(○はそれぞれ1つ)

	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。				
	満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない
1 健康状況	5	4	3	2	1
2 家計の状況(所得)	5	4	3	2	1
3 就業状況(仕事の有無・安定)	5	4	3	2	1
4 生活環境(居住・福祉・教育環境など)	5	4	3	2	1
5 地域の治安・防災体制	5	4	3	2	1
6 地域の自然・歴史・文化	5	4	3	2	1
7 家族関係	5	4	3	2	1
8 友人関係	5	4	3	2	1
9 職場の人間関係	5	4	3	2	1
10 地域コミュニティとの関係	5	4	3	2	1
11 精神的なゆとり	5	4	3	2	1
12 生きがい	5	4	3	2	1
13 仕事の充実度	5	4	3	2	1
14 自由な時間・充実した余暇	5	4	3	2	1

Q5 Q4の12「生きがい」について、満足感を判断する際に重視したことは何ですか。

次の1～7の中から特に重視したことを最大3つまで選び○を付けてください。

(○は最大3つ)

1 趣味・レジャー	5 自分自身の健康作り
2 家族・ペット	6 社会活動
3 仕事・学業	7 その他
4 友人など家族以外の人との交流	

Q6 Q4の13「仕事の充実度」について、満足感を判断する際に重視したことは何ですか。

次の1～6の中から特に重視したことを最大3つまで選び○を付けてください。

(○は最大3つ)

1 やりがいのある業務内容	4 人間関係・組織風土
2 オフィス環境	5 収入・報酬
3 研修・学びの機会の充実	6 その他

Q7 次の1～14の各項目について、新型コロナが5類感染症移行したことであなたの満足度に変化はありましたか。最も近いものをそれぞれ1つずつ選び、番号に○をつけてください。

**※5類感染症移行による主な変更点：行動制限がなくなった、幅広い医療機関で受診可能になった
感染対策が個人の判断に委ねられることになった 等**

(○はそれぞれ1つ)

	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。				
	満足度が 上がった	満足度が やや 上がった	変化は ない	満足度が やや 下がった	満足度が 下がった
1 健康状況	5	4	3	2	1
2 家計の状況(所得)	5	4	3	2	1
3 就業状況(仕事の有無・安定)	5	4	3	2	1
4 生活環境(居住・福祉・教育環境など)	5	4	3	2	1
5 地域の治安・防災体制	5	4	3	2	1
6 地域の自然・歴史・文化	5	4	3	2	1
7 家族関係	5	4	3	2	1
8 友人関係	5	4	3	2	1
9 職場の人間関係	5	4	3	2	1
10 地域コミュニティとの関係	5	4	3	2	1
11 精神的なゆとり	5	4	3	2	1
12 生きがい	5	4	3	2	1
13 仕事の充実度	5	4	3	2	1
14 自由な時間・充実した余暇	5	4	3	2	1

次に、あなたご自身の現在のことについてお答えください。

お答えいただく内容を統計的に分析するために、以下のような情報が必要です。
本アンケートは無記名回答であり、個人が特定されることは一切ありません。
 ご協力をお願いいたします。

Q8 あなたの性別をお答えください。あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つだけ)

1 男性	3 その他
2 女性	4 答えたくない

Q9 あなたの年齢をお答えください。あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つだけ)

1 18～19歳	5 50～59歳	8 70～74歳
2 20～29歳	6 60～64歳	9 75～79歳
3 30～39歳	7 65～69歳	10 80歳以上
4 40～49歳		

Q10 あなたの主な職業をお答えください。あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つだけ)

1 自営業・自由業(家族従事者も含む)	6 非正規雇用者(パートタイム勤務)
2 会社役員・団体役員	7 無職(専業主婦・主夫、退職者も含む)
3 正規雇用者(フルタイム勤務)	8 学生(アルバイトをしている人も含む)
4 正規雇用者(パートタイム勤務)	9 その他
5 非正規雇用者(フルタイム勤務)	

Q11 あなたのお住まいの市町村名をお答えください。あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つだけ)

県央エリア	1 前橋市	利根沼田エリア	16 沼田市	東部エリア	27 桐生市
	2 伊勢崎市		17 片品村		28 太田市
	3 渋川市		18 川場村		29 館林市
	4 榛東村		19 昭和村		30 みどり市
	5 吉岡町		20 みなかみ町		31 板倉町
	6 玉村町		21 中之条町		32 明和町
西部エリア	7 高崎市	吾妻エリア	22 長野原町		33 千代田町
	8 藤岡市		23 嬬恋村		34 大泉町
	9 富岡市		24 草津町		35 邑楽町
	10 安中市		25 高山村		
	11 上野村		26 東吾妻町		
	12 神流町				
	13 下仁田町				
	14 南牧村				
	15 甘楽町				

Q12 あなたは、群馬県外で暮らしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | 生まれてからずっと群馬県に住んでいる |
| 2 | 群馬県で生まれて、県外に転出したが、再び転入してきた |
| 3 | 県外で生まれたが、群馬県に転入してきた |
| 4 | その他 |

Q13 あなたは群馬県に住んで通算何年になりますか。あてはまるものに○をつけてください。

※通算：転出した期間の前後を合算した期間

(○は1つだけ)

- | | | | |
|---|---------|---|----------|
| 1 | 1年未満 | 4 | 10～20年未満 |
| 2 | 1～5年未満 | 5 | 20年以上 |
| 3 | 5～10年未満 | | |

Q14 あなたの世帯構成をお答えください。あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | | | |
|---|----------------|---|----------------|
| 1 | 単身世帯（ひとり暮らしなど） | 4 | 3世代世帯（親と子と孫など） |
| 2 | 1世代世帯（夫婦のみなど） | 5 | その他 |
| 3 | 2世代世帯（親と子など） | | |

Q15 あなたの世帯全体の年間収入（税込み、ボーナスも含む）はどのくらいですか。

あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | | | |
|---|--------------|---|----------------|
| 1 | 100万円未満 | 5 | 600万～800万円未満 |
| 2 | 100万～200万円未満 | 6 | 800万～1,000万円未満 |
| 3 | 200万～400万円未満 | 7 | 1,000万円以上 |
| 4 | 400万～600万円未満 | 8 | わからない |

Q16 あなたは結婚（事実婚を含む）していच्छやいますか。あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 未婚（結婚したことはない） |
| 2 | 既婚・配偶者あり（現在、夫または妻がいる） |
| 3 | 既婚・死別（結婚したことはあるが、死別した） |
| 4 | 既婚・離別（結婚したことはあるが、離別した） |

Q17 あなたにはお子さんがいच्छやいますか（同居・別居は問いません）。

次のうちあてはまるものすべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|-------------------|---|-----------|
| 1 | 小学校入学前（乳幼児含む） | 6 | 学校教育修了で同居 |
| 2 | 小学生 | 7 | 学校教育修了で別居 |
| 3 | 中学生 | 8 | その他 |
| 4 | 高校生 | 9 | 子どもはいない |
| 5 | 専門学校、短大、大学、大学院に在学 | | |

次に、あなたの「群馬県に対する気持ち」をお聞きます。

Q18 あなたが思う「群馬県のよいところ」はどのようなところですか。

次の1～18の中から、該当するすべての番号に○をつけてください。

(○はいくつでも)

《 生活・くらし 》

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 自然や水が豊かであること | 4 高齢になっても住みやすい環境であること |
| 2 交通網が発達し日本各地へのアクセスがよいこと | 5 物価が安いこと |
| 3 都心部へのアクセスが便利なこと | 6 余暇を楽しむ施設が充実していること |

《 安心・安全・子育て 》

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 7 医療体制が充実していること | 10 教育環境(教育機関・博物館など)が充実していること |
| 8 災害が少なく安心して暮らせること | 11 進学や就職時に選択肢が豊富にあること |
| 9 子育てしやすい環境であること | |

《 文化・魅力 》

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 12 国宝や歴史遺産などの文化財が多いこと | 16 地元産の食材が豊富であること |
| 13 誇れる温泉があること | 17 群馬出身の有名人・著名人が様々な分野で活躍していること |
| 14 有名な観光地があること | 18 メディアで取り上げられる回数が多いこと |
| 15 誇れる土産物や特産物があること | |

Q19 あなたは、群馬県のことを誇りに思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 誇りに思っている | 4 あまり誇りに思っていない |
| 2 やや誇りに思っている | 5 誇りに思っていない |
| 3 どちらともいえない | |

Q20 あなたは、今後も群馬県に住み続けたいと思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 住み続けたい | 4 あまり住み続けたくない |
| 2 やや住み続けたい | 5 住み続けたくない |
| 3 どちらともいえない/こだわりはない | |

群馬県では、情報発信に力を入れています。

Q21 あなたは、県政に関する情報をどのような媒体から入手していますか。

あなたの状況にあてはまるすべての番号に○をつけてください。

(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 県ホームページ | 5 その他県発行物 |
| 2 動画 (YouTube県公式チャンネル) | 6 県広報番組 (テレビ、ラジオ) |
| 3 県公式SNS (LINE、X (旧Twitter)) | 7 新聞・ニュース等 |
| 4 県広報誌 (ぐんま広報等) | |

Q22 あなたは、県が制作した動画をどのくらいの頻度で視聴したことがありますか。

あなたの状況にあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | |
|--------|-----------|
| 1 よく観る | 3 ほとんど観ない |
| 2 時々観る | 4 観たことがない |

Q23 あなたは、群馬県が県のマスコットぐんまちゃんのアニメをテレビや動画配信サービスで放送・配信していることを知っていますか。あなたの状況にあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|--------|
| 1 知っており、視聴したことがある | 3 知らない |
| 2 知っているが、視聴したことはない | |

群馬県では、行政・産業のデジタルトランスフォーメーション (DX) を集中的に推進し、2023年度末に日本最先端クラスのデジタル県となることを目指しています。

※デジタルトランスフォーメーション (DX) : ICT (情報通信技術) の浸透が人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させること

Q24 あなたは、今後、生活や仕事等のどのようなシーンでデジタル化が進んでほしいと思いますか。

あなたが特にデジタル化が進んでほしいと思うものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 購買 (実店舗でのショッピング・購入など) | 4 職場 (自分の仕事) |
| 2 公共インフラ (道路、交通、電気、ガス) | 5 病院・介護・福祉など |
| 3 学校 (小学校、中学校、高校、大学) | 6 行政 (市町村・県の窓口や相談所など) |

群馬県では、2040年に目指す姿を描く「ビジョン」と、これを踏まえて、今後10年間に重点的に取り組む具体的な政策を体系化した「基本計画」の2つをあわせた、新たな総合計画 (新・群馬県総合計画) を策定しました。

Q25 あなたは、県が策定した新・総合計画「ビジョン」のキーワードとしている『始動人 (しどうじん)』を聞いたことがありますか。あなたの状況にあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(○は1つだけ)

- | |
|-----------------------|
| 1 聞いたことがあり、内容も知っている |
| 2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない |
| 3 知らない |

続いて、お住まいの市町村や地域、社会の状況について、あなた自身の実感をお聞きます。

Q26 次の1～40の質問について、あなたの実感に最も近いものをそれぞれ1つずつ選び、番号に○をつけてください。

最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや 感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない
-----	-----------	---------------	-------------	------

「生活・くらし」について、9項目おたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

1	近隣住民同士が困ったときには助け合える地域環境があると感じますか	5	4	3	2	1
2	移住者を受け入れる土壌があると感じますか	5	4	3	2	1
3	性別や年齢、障害の有無、国籍などにとらわれず、社会のあらゆる分野で個性と能力を発揮できていると感じますか	5	4	3	2	1
4	ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会であると感じますか	5	4	3	2	1
5	行政手続きがデジタル化され、利便性が高まっていると感じますか	5	4	3	2	1
6	鉄道・バスなどの公共交通機関が利用しやすいと感じますか	5	4	3	2	1
7	自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間が整備されていると感じますか	5	4	3	2	1
8	地球温暖化防止のため再生可能エネルギー(太陽光発電や水力発電など)の普及や利活用がされていると感じますか	5	4	3	2	1
9	ふだんの暮らしの中で食品ロスを減らすための行動(期限が近い商品の購入など)が定着していると感じますか	5	4	3	2	1

「子育て・教育」について、4項目おたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

10	安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると感じますか	5	4	3	2	1
11	子育てをしながら働き続けられる環境が整っていると感じますか	5	4	3	2	1
12	子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育がされていると感じますか	5	4	3	2	1
13	教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組がされていると感じますか	5	4	3	2	1

最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。				
感じる	やや 感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない

「健康・医療・福祉」について、6項目おたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

14	健診や生活習慣病対策など健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境が整っていると感じますか	5	4	3	2	1
15	自主的な健康づくりを促すための支援が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
16	必要な医療サービス（在宅医療なども含む）を受けられる体制が整っていると感じますか	5	4	3	2	1
17	救急医療体制が整っていると感じますか	5	4	3	2	1
18	介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境があると感じますか	5	4	3	2	1
19	悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境が整っていると感じますか	5	4	3	2	1

「産業」について、7項目おたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

20	群馬県産の農林水産物がブランドとして評価され、県内外に販路が拡大していると感じますか	5	4	3	2	1
21	群馬県では、農林水産業の担い手の確保・育成が十分に行われていると感じますか	5	4	3	2	1
22	公共施設や住宅などに県産材等の木材が使われていると感じますか	5	4	3	2	1
23	群馬県では、森林の管理や利用が適切にされていると感じますか	5	4	3	2	1
24	群馬県には、十分な収入を得ることができる仕事があると感じますか	5	4	3	2	1
25	群馬県内の企業や職場では、働きやすい職場環境が整備されていると感じますか	5	4	3	2	1
26	群馬県では、新たな価値やビジネスを創出するために、行政と民間が連携・協力する体制が整っていると感じますか	5	4	3	2	1

最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。				
感じる	やや 感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない

「安心・安全」について、6項目おたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

27	消費者としての安心・安全が図られていると感じますか	5	4	3	2	1
28	治安がよく安心して生活できると感じますか	5	4	3	2	1
29	交通事故が少なく安全に生活できると感じますか	5	4	3	2	1
30	群馬県では、安心・安全な食品・農畜産物が提供されていると感じますか	5	4	3	2	1
31	地震、豪雨、暴風、火山噴火などの自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策が進んでいると感じますか	5	4	3	2	1
32	災害時に必要な情報提供を受けられる体制が整っていると感じますか	5	4	3	2	1

「文化・スポーツ」について、5項目おたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

33	運動やスポーツに取り組むことができる環境が整っていると感じますか	5	4	3	2	1
34	運動やスポーツを観戦する機会が充実していると感じますか	5	4	3	2	1
35	群馬の歴史文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1
36	芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場が整っていると感じますか	5	4	3	2	1
37	外国人と日本人が国籍・民族・文化の違いを理解し、認め合って暮らすことができていると感じますか	5	4	3	2	1

「魅力・発信」について、3項目おたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

38	群馬県の文化、産業、観光などの魅力が広く世界に発信され、認められていると感じますか	5	4	3	2	1
39	群馬県では、魅力ある観光地づくりが進んでいると感じますか	5	4	3	2	1
40	群馬県には、海外からの観光客にとって魅力的だと思う観光地があると感じますか	5	4	3	2	1

アンケートは以上で終わりです。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

この用紙（調査票）を同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、**10月6日（金）**までに郵便ポストに投函してください。

（オンライン上でご回答いただいた方は、調査票の返送は不要です。）

ご回答いただいた内容については統計的に分析し、県政運営のための貴重な資料として活用させていただきます。

令和 5 年 12 月

群馬県 知事戦略部 戦略企画課

〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1 - 1 - 1